

完了報告書

記入年月日 令和8年2月16日

採択団体名 早稲田学区自主防災連絡協議会

■事業概要

基本情報	
事業名	早稲田学区防災教育地域連携推進事業
事業内容	事業内容①: 自主防災連絡協議会が学校の先生と一緒に実施する防災授業 事業内容②: 公民館と地域団体が合同で実施する校外での防災体験学習 事業内容③: 小学生から高校生を対象とした防災リーダーの育成
事業背景	早稲田学区(広島市東区)では、平成30年西日本豪雨で被災した後に作成した早稲田学区地区防災計画に基づき地域防災活動を実施しており、子供の防災教育についても、重点テーマとして取り組んでいる。 取り組み開始後、今年度で5年が経過するこの機において、これまでの活動を総括するとともに、大規模な災害があった地域での取り組みなどについて調査し、その結果を地域に還元することで、さらに学校と地域の連携を強化し、コミュニティが一体となった防災教育を推進できるような事業として取り組むものである。
コミュニティ設立の経緯	早稲田学区自主防災連絡協議会は、学区の地域活動をまとめる早稲田学区社会福祉協議会の構成団体の一つとして、平成14年に創設され、主に地域防災活動を担当し活動している。 この、自主防災連絡協議会には、設立当初から小学校・中学校といった教育機関や公民館などのコミュニティ施設が所属して活動を展開している。 また、令和3年度からは地域外にもネットワークを広げ、警察や医師会、メディア、民間企業、NPO法人などの災害時に地域を関係する期間・団体が参加する早稲田学区地域防災プラットフォームを設置し、ネットワーク構成団体を広げて、地域防災活動を進めている。 以上の構成団体において、学校での防災授業や地域での子供や保護者を対象とした防災活動などに取り組み、地域の防災教育が充実したものとなるよう取り組んでいる。
本事業に関する過去の取り組み内容	・小学校、中学校における防災学習(主体: 早稲田学区自主防災連絡協議会の所属団体) ・公民館を拠点とした子供・保護者を対象とした防災体験教育(主体: 早稲田学区自主防災連絡協議会の所属団体) ・子供の防災リーダーの育成(主体: 早稲田学区地域防災プラットフォームの参加機関・団体)
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田学区自主防災連絡協議会 : 事業内容①②③全般 約30名 ・広島市立早稲田中学校 : 事業内容①③全般 約20名 ・広島市立早稲田小学校 : 事業内容①③全般 約10名 ・早稲田公民館 : 事業内容②③全般 4名 ・東区役所 : 事業内容②③の支援 約6名 ・広島東消防署 : 事業内容①③の支援 約4名 ・NPO法人IMAGINUS : 事業内容③の支援 約10名 ・(株)トータテハウジング : 事業内容③の支援 2名
全体スケジュール	<p><11月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校の授業で使用する「防災学習の手引き」の基礎資料整理 ・小学校、中学校での「防災学習の手引き」に関するヒアリング調査 ・小学校(3年生)の防災学習の実施 ・公民館でのこれまでの活動についての整理についての打合せ ・子ども防災リーダー参加の地域防災活動の実施 ・アドバイザーとの事業に関するミーティングの実施 <p><12月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年能登半島地震の被災地での視察研修会実施 ・小学校、中学校の「防災学習の手引き」構成案の作成、関係資料の収集 <p><1月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー参加による検討委員会の開催 ・中学校(1年生)の防災学習の実施 ・小学校、中学校の「防災学習の手引き」原稿作成 ・公民館の防災体験学習の内容とりまとめ

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>〈早稲田学区自主防災連絡協議会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携した防災教育について手引書を作成して、教員の負担軽減と持続的に防災教育を取り組める環境を整える ・校外で実施する防災体験学習について、取り組みに参加する組織のネットワークを作る <p>〈早稲田中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を通じて生徒が災害時に能動的に行動できるよう育成する <p>〈早稲田小学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を通じて児童に地域における防災の意識付けを行う <p>〈早稲田公民館〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災体験学習の地域拠点としての機能を発揮する
事業成果全般 (教育提供者)	<p>〈早稲田学区自主防災連絡協議会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の内容を手引き書としてとりまとめることで、新たに活動に参加するメンバーも学習内容や目的を理解して参加でき、世代交代を進めながら持続的に活動できるツールができた。 <p>〈早稲田中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地見学など校外での防災学習を取り入れ、生徒が自ら防災について考えるきっかけ作りを増やすことで、生徒たちが防災を自分事化し防災行動や備えについて考える学習につながった。 <p>〈早稲田小学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち探検による校外学習からあんぜんマップの作成を通じて防災について授業で考えていくことで、防災の意識付けができた。 <p>〈早稲田公民館〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災体験学習の実施マニュアルを作成することで、防災教育の活動計画を積極的に立案できるようになり、学習の地域拠点としての機能を発揮するツールができた。
事業目標全般 (参加者側)	<p>〈中学校の生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田学区の特性を知り、防災について自ら考え、行動できる生徒になる <p>〈小学校の児童〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における災害の危険性などを知り、防災の意識付けをする
事業成果全般 (参加者側)	<p>〈中学校の生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が協働で実施した防災学習を通じて、生徒たちは自分の命を守るための備えと防災行動について学習し、防災行動の自分事化を進めてマイタイムラインとしてまとめ、行動するために必要なことをディスカッションすることで行動の基礎を作ることができた。 <p>〈小学校の児童〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は早稲田学区における災害の危険性を初めて認識し、危険な場所や安全な施設などをマップにとりまとめることで、防災の意識付けができた。
展開できる 知見やノウハウ	<p>※特に他の地域や団体に展開できるよう知見やノウハウは、残念ながら得られず。</p>
コミュニティ防災教育の重要な観点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティで防災教育を実施するためには、学校と協働で防災教育に取り組める地域のコミュニティの力が必要。また、地域が学校の防災教育を効果的に支援するためには、単に地域の特性を知っているだけではなく、その特性を防災という視点でとらえた場合に、専門的な観点で助言や指導ができる人材がいることが最適。 ・様々な制約により学校だけでは実施できない防災教育については、公民館などコミュニティの拠点施設を活用し、地域で実施する防災学習のプログラムや実施体制が必要。地域で防災学習をする場合、楽しみながらできるものや体験型で実施するものでないと子供の参加者は少ないため、実施内容や実施方法、広報の仕方には工夫が必要。
残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育のマンネリ化を防ぎ、新たな防災に関する情報や災害での事例などから学ぶべきことなどを取り入れて実施する必要がある。 ・能登半島地震や奥能登豪雨で被災した能登地域での教訓を活かすためには、知識や技術だけではなく、生きるための知恵を取得できる防災教育にステップアップさせる必要がある。

■事業内容

事業内容① 自主防災連絡協議会が学校の先生と一緒に実施する防災授業		
事業内容①目標 (提供者側)	<p>〈中学校〉 「防災学習の手引き」(3学年分)を作成し、学校と地域の連携方法や役割を明確にして強化</p> <p>〈小学校〉 「防災学習の手引き」(対象:3年生)を作成し、学校と地域の連携方法や役割を明確にして強化</p>	
事業内容①目標 (参加者側)	<p>〈中学校・小学校〉 ・学校と地域が連携して防災学習を実施することで地域性・専門性の高い授業を行い、生徒・児童の理解度向上や防災の自分事化を推進させる</p>	
事業内容① 実施内容 小学校3年生による 防災授業・まち探検 の実施 (実施日:11/18)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生の「安全マップ」づくりのため、防災授業とまち探検を学校・地域が連携して実施 <p>■成果(提供者:学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生だけでは分からない地域情報や過去の状況などを含め、安全マップ作成に必要な情報を地域から提供してもらえる <p>■成果(提供者:地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での授業内容や小学生の考え、質問などを把握することで、地域での防災活動に活かせる <p>■成果(参加者:児童・保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が説明をすることで児童には分かりやすく、防災士など地域の関係者が解説することで、専門的かつ地域の情報を密に交えた防災授業ができています 	
事業内容① 実施内容 中学校1年生の防災 学習(実施日: 1/16,23,30)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>中学校1年生が「命を守る」ことを目的として3日間×2時間の授業を実施</p> <p>■成果(提供者:地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の中学生への説明、グループワークで出た意見の聞き取りなどで得られた経験を地域の防災活動に活かせる ・学区内で中学生をはじめ、その保護者を含めて、防災意識が高まった住民を増やすことができる <p>■成果(提供者:学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は生徒の学習意識を高めながら、地域の防災士が専門的な知識を伝えて解説することで、生徒の学びを充実させることができる 	
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>※特になし</p>	
事業内容①を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での防災授業、まち探検の実施については、7月から早稲田学区自主防災連絡協議会の代表者と小学校の先生とで打合せを行い、お互いの学習の狙いや実施方法について認識を共有した ・小学校でのまち探検については、地域課の参加者には事前に授業目的や実施するうえでのポイントなどをレクチャーし、担当によって現地対応に差が出ないように努めた ・中学校の防災学習では、中学校側の学習成果への希望などを聞き取り、授業計画の見直しを行いながら、生徒が防災に対する関心が高まるように配慮した。 ・中学校の学習で校外での被災現場を見学する際に、被災当時の状況をよく知る人が説明者として参加し、災害についてできるだけリアルにイメージできる説明ができるようにした。 	
事業内容① 残課題等	<p>※特になし</p>	

事業内容② 公民館と地域団体が合同で実施する校外での防災体験学習	
事業内容②目標 (提供者側)	〈早稲田学区自主防災連絡協議会・早稲田公民館〉 地域で実施する防災体験学習のメニューを検討・整理し、体験学習プログラムを作成する
事業内容②目標 (参加者側)	〈地域の参加者(子供・保護者など)〉 防災体験学習を通じて、災害などの地域の特性を知り、自らの防災意識を向上させる
事業内容② 「防災体験学習実施 マニュアル」の作成 (実施日:全期間)	<p>■具体的な取り組み内容 早稲田公民館「防災体験学習 実施マニュアル」を作成</p> <p>■成果(提供者:公民館) ・マニュアルを作成することで、年間を通じて防災教育のための事業計画を立てやすくなり、目標も明確にできる</p> <p>■成果(提供者:地域) ・マニュアルを作成することで、事前準備や実施内容をスタッフとして参加する会員で共有できる</p> <p>■成果(参加者:地域住民) ・マニュアル作成により公民館の防災教育を取り入れた事業計画が充実することで、防災を体験し、知恵を取得できる機会が増える</p>
事業内容②	<p>■具体的な取り組み内容 ※現時点での取り組み実績なし</p> <p>■成果 ※現時点での取り組み成果なし</p>
事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 ・今年は公民館で実践できる機会を持つことができなかった</p>
事業内容②を実施する上で工夫した点	・具体的な実施計画書がなくても、マニュアルだけである程度運営できるよう実施手順や準備品などが分かるように作成した
事業内容② 残課題等	・マニュアルを使用した活動の実施



写真・図など

内閣府「コミュニティ防災教育推進事業」

モデル地区：早稲田学区防災教育地域連携推進事業

事業報告書

「子供たちを通じた防災教育による地域防災力の向上」を目指して

令和8年2月

早稲田学区自主防災連絡協議会

1. 本事業の目的

早稲田学区において、防災を文化として日常の一部とするためには、子供の時から防災を感じ、防災について考えることが出来るような取り組みが必要です。

また、土砂災害や地震、火災などの災害で大きな被害が予想される学区内において、子供たちが自らの命を守り、災害後に困難な生活を強いられることのないよう、地域の被害を最小限に抑えるためには、子供たちが地域の一員として参加できるよう、意識を育て、技術や知識を学び、大人たちとの関係作りをしていくことが大切です。

このため、幼児の時期から防災に触れ、学び、体験しながら感性と意識を養い、いざという時に自分で行動できるように、地域で活動する各種団体が、学校や公民館、大学などの学習機関と連携して活動を実施できる仕組み作りを行います。

2. 早稲田学区の防災教育が指すもの

早稲田学区では、これまでも子供たちの防災教育を重要なテーマとして位置づけ、早稲田学区自主防災連絡協議会（以下「わせだ自主防」と略）を中心として学校や公民館などの教育施設、地域の各種団体などと協働で、年代別にステップアップできるような防災教育を進めてきました。

早稲田学区の防災教育ステップアップ



ステップ1：防災体験（幼児以上）

行事等で防災に様々な形で見る・触れる・感じる機会を作り、防災を体験しながら感性を養います

ステップ2：防災学習（小学生以上）

授業や地域活動で防災に必要な知識や考え方を学び、自ら考えて行動ができる知恵を取得します

ステップ3：防災実践（中学生以上）

災害発生時に自らが率先して行動できる実践教育を行い、日常も地域の防災行事に参加します

今回、「コミュニティ防災教育推進事業」のモデル地区として選定されたことから、地震と水害で甚大な被害を受けた能登半島を視察しました。そこで被災された方々の話を聞き、復旧・復興が思うように進まず、今なお災害の爪痕が多く残る被災現場を見た結果から、地域における防災教育をさらに強く、広くしていく必要性を感じました。

そこで、子供と子供に関係する人々を含め、甚大な災害が発生しても自らの命を守り、発災後の初期段階は地域の力で被災者を支え、復旧段階では公的な機関や外部機関・団体の支援を受けながら、より質の高い復興ができる地域づくりができるよう、地域と各関係者が主体となって活動ができるような防災教育を目指します。

この防災教育を推進するため、以下のスローガンを掲げます

【早稲田学区の防災教育スローガン】

子供たちを通じた防災教育による地域防災力の向上

このスローガンを実現する防災教育プログラムとして、以下の3つのテーマを中心として活動を展開します。

①早稲田中学校・小学校での防災授業

中学校・小学校の授業に自主防を主とする地域関係者が参加して、地域に密着した専門性の高い防災授業を実施します。

②早稲田公民館での防災体験学習

公民館を会場として、未就学児から中学生を対象に学区内の各団体が協力して体験型の防災学習会を実施します。

③小・中・高校生の防災リーダーの育成

小・中・高校生を対象に実践的な防災体験会・研修会を実施し、地域の防災活動にも参加してもらい、地域の防災リーダーとして育成します。

3. 早稲田学区における防災教育コミュニティ・ネットワーク

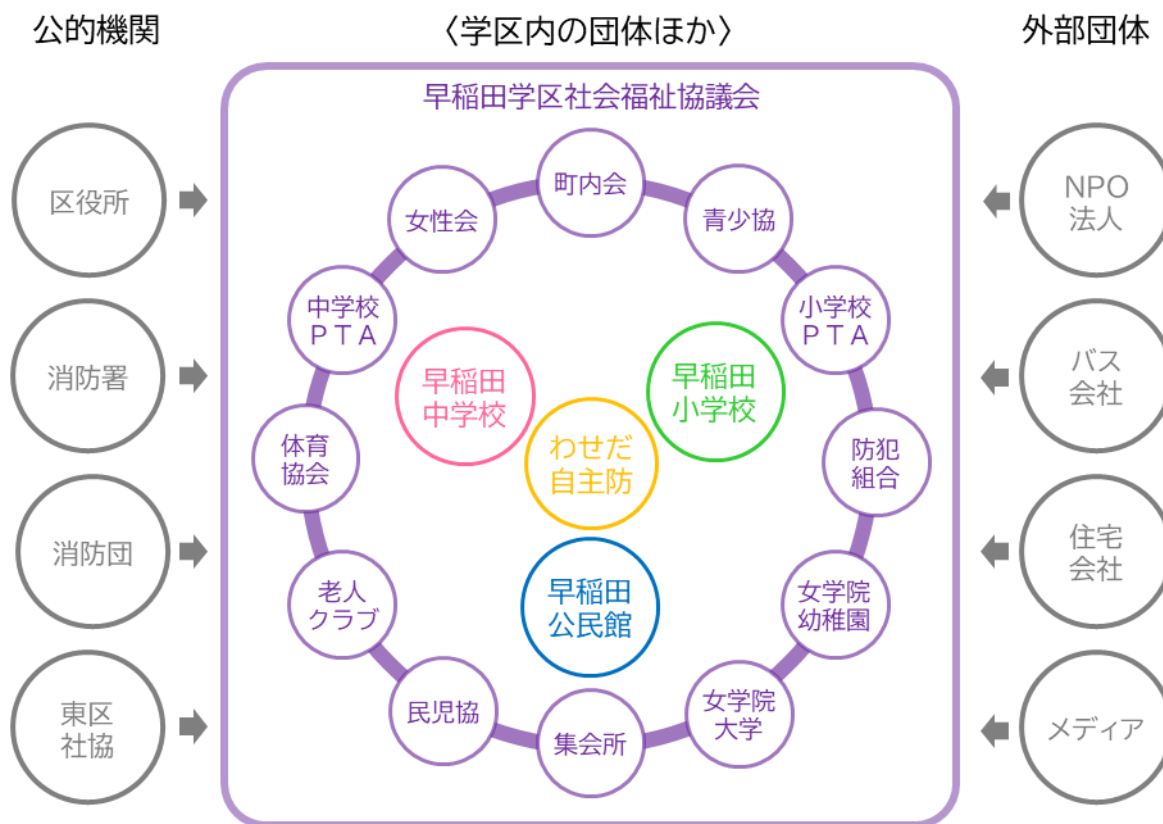
早稲田学区自主防災連絡協議会は、広島市東区の広島市立早稲田小学校区において、地域活動を実施する早稲田学区社会福祉協議会を構成する団体として、自主防災活動を実施しています。

この早稲田学区自主防災連絡協議会には、町内会のほか同じ学区内で地域活動を実施する各種団体の他、早稲田中学校や早稲田小学校、早稲田公民館、広島女学院大学など学区内の主要施設が参加し、災害時における避難所運営などの活動をはじめ、平時においては防災の備えを進めるための活動を実施しています。

また、平成30年7月に発生した西日本豪雨において学区内で発生した被災経験を踏まえ、災害時には地域内の団体のみではなく、行政機関を含めた外部機関・団体が参加する「早稲田学区地域防災プラットフォーム」*と呼ぶネットワーク組織を設置し、連携・協働の体制を形成しています。

早稲田学区では、この組織体制を活かし、防災教育を通じたネットワークを形成しています。

早稲田学区における防災教育ネットワーク



4. わせだ防災教育プログラムによるコミュニティ防災教育

①中学校・小学校での防災授業

早稲田中学校と早稲田小学校においては、学校と地域が協働で防災学習を実施します。

早稲田小学校での防災学習

1) 3年生の安全マップ作り

小学校3年生では、かつて防犯目的で地図を通じて地域を知る活動に“防災”の要素を加えて「安全マップ作り」をしています。


この安全マップ作りには、地域を調べるための“まち探検”にわせだ自主防を中心とした地域の関係者が参加し、子供たちと一緒に地域の危険な場所や災害時に役立つ場所などを確認しながら、早稲田学区での防災を考えるきっかけ作りをします。

また、わせだ自主防がまち探検の目的やポイントなどについて児童たちに説明する事前説明を行い、学習の理解度が高まるよう工夫します。

早稲田小学校3年生 安全マップまち探検 コースマップ



1班	神社通り（上）
2班	なかよし坂・想い坂
3班	くの字坂
4班	神社通り（下）
5班	なかもち・第二公園通り
6班	わせだいろは坂
7班	さくら坂
8班	松風坂



まち探検の様子



事前説明の様子

2) 5年生の総合学習での防災授業

小学校5年生では、総合学習の時間で取り組む「地域の活動を知る」の中で、防災をキーワードとして児童たちが防災について考え、取り組む時間を設けています。

この防災を考える総合学習では、児童たちが調べた地域防災活動に関する質問にわせだ自主防が答え、意見交換をする時間を作ることで、より深く防災について学べるようにしています。



早稲田中学校での防災学習

1) 中学校3学年での防災学習

早稲田中学校の総合学習の全体テーマである「地域社会で共に生きる」に基づき、地域の防災について自分たちにどのような取り組みができるのか探求する活動を通じて、地域の防災にとって必要な知識・技能を習得します。

さらに、習得した知識・技能を活かすために、地域の防災の在り方を考え、自らの生活や行動に結びつける意識を養うことを狙いとして、中学校とわせだ自主防が連携して学習に取り組んでいます。

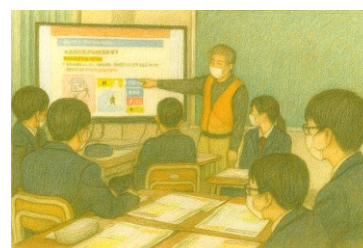
■防災学習の実施概要

- ・授業時間は、1日2時限を3日間（計6時限分）に分けて実施します
- ・授業内容は、メインの進行は学校の先生が実施し、専門的な解説や生徒たちの学習成果の評価をわせだ自主防が対応します
- ・授業には、各クラス1～3名程度の防災士が参加します

(各学年の授業内容)

1年生

- テーマ：自らの命を守る防災行動の意識付け
- 学習プログラム
- 1日目：防災マップから防災行動を考える
- 2日目：災害現場で命を守る行動を考える
- 3日目：わせだマイタイムラインの作成



わせだマイタイムラインの作成

2年生

- テーマ：技術・知識の習得による実行力向上
- 学習プログラム
- 1日目：災害エスノグラフィによる追体験学習
- 2日目：ライフライン停止ワークショップ
- 3日目：防災スキルアップセミナー



防災スキルアップセミナー

3年生

- テーマ：地域の支援ができる実践力の定着
- 学習プログラム
- 1日目：災害支援ワークショップ
- 2日目：要支援者版防災クロスロード
- 3日目：わせだレスキューカードの作成



要支援者防災クロスロード

②早稲田公民館での防災体験学習

学校での防災学習とは別に、わせだ自主防を含めた地域団体が主体となって実施する防災体験学習を、地域活動の拠点である生涯学習施設の早稲田公民館で実施します。

防災体験学習の実施においては、会場となる早稲田公民館をはじめ、地域で活動する各種団体も参加して準備・運営を行います。

防災体験学習には、親子で実施できるメニューも取り入れることで、子どもだけでなく保護者も含めた参加者を増やし、地域における防災ネットワークの拡大を図ります。

■防災体験学習の実施例

①防災クッキング

実施団体：わせだ自主防、女性会

実施目的：ライフラインの停止に備えるため、備蓄品の備えについて解説した後、停電・断水しても備蓄品で実施できる調理方法の体験を実施します

実施内容：1)備蓄品の備えについての解説
2)ポリ袋調理方法の説明、体験
3)メスティン自動調理方法の説明、体験



②ぼうさい運動会

実施団体：体協、わせだ自主防、青少協

実施目的：体を動かしながら防災を考えられる運動会を実施し、楽しみながら防災の知識や実行力を向上させます

実施内容：1)ぼうさい運動会の目的説明
2)競技による体験
・担架リレー ・キャタピラリレー
・バケツリレー ・水消火器での的当て



③防災ゲーム学習会

実施団体：わせだ自主防、青少協

実施目的：ゲームで楽しみながら防災について考える体験をしながら、防災の備えについて学べる学習会を実施します

実施内容：1)防災ボードゲームの実施
2)防災ハンドブックを使った謎ときクイズ
3)防災の備え講座



③小・中・高校生の防災リーダーの育成

小学生、中学生のジュニア防災リーダーの希望者を募り、防災研修会や実践的な防災体験会を実施し、地域の防災リーダー及び学校の防災教育リーダーとして育成します。

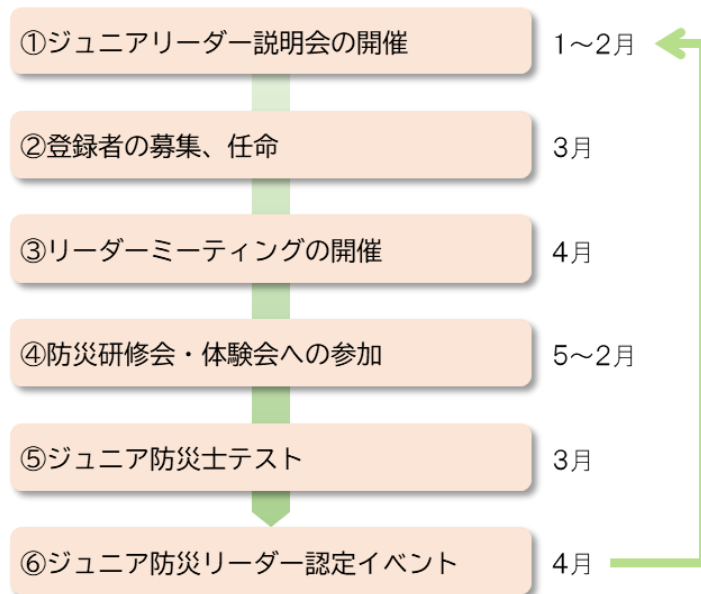
地域の防災活動への参加やリーダー研修会を通じて体験を重ねる中で、地域との関わりを強くするとともに、防災を自分事としてとらえる意識を高めます。

また、小学生・中学生で防災リーダーとして活動した人を中心として、高校生になってからも地域での活動に参加するよう呼びかけて一緒に活動し、地域のリーダーとなれるよう育成します。

■ジュニア防災リーダーの募集・活動の流れ

ジュニア防災リーダーは、小学校・中学校のそれぞれで希望者を募り、リーダーに任命して活動を行う

〈ジュニア防災リーダーの任命・活動の流れ〉

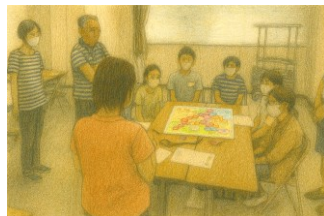


■ジュニア防災リーダーの活動例

◇リーダーミーティング



◇リーダー研修会



◇防災ハイキング



◇イベントの企画・運営



◇防災施設整備



◇防災ウォーキング



5. 公的機関との連携

①東区役所（地域起こし推進課）との連携

東区役所（地域起こし推進課）は、自主防災活動や地域コミュニティ活動全般の相談窓口であり、広島市が進める「防災まちづくり事業」を進める行政機関です。

地域において防災教育を進めるためには、防災訓練や防災講座の開催、避難所運営の支援など様々な取り組みで連携する東区役所の存在は欠かせないものであり、以下のような活動を通じて、子供たちの学習支援や子供たちが地域の一員として参加できる活動を支援するなど、一緒に連携して取り組みます。

【東区役所と連携した取り組み例】

- 災害や防災活動に関する各種情報の提供
- 防災訓練・防災フェアの開催
- 防災関係の出前講座の実施
- 避難訓練・避難所開設訓練の実施
- 広島市防災訓練補助金による支援



小中学生も参加する総合防災訓練

②東消防署（牛田分団を含む）との連携

東消防署（牛田分団を含む）は、自主防災活動における各種訓練や救命講習会の開催、防災マップ作成のためのまち歩きへの参加などを通じて、地域の防災活動を支援しています。

地域の防災教育においても、中学校の授業での救命講習の実施や地域の防災イベントで講習会を実施するなど地域と連携した活動に参加しており、今後も連携した取り組みを進めます。



中学校の授業で実施する救命講座



防災イベントでのロープワーク講座

③東区社会福祉協議会との連携

東区社会福祉協議会は、災害発生時のボランティアによる支援などを担当しており、平成30年に発生した西日本豪雨など過去に発生した災害でも地域と連携して防災活動を実施しています。

防災教育においても、子供も参加する受援力向上のための防災講座の開催などで連携した取り組みを進めており、今後も防災教育を含めた地域の防災活動において連携して取り組みます。



中学生が参加する受援力向上防災講座

6. 事業の成果物

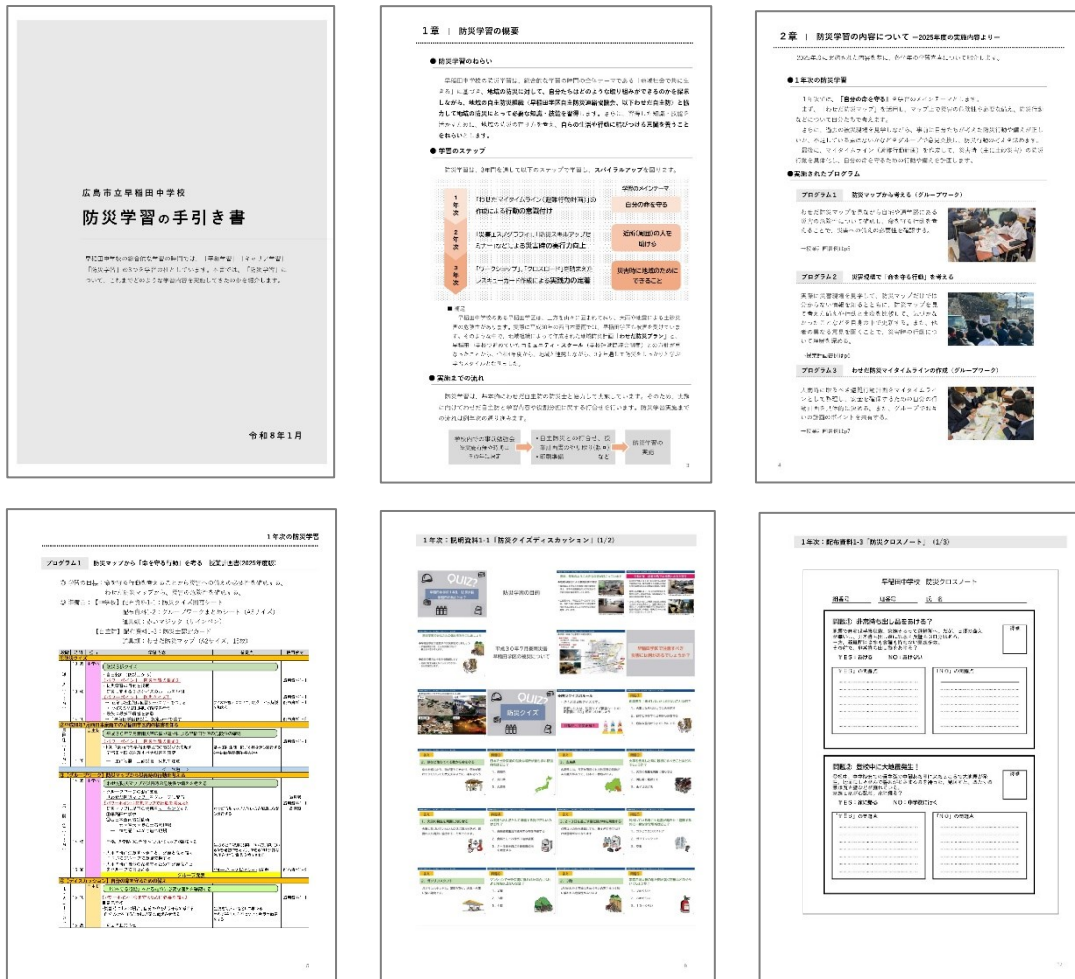
①早稲田中学校「防災学習の手引き」作成

早稲田中学校で実施する防災学習について、中学校の先生やわせだ自主防の防災士が学習のねらいや学年別の学習内容、授業で使用する説明資料をまとめた手引きを作成する。

手引きは、以下のような目次構成としている。
【早稲田中学校「防災学習の手引き」目次構成】

- 1章 防災学習の概要
- 2章 各学年の防災学習計画
 - 〈各学年別〉実施までの流れ（スケジュール）
 - 単元毎の授業計画
 - 各授業で使用する教材（ツール）
- 3章 参考資料
 - 早稲田学区の地理情報、地域特性
 - 平成30年7月西日本豪雨での被災状況
 - 各種災害情報
 - など

〈早稲田中学校「防災学習の手引き書」〉



②早稲田小学校「あんぜんマップづくり」手引き書の作成

早稲田小学校の3年生が毎年実施している「あんぜんマップ」作りについて、主に小学校の先生が参考資料として使用する手引きを作成する。

内容としては、早稲田小学校が従来は「防犯」の要素を中心に作成していた「あんぜんマップ」について「防災」の要素を取り入れることになった経緯や、学習のねらい、年間を通じた学習の流れ（スケジュール）を踏まえて、わせた自主防など地域の関係者が参加する“まち探検”の実施方法などを解説した手引き書とする。

手引きは、以下のような目次構成としている。

〈早稲田小学校「あんぜんマップづくり」手引き書〉

0 1 | 防災学習の概要

●防災学習「あんぜんマップづくり」の経緯とねらい

早稲田小学校がある早稲田平区は、三カ所中區などの山々に囲まれており、大雨による土砂崩壊や地震、火災の危険性があります。その中で、平成26年に発生した東上川河川災害を機に、これまで創設を断念していた「あんぜんマップ」づくりにも防災の要素を取り入れ、防災学習として取り組んでいます。この防災学習は、わせた自主防と一部連携しながら、総合的な学習の時間の中で3年生を対象に実施しています。

●学習のステップ

防災学習は、年間を通じた総合的な学習の時間の中で実施し、おおよその学習内容と流れで進みます。※令和6年度までの流れをもとに作成しています。

学習内容	学習目標・実施内容
4月	
5月	
6月	●地理理解を深める 自分たちの地域についてよく学ぶ。
7月	●「まち探検」に関する行啓 わせた自主防の「よら防犯」の完成に向けて、会やも実施する。 まち探検-あんぜんマップづくりに向けて、わせた自主防と連携して地域の危険箇所を調査し、歩いて学ぶ。
8月	
9月	●まち探検の案内 事前に探検者へ案内案内などを発行。
10月	●事前学習の実施/わせた自主防 一p2 まち探検を実施する前に、わせた自主防による事前学習を実施する。
11月	●まち探検の実施/わせた自主防 一p3 わせた自主防と連携してまち探検を実施する。
12月	
1月	●あんぜんマップの作成 一p4 まち探検で発見した危険箇所をもとに、あんぜんマップを作成する。
2月	●あんぜんマップの発表 作成したあんぜんマップを学習日の場で発表する。
3月	
4月	●あんぜんマップの展示 学習日で作成したあんぜんマップも、公民館内に展示していただく。

○上記はおおよそのおおまかであり、授業の進捗や行事の進行状況に応じて、多少のずれや方向性調整して進めることもあります。

0 2 | 事前学習、まち探検、あんぜんマップづくりについて

●事前学習について

まち探検に向けた事前学習では、自主防の方から、防災の基本的な知識と、あんぜんマップを作る上で役に立つポイントについて学びます。

これまで実施した事前学習の内容

〈学習内容〉

- 防災とはなにか
- 平成30年7月西日本豪雨における早稲田学区の災害（かけ廻れの映像紹介含む）
- あんぜんマップ作成のためのポイント解説（クイズ形式） など

〈実施時の役割分担〉

- 小学校：導入部分の説明 / わせた自主防：本編の説明

事前学習の様子

車道で起こる災害は？

車道車道から半目の目がけ崩れ

宇田内探検「防災とはなにか」

宇田内探検「車道車道の災害例」

宇田内探検「危険なところをどうしよう？」

宇田内探検「あんぜんマップのポイント」

宇田内探検「防災クイズ」

0 2 | 事前学習、まち探検、あんぜんマップづくりについて

●まち探検について

まち探検では、あんぜんマップづくりに向けて、わせた自主防と連携しながら、コース内にある『やさいところ』（防災や防犯で役に立つ場所、設備がある場所）、「危険なところ」（災害が起きた時に危険な場所など）を探し、写真やイラストも取ったりして記録していきます。探検するコースは家庭別に8つ（各町会別）設定されており、コースごとにグループに分かれて探検します。なお、各グループには基本的に大人が2名ほど付くため、地域関係者（わせた自主防や保護者など）により探検の参加案内を出し、協力してもらいたいことがあります。

8つのコース
全4町会

これまで実施したまち探検の内容

〈実施内容・タイムスケジュール〉

- 8:50 早稲田小学校 体育館に集合
- 9:00～ 挨拶（地域参加者の自己紹介）
- 9:05～ まち探検の説明（組長・小学校）
- 9:10～ あんぜんマップまち探検に関する事前学習の振り返り（神戸・わせた自主防）
- 9:25～ グループに分かれてまち探検開始
- 10:50～ 休憩
- 11:00～ まち探検の結果発表
- 11:30 終了

〈実施時の役割分担〉

- 小学校
- 探検全体の説明
- わせた自主防
- 事前学習の振り返り

〈児童の基本的な持ち物〉

- 赤白帽子
- 探検バック
- 水筒
- 紙筆
- 地図
- 地図を貼る「J」スマップ
- タブレット（グループ1台）
- デジタルカメラ（グループ1台）

探検時: 情報型電子辞書

0 2 | 事前学習、まち探検、あんぜんマップづくりについて

●あんぜんマップづくりについて

事前学習やまち探検で取りまとめた内容が、年間を通じた学習の中で増えつづきもとにあんぜんマップを作成します。レイアウトや装飾方法に決まりはなく、学年の特性に合わせてマップが出来上がります。完成したマップは、生徒にある委員の場で発表したり、公民館などで展示されたりすることがあります。

令和3年度

令和4年度

令和5年度

令和6年度

3年生
車道
安全マップ

これからの早稲田の町を考える

【令和6年度の担当者コメント】

- 探検において意識したポイント
- 発見が気になった箇所や疑問に沿って、担当者同士相談しながら作業を進めた
- 児童の「～～」といった気づきをしっかりと書き残すことができる形を自由にした

③早稲田公民館「防災体験学習マニュアル」の作成

早稲田公民館を会場としてわせだ自主防をはじめとした地域の各種団体が実施する防災体験学習について、学習メニュー別に実施内容や手順、準備物などが分かる資料として「防災体験学習マニュアル」を作成する。

このマニュアルは、公民館や各地域団体の事業計画や、実際に活動する際の参考資料として、おおむね以下の構成で作成する。

【各メニュー別のマニュアル構成】

- ・学習メニュー名、実施概要（対象、会場、実施時間、参加人数、参加費など記載）
- ・実施内容・実施項目
- ・実施手順、時間配分
- ・運営体制
- ・準備品リスト、予算計画
- ・学習中に使用する資料（説明資料、配付資料など）

＜早稲田公民館「防災体験学習マニュアル」＞

早稲田公民館 防災体験学習 実施マニュアル①
防災クッキング

実施対象：小学生（2年生以下は保護者と一緒であれば参加可能）、中学生
開催会場：東館2F
実施時間：120分
運営団体：わせだ自主防、女性会、青少年など
参加人数：最大12名
参加費：500円程度

1. 実施内容
①用語や水道が止まった場合の生活についての説明
②食料が足りなくなる調理方法体験
③メスティン自動調理機による調理方法体験
④絆創膏
⑤実物販売による家庭内備蓄品チェック
⑥意見交換・まとめ

2. 実施手順
①自己紹介（3分）
②用語や水道が止まった場合の生活についての説明（5分）
③食料が足りなくなる調理方法体験・メスティン自動調理機の説明（5分）
④絆創膏の貼付、使用する備蓄品について解説（説明資料：「ライフラインが止まるとどうなるか？」）
⑤食料が足りなくなる調理方法体験（30分）
⑥メスティン自動調理機の説明（30分）
⑦メスティン自動調理機のメニュー作りが作って体験（説明資料：「防災クッキング ポリ袋調理レシピ」）
⑧メスティン自動調理機の説明（30分）
⑨それぞれの調理体験で作った料理を全員で試食する
⑩会場での備蓄品の必要性について解説（15分）
⑪会場でのライフラインが止まった際の備蓄品の実物を見ながら解説（説明資料：「わが家の防災準備リスト」）
⑫意見交換・まとめ（15分）
参加者全員で感想を述べてなり意見交換をしたりしてまとめる

3. 運営体制
1) 進行 担当員 1～2名
2) 説明補助 3～4名
3) 記録撮影 1名
※「※」が付いている担当は他のスタッフが兼任可能

早稲田公民館 防災体験学習 実施マニュアル① 「防災クッキング」

4. 準備品リスト

品名	数量	単位	発着	担当	予算	備考
全体説明						
災害時の備えについて	1	冊	12	担当員	100円	
防災クッキング説明	1	冊	12	担当員		
大瓶ミネラルウォーター	1	本	1	担当員		
ポリ袋	1	枚	12	担当員		
メスティン	1	台	12	担当員	100円	防災クッキング
絆創膏	1	枚	12	担当員		
説明資料						
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
防災クッキング説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
メスティン説明	1	冊	4	担当員		防災クッキング
絆創膏説明	1	冊	4	担当員		

早稲田学区防災教育地域連携推進事業 検討委員会 結果報告書



■検討委員会 実施概要

開催日時：令和8年1月12日（月・祝）10：00～12：00

開催会場：早稲田集会所（広島市東区牛田東2丁目12-23）

参加者：鍵屋 一 アドバイザー（跡見学園女子大学 教授）、
早稲田学区自主防災連絡協議会
広島市立早稲田中学校
早稲田公民館
広島女学院大学
NPO法人IMAGINUS
東区役所地域起こし推進課
東消防署警防課

実施目的：「早稲田学区防災教育地域連携推進事業」では、地域と学校に加えて関係機関・団体が連携して防災教育の実施を目指している。今回の検討委員会は、各事業内容に対する具体的な実施方法や目標について意見交換し、実施方針を決めることを目的として開催した。

1. 内閣府「コミュニティ防災教育推進事業」説明

早稲田学区防災教育地域連携推進事業がモデル地区となっている、内閣府の「コミュニティ防災教育推進事業」について、参加者に概要を説明した。

「コミュニティ防災教育推進事業」概要説明資料

2. 能登半島視察 結果報告

早稲田学区防災教育地域連携推進事業の実施活動の一つとして、関係者が参加して実施した能登半島地震・奥能登豪雨の被災地への視察について、視察結果を報告した。

※能登半島視察の報告内容については、別資料「能登半島視察 報告資料」を参照



能登半島視察 報告資料

3. 事業の取り組み内容検討のためのグループワーク（ワールドカフェ方式）

早稲田学区防災教育地域連携推進事業が実施する3つの事業活動について、今後、地域で実施すべき取り組みを提案してもらうため、鍵屋アドバイザーの司会進行より、参加者による意見交換をワールドカフェ方式で実施した。

〈事業内容のテーマ〉

- ① 自主防災連絡協議会が学校の先生と一緒に実施する防災授業
- ② 公民館と地域団体が合同で実施する校外での防災体験学習
- ③ 小・中・高校生を対象とした防災リーダーの育成

〈参考資料〉

「早稲田学区における防災学習概要資料」



❖ワールドカフェの進め方



取り組み内容の検討中



シールを貼って得点つけ

- ①進行手順の説明
- ↓
- ②グループ内で自己紹介
- ↓
- ③グループで担当するテーマについて取り組み内容を検討
- ↓
- ④グループで1人が残り、他のメンバーは同じテーマを検討しているグループに移動して、テーブル毎に意見交換
- ↓
- ⑤最初のテーブルに戻り、他のテーブルで意見交換した内容を報告し、さらに取り組みを良いものにはできないか検討
- ↓
- ⑥グループで提案する内容をとりまとめ
- ↓
- ⑦全員で各グループで提案された内容を確認し、良いと思った提案にシールを貼る
- ↓
- ⑧シールの数が多かった提案内容を紹介して共有

❖グループワークのとりまとめ結果

〈テーマ〉①自主防災連絡協議会が学校の先生と一緒に実施する防災授業

Aグループ

【提案内容】

- ①公助の現状を知るため、消防署・区役所を見学する（13点）
- ②小学生・中学生だけで避難所の運営をする（10点）
- ③参観日に訓練をするなど学校で予定外の訓練を実施（9点）
- ④炊き出しなど防災要素を含む学習を通じて指導員を育成（9点）
- ⑤中学生がリーダーになって防災ウォークラリーを企画（3点）



Bグループ

【提案内容】

- ①学校を会場として、昼は学校主体で避難所開設運営の練を行い、夜は地域主体で避難所体験会を開催（11点）
- ②防災学習の日を参観日にして保護者も参加（10点）
- ③小中学生で早稲田学区内の被災現場を見学する（10点）
- ④ロケットストーブなどを使用して屋外での炊き出し練習（5点）



◆グループワークのとりまとめ結果（続き）

〈テーマ〉②公民館と地域団体が合同で実施する校外での防災体験学習

Cグループ

【提案内容】

- ①簡易トイレの体験会を実施（13点）
- ②避難者や支援者の話を聞く会を開催（11点）
- ③避難時の食料を自分で準備する啓発学習を行う（11点）
- ④避難所までのルートを確認する学習イベントを実施（9点）
- ⑤救命旧講習を実施してAEDが使える人を増やす（8点）



Dグループ

【提案内容】

- ①要支援者の避難訓練を子供と一緒に実施（15点）
- ②実体験者（ボランティアなど）の生の声を聴く会を開催（12点）
- ③避難ルートの確認を含めた体験会を開催（8点）
- ④自分の必要な物を持ってくる避難所生活の体験会を開催（4点）
- ⑤DIG（災害図上訓練）を実施（1点）



〈テーマ〉③小・中・高校生を対象とした防災リーダーの育成

Eグループ

【提案内容】

- ①小・中学校で別々に実施している教員向け勉強会や防災学習を合同で実施（15点）
- ②「〇〇無して1日生活してみよう」体験会の開催（11点）
- ③小中学生が地域行事に参加して防災イベントを企画（11点）



Fグループ

【提案内容】

- ①リーダーという名称にこだわらず「防災グループ」などにして小・中・高をまとめる（16点）
- ②過去のリーダーを含めて活動参加者をグループLINEでつなげ、オフ会も実施してつなげていく（11点）
- ③リーダーの活動内容を広報紙として作り全世帯に配布（3点）



4. 鍵屋アドバイザーからの講評

- ・早稲田学区では、今回のグループワークで“体験”を重視していると感じた。
- ・グループLINEなどの情報ツールを効果的に使って様々なつながりを作ることは大切
- ・防災リーダーについては、防災班とか防災グループという参加しやすそうな名前にするのも間口が広がって良い
- ・中学校と小学校が合同で防災学習をすると、中学生が自然に小学生の面倒をみたりするので、助け合う関係ができるし、中学生のモチベーションも上がる
- ・参観日に防災学習をするのもとても良いアイデア
- ・炊き出し（餅つきなど）の行事に子供たちが参加し、これを防災につなげていくことは大切な取り組み



5. 参加機関からの感想

東区役所地域起こし推進課

- ・地域で防災教育を進めるためには“コミュニティ”が大切だと感じた。自分も含めて、地域の皆さんが接点や関係を持つことが良い活動につながる。
- ・区役所としてもできることから積み上げていきたい。



東消防署警防課

- ・早稲田学区は先進的な取り組みを実施しており、防災教育も様々な取り組みを先行されようとしている。こうした取り組みを他の地域にも広げていきたい。



早稲田学区防災教育地域連携推進事業 検討委員会 検討結果の事業へのフィードバック

- ①自主防災連絡協議会が学校の先生と一緒に実施する防災授業
 - ・中学校と小学校の合同で実施する防災学習の実施を取り入れる
 - ・参観日に防災学習をするなど保護者を巻き込む防災教育の取り組みを入れる
- ②公民館と地域団体が合同で実施する校外での防災体験学習
 - ・防災に関する体験型の学習機会を増やす
 - ・被災者や災害時に被災地、被災者の支援をする人の話を聞く機会を作る
- ③小・中・高校生を対象とした防災リーダーの育成
 - ・小学生、中学生が参加しやすい仕組みを作る
 - ・グループLINEで過去のリーダーたちを含めてつなぎ、オフ会開催などで世代間のつながりを作る

〈参考資料〉

早稲田学区における
防災学習概要資料

早稲田学区の防災教育
早稲田学区における防災学習スケジュール（令和6年度実績より）

早稲田学区における防災学習は、以下のようなスケジュールで実施しています。

月	区分	防災教育の活動	場所
5月	③	ジュニア防災リーダーによるまち探検	学区内一円
6月	①	中学校2年生 防災学習（計3日）	中学校
7月	③	防災ボードゲーム講座	公民館
8月	③	ドローン体験会	中学校
9月	②	防災クッキング	公民館
	①	中学校3年生 防災学習（計3日）	中学校
10月	①	小学校あんぜんマップ事前学習	小学校
11月	③	早稲田学区総合避難訓練（リーダー参加）	中学校
12月	①	小学校3年生あんぜんマップまち探検	学区内一円
	②	ぼうさい運動会	公民館
	①	小学校5年生 総合学習	小学校
1月	①	中学校1年生 防災学習（計3日）	中学校
2月	③	ふゆまつり防災コーナー（リーダー企画・運営）	公民館
3月	③	ジュニア防災士テスト	集会所

区分：①早稲田中学校・小学校での防災授業
②早稲田公民館での防災体験学習
③小・中・高校生の防災リーダーの育成



早稲田学区の防災教育

①中学校での防災授業

◆早稲田中学校での防災学習

早稲田中学校の総合学習の全体テーマである「地域社会で共に生きる」に基づき、地域の防災について自分たちによる取り組みができるのかを探求する活動を通じて、地域の防災にとって必要な知識・技能を習得する。さらに、習得した知識・技能を活かすために、地域の防災の在り方を考え、自らの生活や行動に結びつける意識を養うことをねらうとする。



防災ワークショップ

◆防災学習の実施概要

- 授業時間は、1日2時間を3日間（計6時間分）に分けて実施
- 授業内容は、メインの進行は学校の先生が実施し、専門的な解説や生徒たちの学習成果の評価を防災士が対応
- 授業には、各クラス1〜3名程度の防災士が参加

〈1年生〉

〈テーマ〉
自らの命を守る防災行動の意識付け

●学習プログラム

- 1日目：防災クイズ、ディスカッション
- 2日目：防災クロスロード
- 3日目：わせたタイムラインの作成



わせたタイムラインの作成

〈2年生〉

〈テーマ〉
技術・知識の習得による実行力向上

●学習プログラム

- 1日目：災害エスノグラフィによる体験学習
- 2日目：タイムライン停止ワークショップ
- 3日目：防災スキルアップセミナー



防災スキルアップセミナー

〈3年生〉

〈テーマ〉
地域の支援ができる実践力の定着

●学習プログラム

- 1日目：災害支援ワークショップ
- 2日目：支援者版防災クロスロード
- 3日目：わせたレスキューカードの作成



支援者版防災クロスロード

早稲田学区の防災教育

①小学校でのあんぜんマップづくり

◆早稲田小学校でのあんぜんマップづくり

小学校3年生では、かつて防犯目的で地図を通じて地域を知る活動に「防災」の要素を加えて「あんぜんマップづくり」を実施する。この安全マップ作りには、地域を調べるための「まち探検」に合わせた自主防を中心とした地域の関係者が参加し、子供たちと一緒に地域の危険な場所や災害時に役立つ場所などを確認しながら、早稲田学区での防災を考えるきっかけを行う。

●あんぜんマップ作成のスケジュール

- 4〜6月 地域理解を深める学習
- 9〜10月 まち探検のための事前学習（地域も参加の場合あり）
- 11〜12月 まち探検の実施（地域も参加）
- 1〜2月 あんぜんマップ作成
- 3〜4月 あんぜんマップの展示（早稲田公民館にて）



◆まち探検の実施概要

- 児童は坂道別に8つのグループに分かれて班編成
- 1つのグループに地域からの参加者、先生、保護者など大人数が2名ずつ同行してまち探検を実施
- まち探検では「危険なところ（役に立つ場所など）」「危険なところ」を探索して記録
- まち探検後は小学校の体育館に戻ってとりまとめを実施



まち探検の様子

体育館でのとりまとめの様子

- 1班：神社通り（上）
- 2班：なみよし坂・恵い坂
- 3班：くの字坂
- 4班：神社通り（下）
- 5班：なみよし坂・第二公園通り
- 6班：わせたはらばら
- 7班：ついで坂
- 8班：公園通り

早稲田学区の防災教育

②公民館での防災体験学習

◆地域活動拠点としての公民館での防災体験

学校での防災学習とは別に、わせた自主防を含めた地域団体が主体となって実施する防災体験学習を、地域活動の拠点である生涯学習施設早稲田公民館で実施する。防災体験学習には、親子で実施できるメニューも取り入れることで、子どもだけでなく保護者も含めた参加者を増やし、地域における防災ネットワークの拡大を図る。



防災デイクャンプ

〈年間の開催回数〉1〜4回程度

公民館で実施する防災体験学習の例

防災クッキング

【実施主体】わせた自主防、女性会

ライフラインの停止に備えるため、備蓄品の備えについて解説した後、備蓄・販売しても備蓄品で実施できる調理方法の体験を実施する

- 主な実施内容
 - ・備蓄品の備えについての解説
 - ・ボイラ調理方法の説明、体験
 - ・メスティン自動調理方法の説明、体験
 - ・試食会



防災うんどう会

【実施主体】体協、青少年協

体を動かしながら防災を考えられる運動会を実施し、楽しみながら防災の知識や実行力を向上させる

- 主な実施内容
 - ・担架リレー
 - ・バケツリレー
 - ・ネッカーゼリレー
 - ・米俵災害での助言
 - ・避難者ジョスチャージゲーム



防災ゲーム学習会

【実施主体】わせた自主防、青少年協

ゲームで楽しみながら防災について考える体験をしながら、防災の備えについて考える学習会を実施する

- 主な実施内容
 - ・防災ボードゲームの実施
 - ・防災クイズ
 - ・防災の備え講座



防災ワークショップ

【実施主体】わせた自主防

防災の課題について考えるワークショップに小学生・希望者を参加し、防災の備えや災害時の行動について学ぶ機会を作る

- 主な実施内容
 - ・ワークショップへの参加
 - ・課題について学習
 - ・課題に関する解決策を発表



早稲田学区の防災教育

③小・中学生の防災リーダーの育成

◆ジュニア防災リーダーの育成

小学生、中学生のジュニア防災リーダーの希望者を募り、防災研修会や実践的な防災体験会を実施し、地域の防災リーダー及び学校の防災教育リーダーとして育成する。地域の防災活動への参加やリーダー研修会を通じて体験を重ねる中で、地域との関わりを大切にするとともに、防災を自分事としてとらえる意識を高める。

〈年間の活動回数〉3〜5回程度

◆ジュニア防災リーダーの育成

ジュニア防災リーダーは、小学校・中学校を通じて希望者を募り、リーダーに任命して活動を行う

（ジュニア防災リーダーの任命・活動の流れ）



◆ジュニア防災リーダーの活動例



能登半島視察 報告書

令和8年1月
早稲田学区自主防災連絡協議会

早稲田学区防災教育地域連携推進事業 能登半島視察 報告資料

1日目の宿泊先前で七尾湾の朝焼けを見た後に撮影

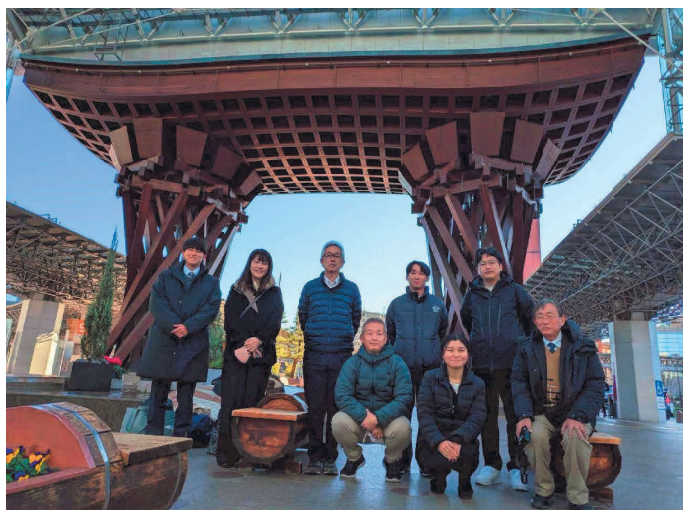
能登半島視察の概要（1）

●視察概要

実施日：令和7年12月19日(金)から12月21日(日)

訪問先：令和6年能登半島地震被災地（輪島市、穴水町、能登町、七尾市）

参加者：早稲田学区自主防災連絡協議会（長田副会長、川島事務局長、本田幹事）
広島市立早稲田中学校（藤本校長先生、有働先生）
NPO法人IMAGINAS（勝部さん、松岡さん）
東区地域起こし推進課（鈴木主事）



金沢駅東口にある
鼓門前にて(出発時)

能登半島視察の概要（2）

●視察の目的

本視察は、内閣府「コミュニティ防災教育推進事業」のモデル地区として実施している『早稲田学区防災教育地域連携推進事業』のため、災害により甚大な被害を受けた地域での防災教育とコミュニティの現状や課題を知り、早稲田学区におけるコミュニティ防災教育の取り組みを進めることを目的とする。

●視察の内容

①能登半島地震・奥能登水害の被災地関係者へのヒアリング

《ヒアリング項目》

- ・ 災害発生時の状況
- ・ 災害時および現在の復興に向けた課題
- ・ 災害前後の防災教育（学校および地域）の実施状況
- ・ 災害前後のコミュニティによる防災活動

②能登半島地震の被災地の状況確認

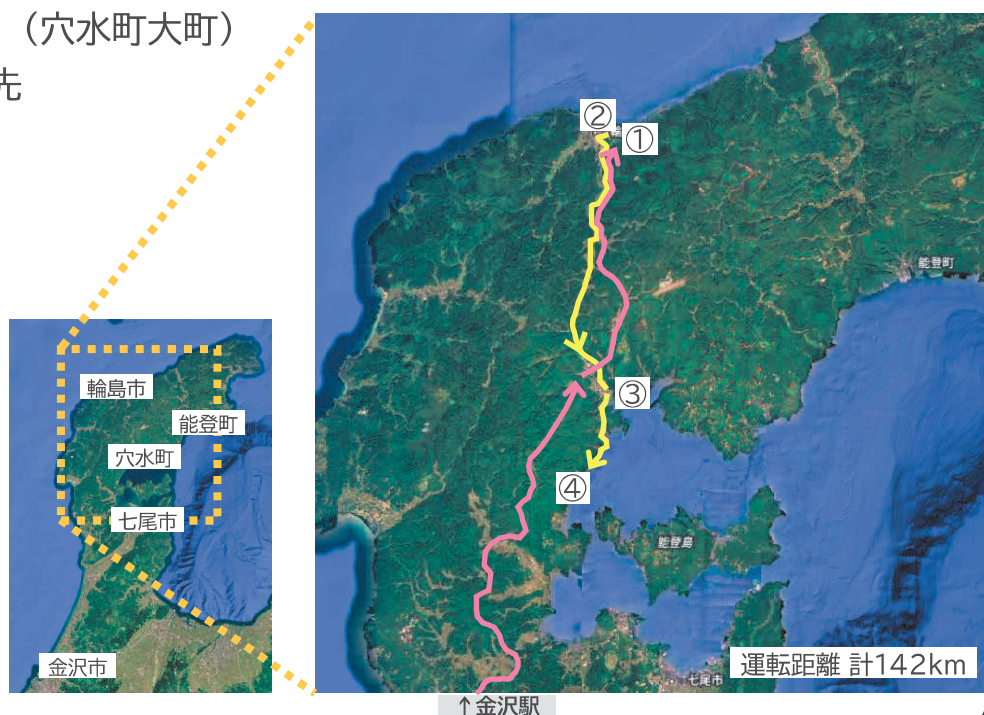
- ・ 地震による被災地の現状と復興状況を確認

3

視察1日目【12月19日(金)】

●訪問先

- ①輪島市立輪島中学校（輪島市河井町）
- ②六銘館 海の駅（輪島氏マリンタウン）
- ③さわやか交流館プルート（穴水町大町）
- ④古民家宿 龍屋 ※宿泊先

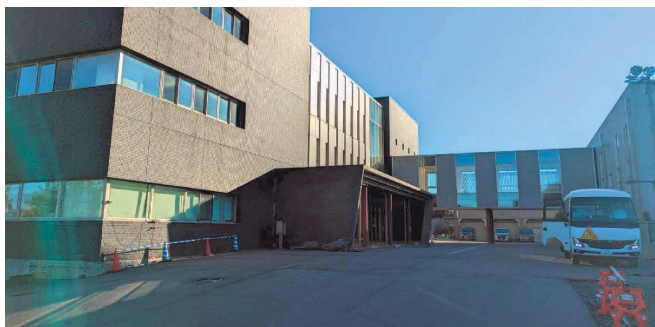


4

視察1日目【12月19日(金)】

①輪島市立輪島中学校

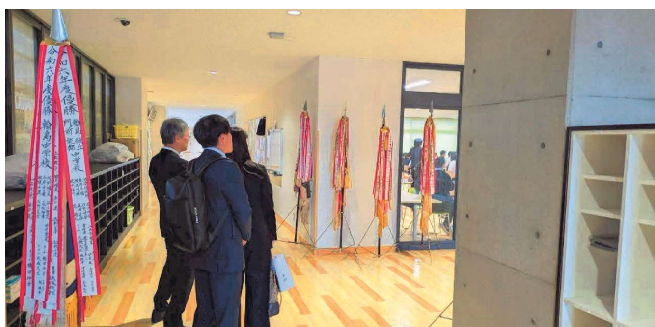
- ・地震直後には2,000人以上が避難した輪島中学校
- ・グラウンドやテニスコート、駐車場など屋外はまだ復旧が進んでいない



輪島中学校の正面玄関前



中学校のテニスコートは今なお地震後のままの状況



輪島中学校の校舎内

5

視察1日目【12月19日(金)】

①輪島市立輪島中学校 ヒアリング内容

※ヒアリング内容は別紙「ヒアリング結果」を参照



ヒアリング会場
(輪島中学校校長室)

6

視察1日目【12月19日(金)】

②橘 奈穂美さんのヒアリング（輪島市マリンタウン在住）

- ・橘さんは、輪島朝市のすぐ近くであるマリンタウンにお住まいの時に地震で被災
- ・2人のお子さんを連れながら、避難場所を転々とされた
- ・避難先でNPO法人カタリバに誘われ、子供の居場所作りのボランティアとして活動されていた

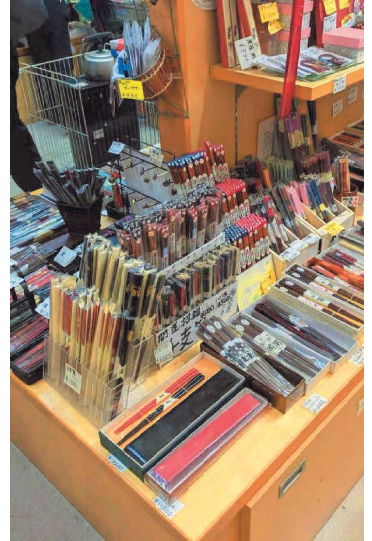
※ヒアリング内容の詳細は別紙「ヒアリング結果」を参照



漆市場マリン店内でのヒアリングの様子



漆市場マリン店で販売されている輪島塗の品々



7

視察1日目【12月19日(金)】

③山本 涼華さんのヒアリング（穴水町在住）

- ・山本さんは穴水町役場の職員として採用1年目に被災を経験
- ・現在は、観光交流課で通常業務に加えて、復興業務にも携わっている。

※ヒアリング内容の詳細は別紙「ヒアリング結果」を参照



ヒアリング会場:さわやか交流館プルード



ホワイトボードの前でお話いただいているのが山本さん

8

視察1日目【12月19日(金)】

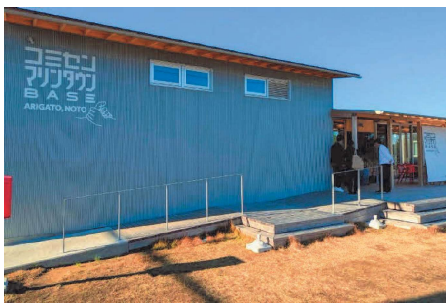
④その他

【昼食会場：コミセンマリンタウンBASE】

- ・コミセンマリンタウンBASEは、仮設住宅が集まる場所に隣接し、災害見守り拠点と福祉施設が合体した施設になっている。
- ・食事や入浴施設があり、人々が集いやすい場所を提供している。一般の利用も可能。



コミセンマリンタウンBASE内部
食堂、お風呂に加えて遠隔医療の機能も備えている



コミセンマリンタウンBASE外観



施設内にあるお風呂



金沢名物「ゴーゴーカレー」風の
カツカレーライスをいただきました

9

視察1日目【12月19日(金)】

④その他

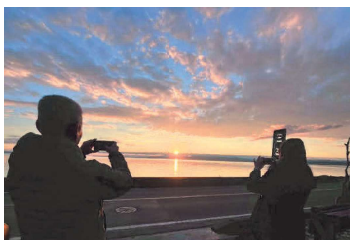
【宿泊先：古民家宿 龍屋】



七尾湾をオーシャンビューできる龍屋さん



豪華な夕食を用意して下さった龍屋の女将さんと



七尾湾の日の出を見ました



朝食も美味しくいただきました

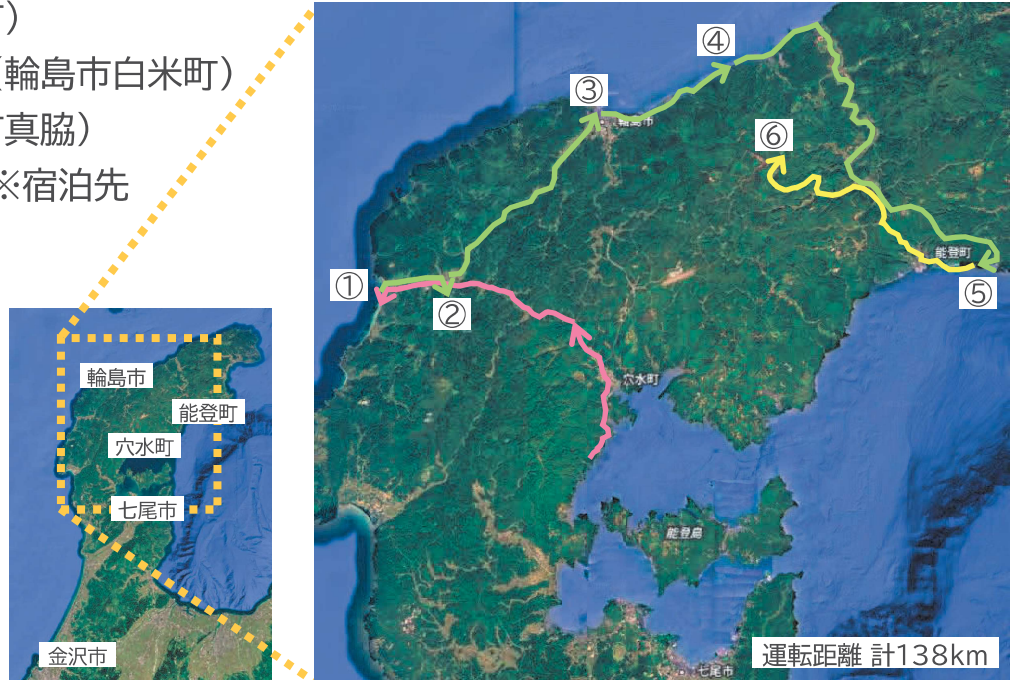
- 女将さんのお話
- ・能登半島地震後、5日で宿を再開した
- ・被災後、国と県の宿泊先として借り上げられたが、1週間で1人しか宿泊されないような状況もあって、一般の宿泊対応に切り替えた
- ・被災で社会機能がまだ回復しない中、ゴミを持ち込まれるなど心ない利用をする人がいてしんどい気持ちで商売をしている時もあった
- ・災害から約2年が経ち、復興や防災を目的として宿泊する方が減ってきたので、防災を目的に来ていただいて嬉しい

10

視察2日目【12月20日(土)】

●訪問先

- ①旧角海(かどみ)家住宅周辺 (輪島市門前町黒島地区)
- ②總持寺祖院 (輪島市門前町門前)
- ③輪島朝市 (輪島市河井町)
- ④白米(しろよね)千枚田 (輪島市白米町)
- ⑤マッハコーヒー (能登町真脇)
- ⑥セミナーハウス山びこ ※宿泊先



視察2日目【12月20日(土)】

①輪島市門前町黒島地区

- ・重要伝統的建造物群保存地区となっている町並みが至るところで倒壊
- ・地震による隆起の影響で、船着き場は数mも上がり、海岸線が数百m単位で後退している



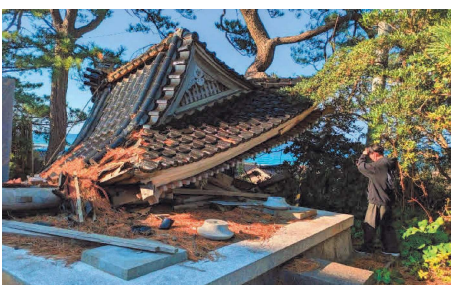
国の重要文化財に指定されている旧角海(かどみ)家住宅も完全に倒壊していた



地震による被害にも負けず、オープンしている「ゲストハウス黒島」



地震から2年が経過した今も、まだ解体が進まない家屋も残る



黒島地区内にある福善寺の鐘撞き堂も倒壊し、鐘が建物の下敷きになったまま



黒島地区の海岸も隆起により船着き場の岸壁が2m以上もせり上がっている



消波ブロックがあった場所が元の海岸線で海底の隆起により巨大な砂浜ができている

視察2日目【12月20日(土)】

② 総持寺（そうじじ） 祖院（輪島市門前町門前）

- ・ 仏教の曹洞宗の総本山である総持寺の本拠だった総持寺
- ・ 2034年までに完了させる計画で今年から修理工事に着手予定



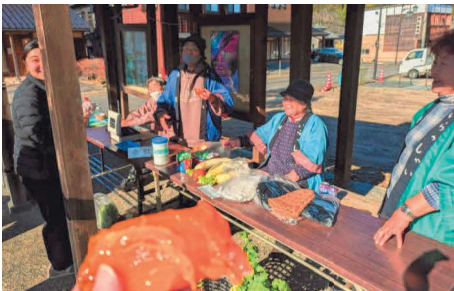
総持寺の山門前の灯籠はまだ倒壊したままの状態が残されている



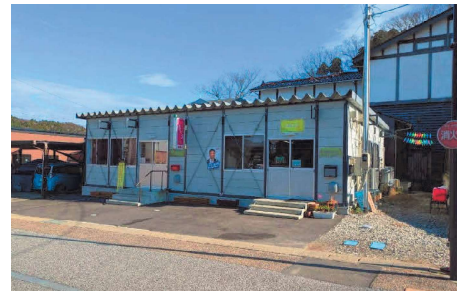
総持寺の建物は応急対策がとられているだけで復旧工事はまだこれから



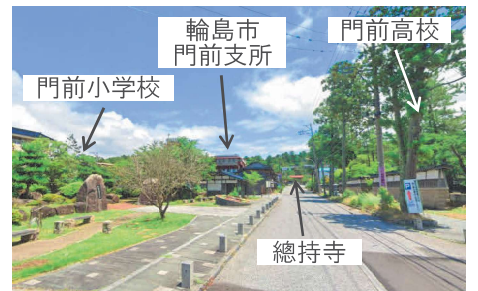
2007年の能登地震で180回転したという石碑。碑文が反対向きになっている



総持寺の参道脇で販売をしていた女性たち、熟柿をプレゼントしてくれるなど能登に住む人の優しさを感じられた



総持寺の参道脇にはプレハブの仮設店舗もあるが、空き地が点々とみられるなどかつてのにぎわいは失われている



総持寺周辺には、輪島市門前支所や小学校、高校などがあり地域の拠点だったが、震災直後はかなり混乱していたとのこと

視察2日目【12月20日(土)】

③ 輪島朝市（輪島市河井町）

- ・ かつて観光名所だった輪島朝市は、能登半島地震で火災で300棟近くが被災
- ・ 現在は公費解体（249棟）が完了し、土地区画整理が進められている



2025年4月に建物の公費解体が完了し、現在は道路と街灯などの設備が残るのみで、あとは草原の空き地になっている。



馬出小路(うまだししょうじ)という銘板の埋められた道路、心なしか通りではまだ焼け焦げた匂いがかすかにする気がした



「パワーシティ輪島ワイプラザ」の店舗内には、出張輪島朝市として仮店舗による営業を実施している



出張輪島朝市には、海産物や野菜といった地元の食材、輪島塗などの特産品など30店舗以上が営業している

視察2日目【12月20日(土)】

④白米(しろよね)千枚田 (輪島市白米町)

- ・国の名勝、世界農業遺産「能登の里山里海」の象徴的観光地である棚田では、石積み
の崩壊、用水路が通水困難になるなど、大規模な被災が発生
- ・2024年9月の奥能登豪雨でも一部の田んぼが再度被災して被害が発生
- ・実際に1000枚以上ある棚田のうち、現在は約250枚の田んぼの修復が完了



千枚あるという田んぼは、小規模な重機しか入れそうになく、
施設の復旧には相当な時間がかかりそうに見えた



白米千枚田に隣接する道の駅「千枚田ポケットパーク」
お米はもちろんのこと、各種特産品が販売されている

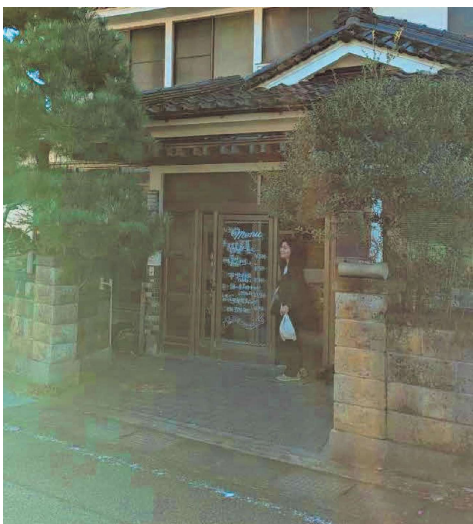
15

視察2日目【12月20日(土)】

⑤荻野 大さんのヒアリング (能登町真脇在住、マツハコーヒー店主)

- ・マツハコーヒー店主の荻野さんは、能登半島地震直後からネット販売などで事業を
再開し、売り上げの25%を地域に寄付するなど地域の復興支援をされてきた
- ・さらに仮設住宅の移動手段確保のためのカーシェアリングをスポンサーするなど
様々な形で被災地の支援をされている

※ヒアリング内容の詳細は別紙「ヒアリング結果」を参照



マツハコーヒーの店舗



マツハコーヒー店内と真脇地区で被災状況や地域の課題などを話していただきました



16

視察2日目【12月20日(土)】

⑥その他



昼食会場：輪島KABULET



昼食は美味しいお蕎麦をいただきました



宿泊施設：セミナーハウス山びこ



夕食の様子

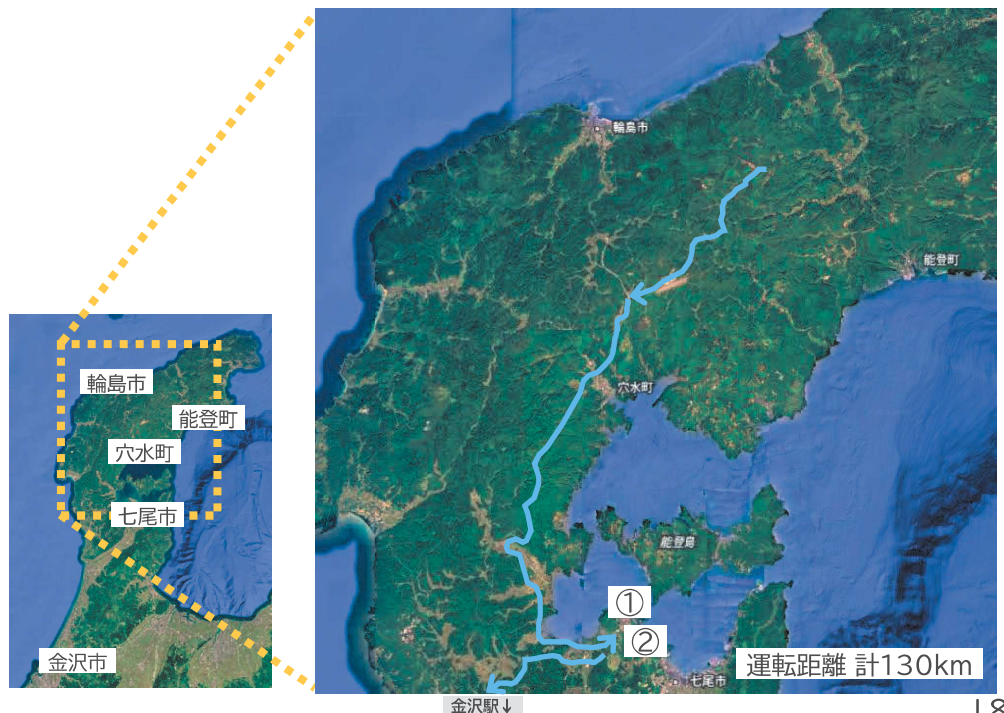


夕食後は、当日のふり返しを実施

視察3日目【12月21日(日)】

●訪問先

- ①和倉温泉お祭り会館
- ②海よ山よ（高橋さんヒアリング会場）
- ③金沢駅



視察3日目【12月21日(日)】

①高橋 正浩さんのヒアリング（元七尾市議会議員）

- ・高橋さんは、能登半島地震発生時は市議会議員として地域の復興に関わる
- ・現在は、地元である能登島のまちづくり協議会に関わりながら、復興を目指して活動続ける

※ヒアリング内容の詳細は別紙「ヒアリング結果」を参照



ヒアリング会場のさめきうどん店「海よ友よ」



高橋さんのヒアリングの様子

19

被災地視察の早稲田学区防災教育地域連携推進事業へのフィードバック

①自主防災連絡協議会が学校の先生と一緒に実施する防災授業

- ・甚大な被害を受け、2年が経過してもなお復興が見えない被災地の現状を伝える
- ・住む場所を失われた時に命をつなぐための知恵を伝える
- ・地域の一員としての役割を考えることのできる防災授業に取り組む

②公民館と地域団体が合同で実施する校外での防災体験学習

- ・災害が発生した時に命を守るための方法について、体験学習を通じて伝える
- ・ライフラインが停止した場合の体験学習を充実させる
- ・簡易トイレなどトイレの対策方法について体験学習で学ぶ

③小学生から高校生を対象とした防災リーダーの育成

- ・子供たちの判断材料となるよう早稲田学区で必要な防災の基礎知識を習得する
- ・子供だけでも災害が発生した時に適切な行動がとれるプログラムを考える
- ・子供たちが自分たちだけで様々なことができるようスキルアップする

20

早稲田学区防災教育地域連携推進事業
能登半島視察ヒアリング結果

令和8年1月

※本資料の二次利用は固く禁じます

01 輪島市立輪島中学校 福光校長先生 他

●実施日時：令和7年12月19日(金)14:40～16:00

●実施会場：輪島市立輪島中学校 校長室

●説明者：輪島中学校 福光校長先生、
輪島市教育委員会 小川教育長



写真左から4人目が福光校長先生、5人目が小川教育長

1.能登半島地震発生前の防災教育について

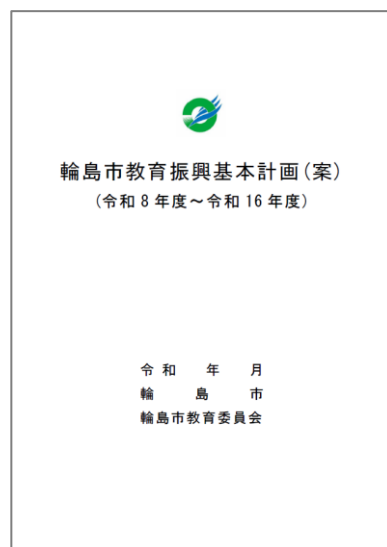
- ・能登半島では、2007年にも地震を経験していたが、当時の松陵中学校（現在の輪島中学校は2014年に統合されて設置）では大きな被害がなかった
- ・そのため、通常の避難訓練以外に、特に防災教育はしていなかった

2.能登半島地震発生後の状況

- ・地震後3か月は中学校が使用できず、石川県白山市に集団避難して授業を受けていた
- ・被災直後は、学校内の状況をコントロールできなかった。職員室に自由に入ってきて、避難所運営の方が先生のパソコンを使っていた。また、どこも避難所開設の時は体育館が割り当てられているが、それだけでは済まない。さらに、校長が24時間体制で避難所で使用する物品の対応をする状況だった
- ・4月に中学校に戻った後、小学生も中学校の教室にいたので、小・中学校の合同で避難訓練を実施してみた
- ・当初は、子供たちの心のケアに注意しており、それが落ち着いて防災の取り組みをしたいと思った時期に9月の豪雨災害があり、生徒も1名亡くなったため、再び生徒の心のケアを中心に対応することになり、令和6年度はほとんど防災教育はできなかった

3.能登半島地震の発生後に取り組む防災教育について

- ・令和7年度から教育委員会の呼びかけで、輪島市創造的復興教育「つなぐプロジェクト」という取り組みを検討して実施する方針となり、輪島中学校では1つの取り組みとして「DIG」（災害図上訓練）を実施した
- ・2学期には、輪島市のすべての小中学校が参加する一斉避難訓練を日曜日に開催した。中学生は、小さな避難所にも行き、そこで安否確認までしてから学校に登校してきて、どんな課題があったか振り返りを行った
- ・次に、同じ地域に住んでいる異なる学年（3年生と1年生など）をグループで分け、もう一度DIGによる訓練を実施して、自分たちが考えた避難場所の設定が間違っていなかったかどうか、などの確認をもらった
- ・また、生徒会や“防災リーダーズ”と防災士資格を持つ生徒を中心に、義援金を贈ってくれた学校、寄付などをしてくれた学校などと、Web会議などで県内外の学校との交流をしている



輪島市創造的復興教育プログラム
「つなぐプロジェクト」が位置づけられた
輪島市巨行く進行基本計画(案)

4.事前の備えとして必要となる防災教育とは

- ・DIGの訓練は必要だが、地震も津波も大雨も一緒に条件として与えて訓練を実施するのは難しいので、条件を絞り、家庭で話をして避難場所はどこにすべきか結論を出して提出してもらうような取り組みも必要だと思う
- ・休日（自宅にいる時）に災害が起こった時の安否確認も困難になる。地域によって通信がつかない、道路も通れないなど条件が異なるので、どうやって確認するかが課題になる
- ・学校外からの支援として、自衛隊や警察など専門家に入ってもらうことは大切。今のところ保護者が参加できる防災教育の取り組みはないが、小・中学生が合同で実施した避難訓練では、保護者も参加してくれている。
- ・自分（校長先生）も未だ納屋で生活しているような状況で、仮設住宅にいるような家庭も多い。そういう状況なので、保護者を含めた防災教育に取り組んでいるのは、これから先の話になる
- ・教育委員会が出した「つなぐプロジェクト」を活用することで、これまで学年別に考えて学習内容を決めていた先生の仕事も減らせるのではないかと考えている

02 橘 奈穂美さん (輪島市在住、2児の母)

●実施日時：令和7年12月19日(金)16:20～17:20

●実施会場：六銘館 海の駅 漆市場マリン店

●説明者：橘 奈穂美さん

1.能登半島地震発生前の防災活動

- ・自分が住んでいる地域(輪島マリンタウン)は新しい地域なので、町内会もようやくできたぐらいの状況
- ・避難訓練など地域での防災活動はしていなかった

2.能登半島地震発生後の状況

- ・指定避難所は輪島中学校だったが、最初は家のすぐ山手にある自衛隊駐屯地に避難した。ただ、自衛隊駐屯地に上がる一番の近道も崩れていたため、少し回り道してお墓に上がる道を通って駐屯地に入った。
- ・自衛隊駐屯地は災害後だったので敷地が開放されていたが、グラウンドのような広場は水たまりになっており、限られた場所とどまることしかできず、トイレも開放してもらえなかったため屋外の何もない場所で、隠す家族もいない人は、お尻丸出して用を足すしかなかった。
- ・夜の8時か9時ぐらいになって輪島中学校が避難所として開き、移動の指示があったので中学校に移動した
- ・中学校の体育館も窓ガラスが割れていて寒かった。教室も避難場所になっていたが人気で埋まってしまっていて、足を伸ばしては寝られなかった。体育館は足を伸ばして寝られるけど寒く、避難者は自由に好きなところを選んで避難する状況だった。
- ・市役所に避難した人は、人が多いため2日目に追い出されて中学校に来た、という人もいた。
- ・ふれあい健康センターは早期に電気が回復したので良かったが、人気過ぎて避難者はキツキツな状態だった。それでも充電できるので人気だった。
- ・電気がなかったため情報がなく、飛行機事故のニュースなどもかなり後になって知り、輪島朝市の火事の情報も翌日になって知るような状況だった。
- ・GENKY(食料品もあるドラッグストア)が早くから開いて頑張っていた。停電していたので買い物は現金でしか使えなかった

3.二次避難先での活動

- ・地震発生後5日目に感染症にかかり、隔離されて娘と離れ離れになって怖い思いもさせたので、6日目になって1週間ほど野々市市に移動した。
- ・両親が二次避難することになり、付き添いで一緒に加賀市の山城(温泉)に避難し、宿泊先のホテル「加賀百万石」で友人を訪ねていったのがきっかけで、NPO法人カタリバの人に会い、そこでスカウトされて働くことになった。
- ・3か月して電気も水道も復旧したので輪島市に帰ったが、(カタリバから)8月にまた活動しますと連絡があり、夏休みに輪島でも活動するので、スタッフとして参加した時にNPO法人イマジナスの皆さんと出会った



写真後列右から2人目が橘 奈穂美さん



橘さんの居住地と避難先の位置関係図



NPO法人カタリバの活動の様子
((株)インプレス社のホームページより引用)

4. 能登半島地震後の復興

1) 地域を復興するうえで課題だと思ふこと

- ・輪島では電柱も曲がったまま、歩道がガタガタで夜も出歩けない、イベント会場もガタガタでイベントをしても転ぶ人が出て危ない
- ・イベント会場や子供たちが使う公園のトイレもつまりやすい
- ・経済を立て直すため、防災教育などの名目で観光客にたくさん来てもらってお金を使ってもらい、飲食店、お土産物店、ホテルを復活させたい
- ・復興のスピードを上げて未来像を具体的に早く出すことが必要で、みんな頑張っているが未来が見えないから人口が減ってしまう
- ・災害関係の工事で知らない人たちが被災地に群がるのが怖い。良い人もいるが悪い人も紛れ込んでいる。人の土地にゴミを埋めた業者がいたり、橋の橋名板(銅板)を盗む人がいた(逮捕された)
- ・お金が上手く回らなくて撤退していく業者もいる
- ・復興を支援してくれる人、ボランティアで来る人の宿泊施設が被災地内になく、往復で3時間かかる移動時間が問題。工事を含め移動時間が問題で、人の確保難や復興作業の遅さの原因になっている



輪島市マリンタウン近くの道路状況
(東京大学 能登地域の地震被害調査(速報)より引用)

2) 被災地での復興に取り組むためにコミュニティとして必要だと思ふこと

- ・仮設住宅住まいの人、仕事を無くした年配の人が引きこもっているのが心配
- ・子供たちの遊ぶ場所も必要だが、大人の趣味・コミュニティの場所も必要。スポーツが出来たり、グランドゴルフやゲートボールなど出来たらいい
- ・ゲームセンターやパチンコ店も必要。娯楽が少ない。それが理由で引っ越し人もいる
- ・地域として、テント、段ボールベッド、段ボールトイレ、簡易トイレ、食べ物(防災食品)、水、毛布、オムツ、ナプキン、ペットシートなどを備えておく必要がある
- ・地域の拠点となる公民館とかに、紙皿、コップ、お箸、缶詰、ストーブ、灯油、やかんがあったらいい
- ・地域で防災の倉庫もあるが、賞味期限が迫る水を使ってしまった人がいて、それを補充していなかったのが災害の時に使えなかった
- ・地域で年1回の防災避難訓練をして、食料や水などの賞味期限の確認、防災食品の調理や管理などしたり、仮設トイレの練習をしたりすることが必要
- ・個人的には小銭が必要(買い物する時にクレジットは使えない)
- ・地域の人のLINEのつながりがあったらいい(安否確認の時など)
- ・地域ごとに集合場所を示すような“旗”を作るのはどうかというアイデアもある(実際に作っている地区がある)



輪島中学校の避難所の様子(令和6年1月24日時点)
大阪府守口市のホームページより引用

5. 事前の備えとして必要となる防災教育

1) 大災害発生時に備え、子供たちに教えておくべきだと思ふこと

- ・小さな地震であっても、机の下に隠れて揺れがおさまったら出てくる
- ・防寒で指定の避難所に避難をする
- ・忘れ物があっても家には戻らない
- ・小さな地震(震度5)の後で、本当に大きな地震がくる場合がある。能登半島地震では実際に2回目の地震の方が大きかったので、そういうことを伝えていきたい

2) 災害に強い地域づくりをするために子供たちに必要な防災教育とは

- ・まずは指定避難所を知っておく。そして日頃からの防災訓練は必要。
- ・避難施設に入るための鍵のある場所を知ったり、簡易トイレの使い方を練習したりしておく。
- ・2年経ったら復興していると思われるかもしれないが、被災者の人生は全然立ち直れていない。
- ・知らない土地でも、どこに避難すれば良いのか分かるようにしておく。
- ・最初に震度5の地震の時はすぐに揺れもおさまったが、その後の震度7の時には揺れている最中に電気がパパッと消え、冷蔵庫の扉は開いたり閉まったりしていた。
- ・揺れがおさまって暖かくして外に出てみたら、液状化して水が流れていて、雨でもないのに水が降っていて、道には穴がたくさん開いていて、でこぼこ形が変わり、道の真ん中は通れなくなっていた。
- ・孤独になって、忘れ去られていくことが一番怖い。伝えていくことが重要。



ヒアリング会場の漆市場マリン店

03 山本 涼華さん (穴水町役場職員)

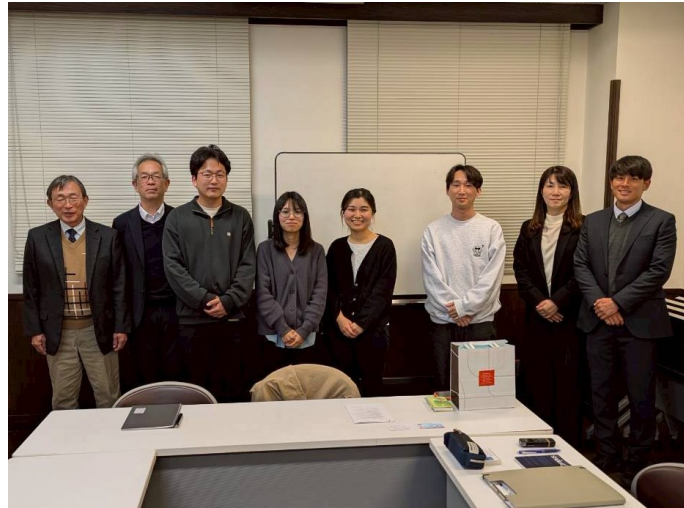
●実施日時：令和7年12月19日(金)18:00～19:00

●実施会場：さわやか交流館プルート 会議室

●説明者：山本 涼華さん

1. 能登半島地震の発生時の状況

- ・自分は物資の班にいて、発災当時は物資の配給を担当していたが、どこに何人が避難しているのか把握するのが大変だった。自衛隊の人が来て、物資の管理をしてくれるようになったので助かった。
- ・物資も2時間毎に届いたりして、発災後3日ぐらいは全く寝ることができず、時々気絶しているような状態だった。
- ・避難所を地域で運営しているので、受付なども特におらず、またお正月で町外の人が多くいて避難しているので、最初は避難者の情報管理がまったくできなかった。



写真左から4人目が山本 涼華さん

2. 能登半島地震後の復興における課題

- ・コミュニティの維持がとても課題となっている。
- ・能登では「キリコ祭り」という伝統行事がある。昔は小さな地域でも実施していたが、人口減少や若手がいなくなっていくことで無くなっていく地区もあり、近年は学生などにお手伝いで来てもらって実施していた。
- ・今回、地震が起こって、このお手伝いする人の滞在施設が多く被害を受けてしまった。キリコを保存している倉庫も被害が出て、キリコ自体が壊れてしまった物もあった。
- ・今年、2か所でなんとかキリコ祭りを実施できたが、これから先、どこまでキリコ祭りを続けていけるかは課題になっている。
- ・穴水町は高齢化率も高い中で、高齢者の見守りも課題になっている。
- ・今、仮設住宅狙いの詐欺被害や押し売りが非常に多く発生していて、高齢者をどのように守るのがかが問題。互助として機能するコミュニティ作りを仮設住宅でどのようにできるのかという課題がある。
- ・人口減少、若者の減少が課題。今、穴水町は人口減少が目立っていないが、それには理由があって、復旧。復興事業で一時的に住所を移している作業員の方などがいるため、この方がいなくなると、一気に人口減少があらわになると思う。
- ・役場職員は、発災時に休職していた人が離職するぐらいで数は減っていないが、災害後頑張っていた人が休職してしまっていることが課題になっている。支援職員の方もいるが、それも来年以降は減ってしまうと思うので、状況は厳しくなると思う。



穴水総合病院の避難状況(令和6年1月2日時点)
(中日新聞ホームページより引用)



海の中でのキリコ祭り「沖波大漁祭り」



穴水町応急仮設住宅 川島第2団地B
(Google Mapストリートビューより)

3.被災地での復興を取り組むためにコミュニティとして必要なこと

- ・地域の方々との合意形成が必要だが、キリコ祭りに代わる地区が団結できる何かが必要。実際にキリコ祭りがなくなってしまった地区もあり、小さな夏祭りなどでもいいので、自分たちでできる何かしらのイベントや子供会の行事など、その地区に合わせたコミュニティ維持のための何かが必要。
- ・穴水町は（昭和の時代に）、穴水地区・兜地区・住吉地区・諸橋地区の4つの地区が統合されてきており、今でも各地区の帰属意識が強い。行事をしても「それは穴水地区の行事」と思われてしまうので、各地区での行事などが必要。
- ・穴水町の自治会加入率は100%である。
- ・コミュニティの最小単位は自治会であり、連合自治会などはない。町内に小学校は2つ、中学校も1つしかないのので、学区という概念もない。



穴水町の地区エリア図

4.大きな災害発生に備えて災害発生前に地域で備えておくべきこと

- ・備蓄にしても、その地域だから必要と思われる物を備蓄することが大切だと思う。
- ・能登半島地震の事例でいけば、支援物資も子供の物は届くが高齢者の物は届かない。高齢者用のオムツや尿漏れパッドが不足に困ったので、そういう備蓄が必要。
- ・アレルギーフリーの食料備蓄も必要。アレルギーを持っている方は、最初に支援で届くパンなどは食べられないのでアルファ米などの備蓄が必要。
- ・地区単位での避難訓練も有効だと思う。避難訓練が出来なくても避難先を決めて、避難ルートや声かけをする人を確認しておくことが大切。
- ・医療ケアの備えがいる。（能登半島地震でも）実際に水がなくて透析ができなかった人がいたので、そうした方への対応ができる準備が必要（かかりつけ医の確認など）

5.事前の備えとして必要となる防災教育

1) 大災害発生時、自分の命を守るために子供たちに教えておくべきだと思うこと

- ・穴水町の場合だと海・山・川には近づくな、と教えることが大前提。穴水町は海と山に囲まれているので、逃げる場所は限られるが、かつて土砂災害が発生した地区（由比ヶ丘地区）の近くには高校があるのでグラウンドに逃げる、といったことを教える必要がある。
- ・子供は活動範囲が広いので、自宅以外にここにいたらどこどこに避難する、といったことを教えておく必要がある。子供は自分で判断するのが難しい場合もあるので、行動する範囲での避難先を伝えておく。
- ・決めた避難先への避難を練習しておくことも大切。

2) 災害に強い地域づくりをするために子供たちに必要な防災教育とは

- ・学校で実施する防災訓練を真剣にしてもらおう。防災訓練には、避難に必要な要素が詰め込まれているので、それを真面目にやる事も必要。さらに訓練を（自宅などで）自分でもやってみておくことが大切だと思う。子供ができるだけ指示なく行動できれば良い。
- ・防災訓練の時に地震が体験できる車両などを使って、地震の揺れを体感しながら、避難の必要性の知識を紐づけできるような方法が良いと思う。体験が無理であれば映像を見て感じることも必要だと思う。

穴水町防災訓練(令和7年10月5日開催)
(中日新聞ホームページより引用)

04 荻野 大さん（能登町在住、マッハコーヒーオーナー）

●実施日時：令和7年12月20日(土)16:30～17:30

●実施会場：マッハコーヒー店舗内、真脇地区内

●説明者：荻野 大さん

1. 能登半島地震、豪雨災害後の被災地の現状について

- ・地元の飲食店は再開し始めているが、人口は、珠洲市では半以下になっていて輪島市も同じような状況。
- ・地元に残っている人はお金に余裕がない。
- ・（被災者の）約6割が仮設住宅に住んでいて、義援金などは分配されているが、住宅の価格が1坪当たり180万円と高騰してて、家は再建できない状況。
- ・最近、仮設住宅の人に聞いてみると、5%の人が家の再建を始めたと話している。また、15%の人は家の再建計画を考え、30%の人は災害公営住宅に入る計画をしている。残りの人は、どうしたら良いかわからない状況。
- ・家の再建を決められない人は、家の再建のため借金をすることがネックになっている。
- ・地元から離れたくない、生きていたい、よその地域に行きたくはない、でもお金はない、という現実の中で、高齢者に寄り添った現実的な対応方法を伝える必要がある。
- ・被災者への支援は、物資や資金などの直接的な支援もあるが、生活再建に向けた色々な方法について調べ、生き延び方の知恵を提供してあげることも支援につながると思う。
- ・被災者の支援で健康体操をしていたりするが、本当にそれがしたいのか、と疑問に思うことがある。美容院をしていたような人なら、美容をしてお金を稼ぎたい、という人もいるのではないかなと思う。
- ・そういった技能を持っているような方が働ける仕組み作りはできていないが、例えば被災地で使えるアプリのタイマーのような仕組みや、公民館で募集できる仕組みができるといいなと思う。
- ・地域内にある事業所単位で動いてくれればよいが、そこまで動いてくれる人もあまりいないので、それで動こうとすれば社会福祉法人にするか、就労支援施設の認定を受けるかなにかしないといけないと思う。あるいは、既存の仕組みを上手く使えないか、とは思う。



写真左から5人目が荻野 大さん
（マッハコーヒー店舗内にて）



能登町真脇地区の位置図（Google Mapより）

2. 荻野さんの住む真脇地区の様子 ※真脇地区を歩きながらお話を聞く

- ・（防波堤沿いの道路は）地震の前はきれいな道だったが、地震で段差ができてガタガタになってしまっている。
- ・（真脇の）地域としては3割ぐらゐの家が取り壊された。
- ・津波は2mぐらゐの高さで押し寄せてきた（防波堤の高さと同程度）
- ・沖合の港の入口あたりがリーフ（浅瀬）になっていて、そこで津波の力が分散して力が弱まったので、町が津波の力で被害を受けることはなかった。
- ・真脇地区の人はあまり遠くには行っていない。穴水町と能登町は町外移転が少なく、町外に行った人が15%ぐらゐではないかなと思う。輪島市と珠洲市は5割ぐらゐ出ってしまったと思うので、地震が起きる前の状態には復興はできない。
- ・地震が起きて思うのは、あらゆる物がゆがんだ状態のままなので、この状態で育つ子供たちが、発育障害を起こすのではないかと心配している。そんな状況なので、子供のいる家庭ほど外に出て行ってしまふ。
- ・珠洲市などは、道路の状態がかなりひどいので、車を運転していても 酔ってしまう。



能登町真脇地区の防波堤沿いの道路

3. 令和6年能登半島地震後の復興について

1) 能登半島地震の発生後に地域を復興するうえで課題だと思うこと

- ・ 生業の再生と子供が良好に成長する環境づくりは課題だと思う。
- ・ 女性はコミュニケーション能力が高いのでまだ良いが、男性の方が生活を再建するうえでは問題があるように思う。大工さんなどが技術はもっていても、道具が地震や津波ですべて失われ、被災前のように仕事はできずに自殺してしまった人もいる。
- ・ 行政機関も災害対応で通常業務も十分にできない中で、地域も痛みを共有しながら再生をしないといけないが、主には経済的な要因が課題になると思う。収入はない、物価は高くなるという環境で、お金の価値は半分ぐらいになってしまう。
- ・ 奥能登では漁獲量が減り、魚の値段が高騰したために地域の人を買えない状況なので、漁村でも店に肉しか並ばない。石川県全体でも地震前の6割ぐらいしか漁獲量がない。



避難所でコーヒーを提供する荻野さん
（グリーンコープのホームページより引用）

2) 被災地での復興を取り組むためにコミュニティとして必要だと思うこと

- ・ 定期的集まって話ができる環境が必要だと思う。
- ・ 真脇地区では密やかなコミュニケーションが維持されているが、被災が深刻な地域では、災害ボランティアの方が入ってそういう場を作り、住民同士をつなぐ努力をしている地域もある。

3) 大きな災害で地域が被災した場合に備えて、災害発生前に地域で備えておくべきだと思うこと

- ・ 食料、水、仮設トイレが必要。
- ・ トイレは、地面に穴を掘ってその上にトイレの建屋を建てられるスキルがあった方が良い。便器に袋をかけて使うタイプは、ゴミの山になるので対応が大変。
- ・ 被災直後はゴミ処理の担当者も被災していて収集も焼却も機能しないので、当面、個人で処理するしかなくなる。



能登町では1月5日には外部から仮設トイレ支援が開始されたが、一部の避難所に限った支援であり、多くの地域でトイレの対応に苦労した

5. 事前の備えとして必要となる防災教育

1) 大災害発生時、自分の命を守るために子供たちに教えておくべきだと思うこと

- ・ 人の言葉を鵜呑みにするのは良くないので、自分で判断できる力を養うこと。
- ・ 誰かがなんとかしてくれる、と思わずに、自分でなんとかする力が必要。
- ・ 被災地でも誰かがなんとかしてくれる、と思って暮らしている大人の姿を見つけて、その大人の姿のらしなさに子供たちが嫌気をさしている事例もある。
（例：支援物資で衣料品を提供された被災者が、他の支援で少し格下のブランド品の提供を受けた時に「なんだこんなつまらない物」と言ってしまう大人がいる、炊き出して提供される食事を選び好みしてしまう、など）
- ・ 普段から自分の命を守るために、自分で生き延びる方法をちょっと考えるくせをつけておく。
- ・ まずは一晩を生き延びるために必要なことを考えさせる。
- ・ どこでもトイレができる図太い神経を持つことも必要だと思う。

2) 災害に強い地域づくりをするために子供たちに必要な防災教育とは

- ・ 災害が起こった時の大きな課題は生計の立て直しになるので、被災後にどのようにお金を稼げばよいのかを伝えることが大切。
- ・ 防災の知識なども必要だと思うが、子供たちが自分だけでできることを体験させて実際に災害が起きた時に自ら判断し行動できるようにすれば良いと思う。
- ・ ボランティアとしてすること、お金を稼ぐためにすることを、子供たちにも教えておくことは良いことだと思う。



能登町立小木中学校では伝統的に生徒主体での防災教育に取り組んでいた
（小木中学校ホームページより引用）

※この報告書は、荻野 大さんからお伺いしたお話を一部要約しています

05 高橋 正浩さん（七尾市在住、元七尾市議会議員）

●実施日時：令和7年12月21日(日)10:10～11:40

●実施会場：海よ友よ（うどん店店内）

●説明者：高橋 正浩さん



写真後列左から3人目が高橋 正浩さん

1. 令和6年能登半島地震後の復興について

1) 能登半島地震の発生後に地域を復興するうえでの課題

- ・能登半島は、震災前の過去にさかのぼっても、目標となる時点がないので、災害後の現在をゼロベースとしてあるべき姿を議論したうえでゴールを設定しないとけないと思う。
- ・復興について精神的な目標は立てやすい。一方で、ハード的な事業計画となると、過去に計画がないので、合意形成などは困難になる。よって、個別の再建は別として、町全体としてどの程度復興したのかという説明は難しく、それを始めるためには復興のイメージを共有することが課題だと思う。
- ・地域でリーダーシップをとれる人も少ないという点も課題である。
- ・建設費の高騰も課題。5年前なら30億円ぐらいと思っていた工事が50億円ぐらいかかる。民間事業ではこのコスト増が重い負担になる。
- ・東日本大震災と比較されるが、10年以上時代が進んでしまっている中で、地域の高齢化が進んで働き手や担い手の確保は難しくなり、働き方改革で若い人達も昔のように頑張れない。また、県庁所在地が被災せず、金沢の人たちは他人事で、復興を進めるのは難しい。



被災直後の和倉温泉繁華街
（神奈川新聞のホームページより）

2) 被災地での復興に取り組むためにコミュニティとして必要だと思うこと

- ・七尾市では、公民館はコミュニティセンターになっており、地域づくり協議会が運営している。公民館は、地域の小規模自治の拠点として機能するべきで、公民館で事業化・予算化できるように位置付けるため、七尾市のまちづくり協議条例を改正した。公民館長も地域づくり協議会の事務局長にして、報酬と体系も見直して、小規模多機能自治をする施設としている。
- ・自分も能登島の地域づくり協議会で活動している。この協議会で実施している活動、例えばロードレース大会などでは、1000人の参加者の受付をして、1000人の参加者がゴールしたら食べ物などを配るのは防災訓練と同じである。これをしておけば、1000人の人が避難しても、必要な機材がどこにあるのか、誰が炊き出しのリーダーになれるのか、救護班はどのように対応するかなどの訓練につながる。
- ・老人会と子供会の活動を普段から活発にしておけば、災害時に支援が必要な人を減らすことができ、限られた人員で効果的な災害対応ができる。



能登島ロードレースの様子

3) 大きな災害で地域が被災した場合に備えて、災害発生前に地域で備えておくべきこと

- ・地域が当たり前の活動ができて、10年後の将来を計画していれば、それを被災した時に目標にできる。地域住民としての責任を果たすことを感じることで、高齢者と子供たちが支える側になれるかで大きく変わる。
- ・地域づくり協議会を作ったのは、町会長が地域を運営していた時代とは異なり、女性や若い世代の人の意見が聞ける場があること。
- ・中間支援組織としての役割・位置づけを定義して、丁寧に機能させるためにトレーニングしておくことで、中間支援組織の厚みが増す。この厚みが増すことが最大の備えになる。
- ・学校のコミュニティスクールにしても、地域側に学校を支援する仕組みがあって初めてできるのであって、誰でも学校に入れる訳ではなく、中間支援組織としての役割は必要。
- ・能登島でも今も仮設住宅に住んでいる方はいるが、中間支援組織としての協議会が自治力を鍛えていたから、仮設住宅の町会もできたし、避難者数の減少に合わせて子供たちが学校に行けるよう小学校を閉鎖できた。



能登半島地震後に作成された
能登島将来ビジョン2.0

2. 事前の備えとして必要となる防災教育について

1) 大災害発生時、自分の命を守るために子供たちに教えておくべきだと思うこと

- ・まずはどこに避難するのか、災害時に子供に難しいオペレーションを実行させることはできないので、避難の方法を徹底させることが大切だと思う。(学校以外にいる時は)避難情報が出たら川など危ない場所には近づかず、真っすぐ避難する。ただし、学校にいる時は先生の指示をしっかり聞いて守れるのが大切。
- ・発災後の1時間もしくは24時間までは自分の身を守るということが大切だけど、もっと大切なのはその後みんなで助け合わないといけない状況になってからだと思う。ただ、そこを教育として教えていくことは簡単ではなく、日々、様々な場面で教えていくしかない。
- ・トイレや食事の問題は、子供だけではどうしようもないので大人がするが、そこは思っている以上に公的な支援がしっかりしている。必要な物資も必ず届きはするが、何が必要なのかを決め、届いた時にそれを分配するのは地域でしないとイケない。それができるように地域の練度を高め、そこに子供も参加できるようにできる環境作りが必要。
- ・職員室に「万事、防災」と貼っておくことをオススメする。



能登島での高台避難訓練の様子

2) 災害に強い地域づくりをするために子供たちに必要な防災教育とは

- ・学校生活を含めて日頃の暮らし方がどう防災につながるのかを理解させることが必要。シンボリックに防災訓練を実施することももちろん大切けども、日常でみんなが関わる暮らしの場面、並んで座る、大人の話をしちんと聞く、上級生が下級生の面倒をみることなど、あらゆることが防災につながることで、役に立つんだということ子供たちに伝えることが教育になる。

3. その他意見交換

(問) 行政としては、避難所の早期閉鎖を目指し、学校機能を早く回復させる方針だが、避難所である学校に残りたいという避難者もいる中、このような避難者に対して、行政と地域はどのように説得をするべきか

- ・避難所から出たくない人はいるが、避難所をどんどん集約して最後は1つにするしかない。ただ、避難者も準備があるので1~2か月前にお知らせをする必要があり、中間支援組織と協力して対応できるようにする

(問) 学校の避難訓練の見直しが必要だと思った。決まった時間に放送が鳴り、雨だったら(想定が地震なのに)体育館に避難して、というあり得ない状況で訓練している。もっと考えさせる訓練が必要だと思った。

- ・中学校はクラブ活動などでの生徒との接点も希薄になる。放課後に災害が発生した時のリスク管理も必要。災害時には生徒と同様に先生も守らなければならない。そのために先生と生徒、先生と保護者の間のルールも必要だし、学校と行政機関の間でも事前に様々なことを取り決めておくことが重要になる。

(問) NPO法人として地域の防災ネットワークに参加しているが、災害時にどのような方法で協力していくか、団体としての共通認識を持ち、どう進んで行くかを話し合っておくことが大切だと感じた。

- ・中間支援組織を育てるために必要なのは「エージェント(仲介者)」だと思う。災害時でも行政と地域が目標は一緒でも具体的な対応になると話がかみ合わない場合が色々ある。そこを上手くつなぐ役として、NPO法人の役割は大切だし、客観性と専門性をもって先を見ながら助言すべきだと思う。

(問) 避難所を開けないといけない時に、自分が不在でもとりあえず2~3日は地域で頑張れるような仕組みや体制を作りたい

- ・トイレの段取りをどうするか、鍵がない時に窓を破っていいのか、といった事を決められないことが問題。それを決められる人が必要になるので、どの人なら任せられそうなのか、日頃の活動や付き合いの中で見つけていく必要がある。



高橋さんとの意見交換の様子

※この報告書は、高橋 正浩さんからお伺いしたお話しを一部要約しています

広島市立早稲田中学校

防災学習の手引き書

早稲田中学校の総合的な学習の時間では、「平和学習」「キャリア学習」「防災学習」の3つを学習の柱としています。本書では、「防災学習」について、これまでどのような学習内容を実施してきたのかを紹介します。

令和8年1月

もくじ

1章 防災学習の概要

- － 防災学習のねらい
- － 学習のステップ
- － 実施までの流れ

2章 防災学習の内容について－2025年度の実施内容より－

- － 1年次の防災学習
実施されたプログラム
使用された教材
- － 2年次の防災学習
実施されたプログラム
使用された教材
- － 3年次の防災学習
実施されたプログラム
使用された教材

3章 参考資料編

- － 過去に実施していたプログラム
- － 「平成30年7月豪雨災害 早稲田学区の記録」
- － 早稲田学区における防災まちづくり
- － 早稲田学区自主防災連絡協議会について
- － 早稲田学区内の町内別の特徴
- － 早稲田学区の土砂災害の危険性
- － 早稲田学区における地震の危険性
(大規模盛土造成地含む)
- － 早稲田学区の避難所・避難場所情報
- － 地震時における生活避難場所開設までの手順
- － 大規模火災時の対応
- － わせた防災教育プログラム
- － ジュニア防災リーダーの育成
- － 参考となる外部サイト紹介

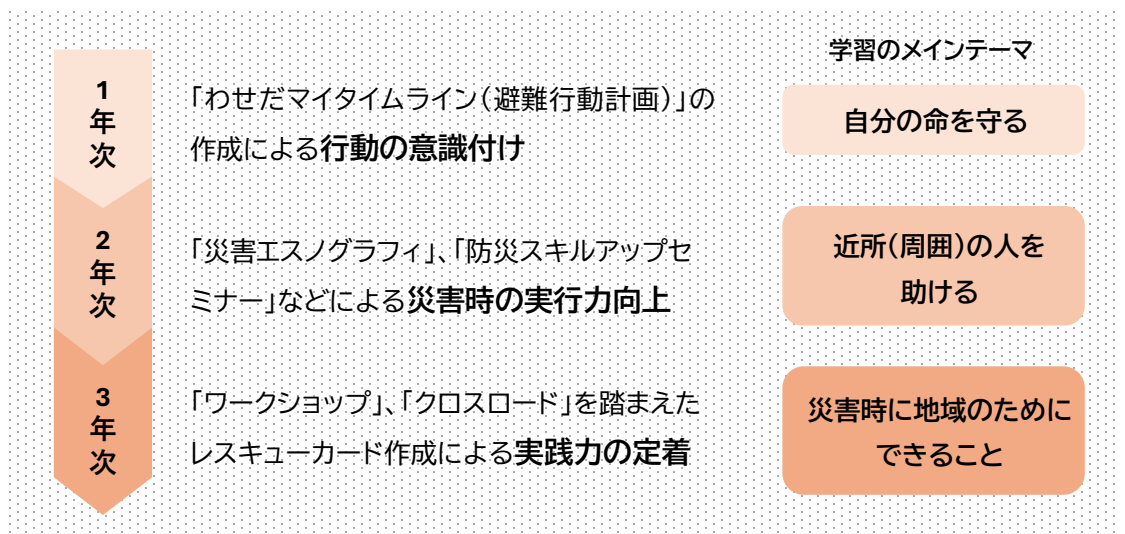
1章 | 防災学習の概要

● 防災学習のねらい

早稲田中学校の防災学習は、総合的な学習の時間の全体テーマである「地域社会で共に生きる」に基づき、地域の防災に対して、自分たちはどのような取り組みができるのかを探求しながら、地域の自主防災組織（早稲田学区自主防災連絡協議会、以下わせた自主防）と協力して地域の防災にとって必要な知識・技能を習得します。さらに、習得した知識・技能を活かすために、地域の防災の在り方を考え、自らの生活や行動に結びつける意識を養うことをねらいとします。

● 学習のステップ

防災学習は、3年間を通して以下のステップで学習し、スパイラルアップを図ります。

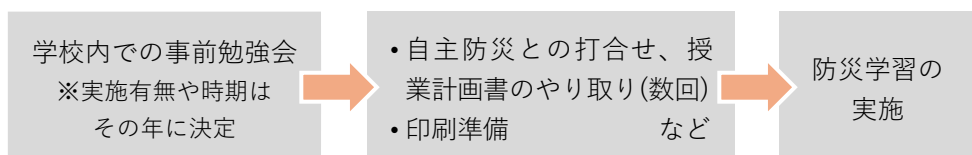


■ 補足

早稲田中学校のある早稲田学区は、三方を山々に囲まれており、大雨や地震による土砂災害の危険性があります。実際に平成30年の西日本豪雨では、早稲田学区も被害を受けています。そのような中で、地域組織によって作成された地域防災計画「わせた防災プラン」と、早稲田中学校で進めていたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）との方針が重なったことから、令和4年度から、地域と連携しながら、3学年通して防災をしっかりと学ぶ学習スタイルとなりました。

● 実施までの流れ

防災学習は、基本的にわせた自主防の防災士と協力して実施しています。そのため、実施に向けてわせた自主防と学習内容や役割分担に関する打合せを行います。防災学習実施までの流れは例年次の通り進みます。



2章 | 防災学習の内容について –2025年度の実施内容より–

2025年度に実施された内容を基に、各学年の学習内容について紹介します。

●1年次の防災学習

1年次では、『**自分の命を守る**』を学習のメインテーマとします。

まず、「わせだ防災マップ」を活用し、マップ上で災害の危険性や必要な備え、防災行動などについて自分たちで考えます。

さらに、過去の被災現場を見学しながら、事前に自分たちが考えた防災行動や備えが正しいか、不足している点はないかなどをグループで意見交換し、防災行動の考えを深めます。

最後に、マイタイムライン（避難行動計画）を作成して、災害時（主に土砂災害）の防災行動を具体化し、自分の命を守るための行動や備えを計画します。

●実施されたプログラム

プログラム1 防災マップから考える（グループワーク）

わせだ防災マップを見ながら自宅や通学路にある災害の危険性について確認し、命を守る行動を考えることで、災害への備えの必要性を確認する。

→授業計画書例はp5



プログラム2 災害現場で「命を守る行動」を考える

実際に災害現場を見学して、防災マップだけでは分からない情報を知るとともに、防災マップを見て考えた備えや行動と実際を比較して、気づかなかったことなどを自身の中で更新する。また、他者の異なる意見を聞くことで、災害時の行動について理解を深める。

→授業計画書例はp6



プログラム3 わせだ防災マイタイムラインの作成（グループワーク）

大雨時に取るべき避難行動計画をマイタイムラインとして整理し、安全を確保するための自分の行動計画を具体的に決める。また、グループで互いの計画のポイントを共有する。

→授業計画書例はp7



プログラム1 防災マップから「命を守る行動」を考る 授業計画書(2025年度版)

- ◎ 学習の目標：命を守る行動を考えることから災害への備えの必要性を確認する。
 わせだ防災マップから、災害の危険性を確認する。
- ◎ 準備品：【中学校】配布資料1-1：防災クイズ回答シート
 配布資料1-2：グループワークまとめシート（A3サイズ）
 道具類：赤いマジック（サインペン）
 【自主防】配布資料1-3：防災士認定カード
 道具類：わせだ防災マップ（A2サイズ、15枚）

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
①防災クイズ					
導入 (35分)	13:35	中学校	防災3択クイズ		
	13:40		<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介（防災士から） ・《パワーポイント：防災学習の目的》 ・防災学習の目的を説明 ・防災に関する3択クイズのルールを説明 ・《パワーポイント：防災クイズ》 → 正解した生徒は回答シートに○印をつける → クイズの問題に関して解説を行う ・最後に最多正解者を表彰 → 「早稲田学区防災士」認定カードを渡す 	クイズの答えについて、防災士から解説を加える	説明資料1-1 説明資料1-1 配布資料1-1
	14:10				
②平成30年7月西日本豪雨での早稲田学区内の被害を知る					
展開① (15分)	14:25	自主防	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨災害の振り返りによる早稲田学区の危険性の確認 ・《パワーポイント：防災学習の目的》 ・H30.7豪雨での早稲田学区での被災状況を紹介 ・早稲田学区で注意すべき災害を確認 → 主に地震・土砂災害・火災に注意 	基本的に生徒に問いかけながら進行する (生徒は保育園年長の時)	説明資料1-1
< 休憩 >					
③【グループワーク】防災マップから災害時の行動を考る					
展開② (35分)	14:35	中学校	わせだ防災マップで災害時の危険性や備えを考る		
	14:45		<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの形に変更 ・「わせだ防災マップ」をグループに配布 ・《パワーポイント：防災マップで行動を考る》 ・防災マップに以下の場所をマーキングする ①早稲田中学校 ②西日本豪雨被災箇所 → 女学院大学奥の土石流現場 → 神社通りのがけ崩れ現場 	わせだ防災マップの使い方を解説しながら進行する	道具類 説明資料1-1 道具類
	15:00		<ul style="list-style-type: none"> ・自宅、通学路での危険性についてマップで確認する ・大雨の時に注意すべきこと、必要となる備えについてグループで意見交換する ・大雨の時に自分の命を守るために必要なことをグループでまとめる 	生徒がどの程度災害について理解しているかを確認できるよう、できるだけ余計な説明をせず、意見交換をさせる	配布資料1-2
グループ発表					
④【ディスカッション】自分の命を守るための備え					
まとめ (15分)	15:10	自主防	「命を守る行動」をとるために必要な備えを確認する		
	15:25		<ul style="list-style-type: none"> ・《パワーポイント：命を守るために必要な備え》 ■意見交換 ・災害時に1人の場合、自分の命をどう守るか考る ・自分の命を守るために必要な備えを考る 	生徒を何人か指名して尋ねる 生徒が答えた内容について意見や助言をする	説明資料1-1
			・次回のお知らせ		

1年次の防災学習

プログラム2 災害現場で「命を守る行動」を考える 授業計画書(2025年度版)

◎学習の目標：災害現場で説明を聞くことで、防災マップ上では分からない、新たな情報を知る。
 防災マップを見ながら考えた備えや行動について再確認し、気づいた情報を更新する。
 災害現場を見て考えた意見を他者と共有し、異なる価値観を確認した上で、最適な行動を考える。

◎準備品：【中学校】配布資料1-3：「クロスノート（生徒用）」（生徒人数分）
 道具類：グループ意見整理シート（A3サイズ、グループ数分）
 【自主防】説明資料1-2：「防災クロスロード」
 配布資料1-3：「クロスノート（出題者用）」
 道具類：YES・NOノーカード、丸シール（大、青・黄）

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材	
導 入 (2 5 分)	13:35	中学校	【災害現場の見学準備】		安全に留意し、右側通行を徹底するよう確認する。	
	13:40		<ul style="list-style-type: none"> 防災士の自己紹介 見学先、見学時の注意点などについて説明 生徒の人数確認後、現場に向けて出発 【1組】広島女学院大学の土石流発生現場 【2組】神社通りのがけ崩れ発生現場 			
展 開 ① (5 0 分)	14:00	自主防	【地域取材】災害現場を見学し災害時の行動について考える		説明担当以外の防災士も災害を受けて、命を守る備えについて自分なりの思いを伝える	説明資料1-3,1-4
			<ul style="list-style-type: none"> 現場到着 《紙芝居:平成30年7月の災害発生状況》 災害発生時の状況を説明 災害の発生原因について説明 災害発生後の状況を説明 <ul style="list-style-type: none"> → 地域への影響 → 避難所の運営や被災場所での対応など 災害後に取られた対策内容を説明 <ul style="list-style-type: none"> → ハード対策を中心に説明 地域として災害に対する思いを説明 			
	14:20		●生徒からの質疑応答			
	14:30 14:50		<ul style="list-style-type: none"> 見学場所から出発 中学校に到着 			
＜ 休憩 ＞						
展 開 ② (2 0 分)	14:55	中学校	【グループワーク】命を守る備え・行動の再確認		防災士はグループ毎に質問等がないか聞き、できるだけ生徒と意見交換をする	道具類
	15:05		<ul style="list-style-type: none"> 災害現場で確認したことを整理 確認したいことがあれば防災士に確認 まとめシートの内容を更新 			
ま と め (1 0 分)	15:15		《パワーポイント:災害後に地域で考えたこと》		地域が担うのは防災行動を考えるためのきっかけ作りであり、最後は自己責任であることを説明	説明資料1-2
	15:25		<ul style="list-style-type: none"> 災害後に地域で実施した主な活動を紹介 個人ごとに必要となる備えと行動を説明 			
			<ul style="list-style-type: none"> 来週の授業内容を告知 「わが家の防災準備リスト」の作成を宿題にする ジュニア防災リーダーの募集案内 	「わせたマタイムラインの作成」	配布資料1-4 道具類	

プログラム3 わせだ防災マイタイムラインの作成（グループワーク） 授業計画書(2025年度版)

- ◎学習の目標：わせだマイタイムラインの作成により自分にとっての避難行動を考える
- ◎準備品：【中学校】配布資料1-5：グループワークシート（A3サイズ、各グループ1枚）

【自主防】説明資料1-3：「わせだ防災マイタイムラインの作成」

配布資料1-6(図1)：マイタイムラインシート、避難行動フロー図、避難行動シール 各60枚

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (5分)	13:35 13:40	自主防	<p>これまでの学習をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介（防災士から） 【パワーポイント:これまでの学習のふり返り】 1回目、2回目の学習で実施したことを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目のわせだ防災マップで考えたこと、災害現場で考えたことを振り返る 	説明資料1-5
展開 ① (45分)	14:00 14:25	中学校	<p>「わせだ防災マイタイムライン」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガイダンス:わせだ防災マイタイムラインについて 【パワーポイント:わせだマイタイムライン】 〔ガイダンス内容〕 <ul style="list-style-type: none"> 警戒レベル、各種情報の意味 早稲田学区における避難場所、分散避難 ●マイタイムラインの作成 【パワーポイント:マイタイムラインの作成】 <ul style="list-style-type: none"> 避難判断フローを使用して避難先を決める 避難先を記入する 避難行動シールをマイタイムラインシートに貼る 「わが家の防災準備リスト」の備えも確認する 	<p>図1 配布資料6:マイタイムラインの作成時の配布資料の内訳</p> 	<p>説明資料1-5</p> <p>説明資料1-5</p> <p>配布資料1-6図1内③</p> <p>図1内①、④</p> <p>2回目で配布した配布資料1-4</p>
< 休憩 >					
展開 ② (40分)	14:35 15:00 15:15	中学校	<p>マイタイムラインの整理と情報共有</p> <p>【パワーポイント:マイタイムラインの共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ毎にグループシートで以下の項目の整理結果を書き出す (書き出す内容) <ul style="list-style-type: none"> ◆避難先（在宅避難・どこかに避難） ◆「在宅避難」を選んだ人の行動内容を整理 ◆「どこかに避難」を選んだ人の行動内容を整理 ◆大切な備えや行動ベスト3を選ぶ <p style="text-align: center;">< グループ発表 ></p>		説明資料1-3 配布資料1-4
まとめ (10分)	15:25	自主防	<p>「わせだ防災マイタイムライン」で大切なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> マイタイムラインで大切なことは何か <ul style="list-style-type: none"> → 災害が起こりそうな時の備えを確認すること → 作成した計画を必ず実行すること 防災学習を通じて忘れないでほしいこと 	<p>時間があれば、マイタイムラインを作成してみた感想を生徒から聞く</p>	

1年次の防災学習

●使用された教材について（2025年度分）

授業の中で使用された教材（説明資料やワークシートなど）を紹介します。

種類	番号	内容	該当 プログラム	掲載頁
説明資料	1-1	防災マップから考える	1	p9~
	1-2	災害現場から考える	2	
	1-3	がけ崩れ_現場説明資料	2	
	1-4	土石流_現場説明資料	2	
	1-5	わせだ防災マイタイムラインの作成	3	
配布資料 (ワークシートなど)	1-1	防災クイズ回答シート	1	
	1-2	グループワークまとめシート	1	
	1-3	早稲田学区防災士認定証	1	
	1-4	わが家の防災準備リスト	2	
	1-5	マイタイムライン グループシート	3	
	1-6	マイタイムライン 行動シール	3	

1 年次：説明資料1-1「防災クイズディスカッション」(1/2)



防災学習の目的

近年、毎年のように大きな災害が起こっています

- ◆地球温暖化による豪雨災害の増加
 - ・海氷の上昇などが原因で集中豪雨が思え、日本の全国各地で大きな洪水や土砂災害が毎年発生しています。
- ◆広島県でも、平成22年・26年・30年、令和3年と数年おきに土砂災害や河川の氾濫などにより大きな災害が発生しています。

令和6年 能登半島では地震と水害が発生

- ・石川県で令和6年1月1日に発生した地震は、高知県でも、最大震度7を記録した地震を含め震度5以上の地震が連続して発生
- ・被害を受ける地域により、多くの建物や施設を受けたほか、道路や鉄道、電気施設なども深刻な被害を受けました。
- ・さらに9月21日には地震で被災した地域で大きな水害も発生して、地震の被害から復旧していた建物や施設が再び被害を受け、被害が甚大な地域・施設がなかなか被害がない状況となっています。

防災学習でみなさんの備えを万全にしましょう

- ◆早稲田学区で注意すべき災害を知りましょう
 - ・早稲田学区では、どんな災害に対して備えるべきか考えます。
- ◆自分の備えは十分かを確認します
 - ・災害に対する備えがバッチリできているかを確認します。

平成30年7月豪雨災害 早稲田学区の被災について

平成30年7月豪雨での被災状況

◆平成30年7月豪雨での被災状況

◆早稲田学区で注意すべき災害には何があるでしょうか？



防災クイズ

◆防災クイズのルール

- ・クイズは3択クイズです。
- ・正解した人は、防災クイズ回答シートの正解欄に「O」印をつけましょう

目指せ、全問正解！

問題①

地震発生！まずしないといけないことは何？

1. 火事にならないように火を消す
2. 頭など落ちてくる物から身を守る
3. 危険な屋内からすぐに外にでる

答え

2. 頭など落ちてくる物から身を守る

ゆれを感じたら、物が落ちてきたり、何かが倒れてきたりしても大丈夫のように、身を守ろう

問題②

日本で土砂災害の危険な場所が最も多い都道府県はどこ？

1. 島根県
2. 山口県
3. 広島県

答え

3. 広島県

広島県には、5万か所近くも土砂災害の危険がある箇所があって、日本で一番危険な県。

答え

1. 火災の発生を周囲に知らせる

火事に気づいていない人の逃げ遅れを防ぎ、周囲の人も消火に協力することができます。

問題④

非常持ち出し品として準備する物で正しいのはどれ？

1. 長期避難生活で使用する物を準備する
2. 食料としてお米が1kgは必要
3. 2～3日を過ごす最低限の物を用意する

答え

3. 2～3日を過ごす最低限の物を用意する

必要以上の物を準備しても、重すぎて持てなければ意味がなくなります

答え

2. ガソリンスタンド

ガソリンスタンドは、基礎が強く、地震・火事に強い建物です。

問題⑥

マンションで土砂災害に襲われた場合、おおよそ何階以上なら安全？

1. 2階
2. 3階
3. 4階

答え

2. 3階

がけ崩れや土石流は5mぐらいの高さまで土砂に襲われる危険性があります

1 年次：説明資料1-2 「防災クロスロード」 (1/2)

早稲田中学校 1 年生 防災学習
② 防災クロスロード



前回のふり返り

<p>◆命を守るために必要な備え</p> <p>●命を守るために必要な条件とはなにか？</p> <ul style="list-style-type: none"> → 安全に過ごせる場所が確保できるか → 生活に必要な物の確保ができていますか 	<p>◆命を守るために必要な備え</p> <p>「今日からできる備え」</p>
<p>●最適な行動を決めるために必要な条件とはなにか？</p> <ul style="list-style-type: none"> → 自分の現在の安全が判断するための情報が分かるか → 現在と今後の安全性(危険性)を判断するための情報が分かるか → 迅速に行動できるための準備ができていますか → 家族など大切な人の安否を確認できるか → 情報を正しく理解するための知識を持っているか 	<p>◆命を守るために必要な備え</p> <p>「今日からできる備え」</p>

防災クロスロード

<p>◆防災クロスロードとは</p> <p>●災害時の行動は判断の連続です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きた時、起こりそうな時に、時間や情報が限られる中で、様々な選択をしなければならぬ場面があります。 ・防災クロスロードは、そのような場面に各自がどのような選択をするのかを定め、その選択した理由を意見交換することで、どのような選択をすべきなのか具体的に考えることができるゲームです。 ・クロスロードは「分かれ道」という意味で、1995年(平成7年)に発生した阪神淡路大震災を体験した神戸市の職員の方の実体験から考案で作られました。 	<p>◆防災クロスロードのやり方</p> <p>●持ち物を確認する</p> <p>以下の持ち物があるが確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① YESカード、「NOカード」(各自1枚ずつ) ② 防災クロスノート(各自4ページ分) ③ 丸シール(青・黄、グループに1枚ずつ)
--	--

<p>◆防災クロスロードのやり方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) クロスロードの問題を読み上げます 2) 問題に対して「YES」か「NO」か自分の答えを決めます 3) 答えのカードを白い表を向けて出します 4) 一言にカードを裏返します 5) グループの多数派だった人は得点欄に青シールを貼ります 6) グループで1人だけ意見が違った人は黄シールを貼ります 7) 複数人数のグループで意見が半分に分かれた場合は、全員が青シールをもらえます。 	<p>◆問題の後はグループで意見交換をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人だけ意見が違う人がいたら黄シール●をもらう。 ・多数派、もしくは両点だったら青シール●をもらう。 ・YESを選んだ人は、NOの問題点を説明する。 ・NOを選んだ人は、YESの問題点を説明する。 ・YES、NOそれぞれの問題点をクロスノートに記入する。 ・すべての問題点が出たら、グループでどうすれば一番良いのかを考え、まとめた意見をグループの意見まとめの欄に記入する。 	<p>練習問題 「ココ」を避難所に連れて行く？</p> <p>早稲田学区で強い地震が発生しました。家にもひびが入って危険な状態です。家族であるゴールデンレトリバーの「ココ」(オス3歳)を連れて避難所に避難する？</p> <p>YES:ココを避難所に連れて行く NO:ココを避難所に連れて行かない</p>	<p>意見交換 「ココ」を避難所に連れて行く？</p> <p>●YES(ココを避難所に連れていく)の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に人がいない人がいたら危険 ・ココが避難所で眠っていたら、おのれに怒られそう ・ココが避難所で家と同じような生活ができるか不安 <p>●NO(ココを避難所に連れていかない)の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に連れていって余震で逃げてしまってもいけない ・ココが眠れて居なくなるかもしれない ・避難所に人がいない人がいたら危険 <p>このように「YES」または「NO」の答えの問題点はなにか意見交換します</p>
---	--	---	---


<p>では、最初の問題です</p>	<p>問題① 非常持ち出し品をあげる？</p> <p>地震で自宅は半壊状態、家族そろって避難所へ。だが、日頃の備えが不十分。非常持ち出し品には水も食糧も3日分はある。一方、避難所には水も食糧も持たない家族多数。その前で、非常持ち出し品をあげる？</p> <p>YES:あげる NO:あげない</p>	<p>カードをオープン！</p>	<p>問題② 登校中に大地震発生！</p> <p>登校中、中学校までの通学路の中間あたりに来たところで大地震が発生。地面にしゃがんで揺れが止まるのを待った。見ると、あたりの家は瓦や壁などが崩れている。家族と家が心配だ。家に帰る？</p> <p>YES:家に帰る NO:中学校に行く</p>
-------------------	---	------------------	--

<p>◆カードをオープンして得点をつける。</p> <p>◆グループで意見交換してまとめる。</p>	<p>問題③ 足が悪い祖母の避難</p> <p>大雨で土砂災害の危険が高くなり、夜中に早稲田学区に避難指示が出された。自宅は土砂災害で危険な場所にあるが、足が悪い祖母(75歳)を連れて暗い中の避難には心配がある。今すぐ避難を始める？</p> <p>YES:避難を始める NO:避難をやめる</p>	<p>◆カードをオープンして得点をつける。</p> <p>◆グループで意見交換してまとめる。</p>	<p>問題④ 避難所での受給勉強</p> <p>災害で被災して避難所生活になったが、2か月後には高校受験が控えている。避難所では人手が足りず、様々な作業を手伝って感謝されるが、勉強は手につかず学校に合格できるか不安になってきた。避難所の手伝いをやめて勉強に専念する？</p> <p>YES:勉強に専念 NO:避難所を手伝う</p>
--	--	--	---

<p>◆カードをオープンして得点をつける。</p> <p>◆グループで意見交換してまとめる。</p>	<p>問題⑤ 新しい家での家具の固定</p> <p>最近、新しいマンションに引っ越した。家族みんなが新しい家を気に入っている。しかし、大地震が起きたら危ないの、父は家具に固定金具をつけると言い、母は見た目が悪くなるの金具の取付けに反対している。父の意見に賛成する？</p> <p>YES:父に賛成する NO:母に賛成する</p>	<p>◆カードをオープンして得点をつける。</p> <p>◆グループで意見交換してまとめる。</p>	<p>問題⑥ 避難所への差し入れ</p> <p>被災し避難所で生活することになったが、災害が大規模で支援物資が不足し、200人以上いる避難所では食料も十分に手に入らない。そんな中、感謝が来てくれて、20人分の食料を差し入れてくれた。避難所には友達や近所の人がいるが、食料をその人たちにあげます？</p> <p>YES:食料をあげる NO:食料をあげない</p>
--	--	--	--

1年次：説明資料1-2「防災クロスロード」(2/2)

◆カードをオープンして得点をつける。
◆グループで意見交換してまとめる。



クロスロードふり返り


クロスロードで出た問題点
について解決方法を考える

◆グループ発表の準備

- ・全ての問題の中でYES、NOあわせて最も問題点が多かった問題について、グループで解決策を考え、まとめた意見を発表してもらいます。
- ・各グループで発表する問題と、発表者を決めます。

◆グループの意見を整理する

- ・グループで選んだ出題について、YES・NOのそれぞれで問題点と思う点について、どうしたら問題点を解決できるか考えます
- ・少数の意見が問題としていることも、解決できないかしっかり考えます
- ・出題に対する問題点と解決方法を「グループ意見整理シート」に整理します



＜グループ発表＞

クロスロードの出題について、各グループで考えた問題点に対する解決方法を聞いてみよう。

【発表する内容】

- ① 選んだ出題
- ② 出題について意見として出た問題点
- ③ 問題点の解決方法

◆防災クロスロードで知ってほしいこと

- 防災の判断や行動で絶対的な正解はない
- 同じ問題でも環境や状況、関わる人によって答えが変わる場合もある
- 自分とは異なる意見や価値観の存在に気づき、より良い答えは何かをみんなで考えて求めることが大切
- 少数の意見の中に見逃せない問題がある場合もある
- 他人と意見が分かれても、お互いにとってより良い答えが何かを考え、意見が合うように努力することがWin-Winの答えを見つけることにつながる

次回のお知らせ


◆わせた防災タイムライン作成

災害が起こりそうな時の自分の防災行動を整理できる「わせた防災タイムライン」を作成します。



宿題!! 「わが家の防災準備リスト」を家族の人に確認して記入しよう

自宅の備蓄品の購入状況や地震、火災に対する備えを家族の人と話しあって、どれだけできているか確認しよう



◆ジュニア防災リーダー参加者募集!

中・高の友達、早稲田でジュニア防災リーダーとして活動している中学生を募集します。
防災を楽しく学んで、お世のため社会のために活動しましょう!

- 募集条件：早稲田中学校に通う中学1年生
(令和7年度の第2年度)

【参加する者の必須内容】

- ・防災7年間の活動リーダーと経験していただきます



1 年次：説明資料1-3 「わせた防災マイタイムラインの作成」 (1/2)



命を守る行動への必要な備え

今日からできる備えは準備できましたか？

◆命を守るために必要な備え

◆「防災クロスロードまめとめ」のふり返り

- 【避難】 非常時では足音をあげる？
- 【避難】 足が滑りやすい場所の対策
- 【避難】 避難経路での移動方法
- 【避難】 避難時の服装方法の指針

◆「防災クロスロードまめとめ」のふり返り

- 【避難】 非常時では足音をあげる？
- 【避難】 足が滑りやすい場所の対策
- 【避難】 避難経路での移動方法
- 【避難】 避難時の服装方法の指針

わせた防災マイタイムライン

◆わせた防災マイタイムラインとは？

- 「タイムライン」とは、時間経過していく順番に行動や出陣等を並べて表すものを意味する。
- 「防災におけるタイムラインは「行動計画」とも呼ばれる。
- 「わせた防災マイタイムライン」は、「早稲田学区（わせた）」に住む「自分（マイ）」のタイムラインという意味を示す。
- 「わせた防災マイタイムライン」では、いつ・誰が・何をやるのかあらかじめ決めておくことで、災害が起こりそうな時に迷わずに行動できるよう計画する。

◆作成に使用するもの

- マイタイムラインシート
- わせた防災マップ
- 避難判断フロー
- 避難判断シート

◆マイタイムラインシートの解説

◆警戒レベル

災害発生危険度

◆マイタイムラインシートの解説

◆警戒レベル

災害発生危険度

◆マイタイムラインシートの解説

◆避難情報

◆注意喚起（レベル2）

◆避難行動要請（レベル3）

◆避難指示（レベル4）

◆避難区域の確保（レベル5）

◆マイタイムラインシートの解説

◆気象情報（注意報・警報）

◆早期注意情報

◆大雨注意報

◆大雨警報

◆大雨特別警報

◆マイタイムラインシートの解説

◆土砂災害情報

◆土砂災害警戒情報

◆早稲田学区の避難場所

◆避難場所

◆避難場所

◆避難場所

わせた防災マップの地図面を広げてみよう

◆「わせた防災マップ」に自宅の位置をシールで貼る

- わせた防災マップで、自宅の位置に丸シールを貼る
- マップの中に自宅がない人は、「ここに住みたい」という場所に丸シールを貼る
- マップで示している情報を知る
- 避難場所
- 避難経路
- よく通る道の安全性

早稲田学区での避難ルール

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

わせた防災マイタイムラインを作成してみよう

◆「行動シート」を使用して購入内容・タイミングを決める

◆「行動シート」を使用して購入内容・タイミングを決める

◆「行動シート」を使用して購入内容・タイミングを決める

わせた防災マイタイムラインを作成してみよう

◆「行動シート」を使用して購入内容・タイミングを決める

◆「行動シート」を使用して購入内容・タイミングを決める

◆「行動シート」を使用して購入内容・タイミングを決める

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方

◆「分散避難」という考え方


◆「分散避難」という考え方

1年次：説明資料1-3「わせた防災マイタイムラインの作成」(2/2)

◆在宅避難の人は自宅の備えを確認する

「わが家の防災準備リスト」で、震度や水害などのライフラインが断断した時に、自宅でも安心し自立した備えができていくか確認します。

・自分の備えができていない項目について、なぜその備えができないか理由をみんなでも考えてみよう。



わせた防災マイタイムラインの内容を整理しよう




◆グループでマイタイムラインの備えを確認する

グループのメンバーが「在宅避難」と「どこかに避難」のどちらを選択しているか確認する

・グループのメンバーの避難先を確認し、在宅避難の人とそれ以外の避難先を選んでいる人を確認する。

・グループ内の「在宅避難」と「どこかに避難」と書いてある下の表に各自の避難先・人々の名前を記入する。




◆グループでマイタイムラインの備えを確認する

「在宅避難」を選んだ人の備えを確認する

・グループ「在宅避難」を選んだ人が、マイタイムラインシートに貼った行動シールの内容を確認する。

・「在宅避難」を選んだ人の行動シールで、避難の人がマイタイムラインシートに貼っているシールの内容は「共通する」項目として記入する。

・避難に1人だけマイタイムラインシートに貼っているシールの内容は「各自独自」の項目として記入する。




◆グループでマイタイムラインの備えを確認する

「どこかに避難」を選んだ人の備えを確認する

・グループで「どこかに避難」を選んだ人が、マイタイムラインシートに貼った行動シールの内容を確認する。

・「どこかに避難」を選んだ人の行動シールで、避難の人がマイタイムラインシートに貼っているシールの内容は「共通する」項目として記入する。

・避難に1人だけマイタイムラインシートに貼っているシールの内容は「各自独自」の項目として記入する。




◆グループでマイタイムラインの備えを確認する

グループの備えや行動で大切なものを「ベスト3」を調べる

・グループシートに貼った行動シールの内容の中で、災害時に最も大切なと思う行動や備えを3つ調べる

・選んだ備えや行動に順位をつけてベスト3を決め、選んだ理由と合わせてグループシートの一画下の欄に記入する。



〈 グループ発表 〉

各グループで選んだ備え・行動のベスト3を発表

グループ発表を聞いて、自分のマイタイムラインに行動シールを追加した方が良いと思ったら行動シールを追加して貼ろう


わせた防災マイタイムラインで大切なこと



◆マイタイムラインで大切なこと

●災害が起こりそうな時の備えが分かる
→ 備えあれば怖いなし、は防災の基本

●作成した計画は必ず実行する
→ 今日は大丈夫、と思った時に被災する



◆防災学習で忘れないでほしいこと

・「命を守る行動」への備えをいつも考える

・「確実な備え」が自分と大切な人の命を守る

・「必ず実行する」ことが成功を決める

早稲田中学校1年生 防災学習まとめシート

氏名 _____

〔防災クイズ・回答欄〕

問題	回答番号	
①		正解 ・ 不正解
②		正解 ・ 不正解
③		正解 ・ 不正解
④		正解 ・ 不正解
⑤		正解 ・ 不正解
⑥		正解 ・ 不正解
⑦		正解 ・ 不正解
⑧		正解 ・ 不正解
⑨		正解 ・ 不正解
⑩		正解 ・ 不正解
⑪		正解 ・ 不正解
⑫		正解 ・ 不正解

〔今日からできる自分の備え〕



わせた自主防公式

認定証

早稲田学区防災士



早稲田学区自主防災連絡協議会

早稲田中学校 防災クロスノート

組番号 _____ 班番号 _____ 氏名 _____

問題① 非常持ち出し品をあける？

地震で自宅は半壊状態、家族そろって避難所へ。だが、日頃の備えが幸いし、非常持ち出し袋には水も食糧も3日分はある。一方、避難所には水も食糧も持たない家族多数。その前で、非常持ち出し袋をあける？

得点

YES：あける NO：あけない

「YES」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

「NO」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

問題② 登校中に大地震発生！

登校中、中学校までの通学路の中間あたりに来たところで大地震が発生。地面にしゃがんで揺れがおさまるのを待った。見回すと、あたりの家は瓦や壁などが崩れている。家族と家が心配だ。家に帰る？

得点

YES：家に帰る NO：中学校に行く

「YES」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

「NO」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

早稲田中学校 防災クロスノート

組番号 _____ 班番号 _____ 氏 名 _____

問題③ 足が悪い祖母の避難

大雨で土砂災害の危険が高くなり、夜中に早稲田学区に避難指示が出された。自宅は土砂災害で危険な場所にあるが、足が悪い祖母（75歳）を連れて暗い中の避難には心配がある。今すぐ避難を始める？

得点

YES：避難を始める NO：避難をやめる

「YES」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

「NO」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

問題④ 避難所での受験勉強

災害で被災して避難所生活になったが、2ヵ月後には高校受験が控えている。避難所では人手が足りず、様々な作業を手伝って感謝されるが、勉強は手につかず高校に合格できるか不安になってきた。避難所の手伝いをやめて勉強に専念する？

得点

YES：勉強に専念 NO：避難所を手伝う

「YES」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

「NO」の問題点

.....

.....

.....

.....

.....

.....

早稲田中学校 防災クロスノート

組番号 _____ 班番号 _____ 氏名 _____

問題⑤ 新しい家での家具の固定

最近、新しいマンションに引越した。家族みんなが新しい家を気に入っている。しかし、大地震が起きたら危ないので、父は家具に固定金具をつけると言い、母は見た目が悪くなるので金具の取り付けに反対している。父の意見に賛成する？

得点

YES：父に賛成する NO：母に賛成する

「YES」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

「NO」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

問題⑥ 避難所への差し入れ

被災し避難所で生活することになったが、災害が大規模で支援物資が不足し、200人以上いる避難所では食料も十分に手に入らない。そんな中、親戚が来てくれて20人分の食料を差し入れてくれた。避難所には友達や近所の人もあるが、食料をその人たちにもあげる？

得点

YES：食料をあげる NO：食料をあげない

「YES」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

「NO」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

わが家の防災準備リスト(1週間分)

記入者 _____

❖備蓄品の確認：家族の人数（ ）人

品名	1人分の必要量	家族の必要量	備え
飲料水	20リットル	リットル	<input type="checkbox"/> できている
パックご飯・アルファ化米	14食分	食分	<input type="checkbox"/> できている
おかず缶詰	14缶	缶	<input type="checkbox"/> できている
果物缶詰	7缶	缶	<input type="checkbox"/> できている
栄養補助食品	4箱	箱	<input type="checkbox"/> できている
野菜ジュース	7本	本	<input type="checkbox"/> できている
お菓子	—	7パック	<input type="checkbox"/> できている
カセットコンロ	—	1台	<input type="checkbox"/> できている
カセットボンベ	—	9本	<input type="checkbox"/> できている
ラップ大	—	1巻	<input type="checkbox"/> できている
アルミホイル	—	1巻	<input type="checkbox"/> できている
加熱袋（耐熱袋）	—	1パック	<input type="checkbox"/> できている
ポリ袋	—	1パック	<input type="checkbox"/> できている
ビニール手袋	—	1箱	<input type="checkbox"/> できている
トイレトーパー	—	7ロール	<input type="checkbox"/> できている
ティッシュペーパー	—	7箱	<input type="checkbox"/> できている
簡易トイレ	40回分	回分	<input type="checkbox"/> できている
使い捨てカイロ	14回分	回分	<input type="checkbox"/> できている
懐中電灯	—	1本	<input type="checkbox"/> できている
乾電池	懐中電灯ほか必要数を準備		<input type="checkbox"/> できている
モバイルバッテリー	1台	台	<input type="checkbox"/> できている
水タンク（20ℓ）	1個	個	<input type="checkbox"/> できている

❖自宅の防災対策

タンス・食器棚・冷蔵庫の転倒防止	<input type="checkbox"/> できている
各自の非常持ち出し品を準備し、いつでも持ち出せる	<input type="checkbox"/> できている
消火器もしくは簡易消火器を台所などに備えている	<input type="checkbox"/> できている
火災報知機の点検を年1回はしている	<input type="checkbox"/> できている

1 年次：配布資料1-6「マイタイムライン 行動シール」

<p>行動シール</p> <p>名前 () が避難開始</p>	<p>行動シール</p> <p>避難所の開設状況を確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール</p> <p>() さんに避難の声かけをする</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>名前 () が避難開始</p>	<p>行動シール</p> <p>車の燃料を満タンにする</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール</p> <p>() さんと一緒に避難する</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>気象情報を確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>避難ルートを再確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール</p> <p>() さんに一緒に避難をお願いする</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>非常持ち出し品を準備</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>家族の連絡手段の再確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール</p> <p>() さんに自宅に来るよう連絡</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>備蓄品の確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>家族に避難開始を連絡</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール</p> <p>町内会長に避難開始を連絡する</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>備蓄品の補充</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>家族に避難完了を連絡</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール</p> <p>() さんの避難が完了したか確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>貴重品の持ち出し準備</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>() に避難開始を連絡</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>() の薬の持ち出し確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>() に今後の予定を確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>近所シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>
<p>行動シール</p> <p>() の薬の持ち出し確認</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>ペット () を () に預ける</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>← 全ての避難準備 →</p> <p>にかかると時間 () 分</p> <p>(自由書き込みシール)</p>
<p>行動シール</p> <p>携帯電話の充電</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>ペット () の必要品を準備</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>(自由書き込みシール)</p>
<p>行動シール</p> <p>自宅周りの点検</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール</p> <p>ペット () をケージに入れる</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	<p>行動シール (書き込み用)</p> <p>準備にかかる時間 () 分</p>	

● 2年次の防災学習

2年次では、自分の命が守れることを前提に、『近隣（周囲）の人を助ける』を学習のメインテーマとします。

災害エスノグラフィ（災害時の聞き取り調査でまとめた記録）や、ワークショップでの話し合いを通して、自宅が被災した場合に必要な備えや行動を考えるとともに、自らの安全を確保したうえで、近隣の人を助けるために必要な行動を考えます。

また、救命講習やスキルアップセミナーなどで、被災した人を助けるための知識や技術などの防災スキルを取得し、災害時の行動力を高めます。

● 実施されたプログラム

プログラム1 防災スキルアップセミナー（個別学習）

東消防署の救助隊による普通救命講習と、自主防災による防災スキルチェックによって緊急時に活用できるスキルを習得し、スキルアップを図る。

→授業計画書例はp25



プログラム2 災害エスノグラフィによる追体験（グループワーク）

災害エスノグラフィで災害時に起こる問題の解決方法などについて理解し、自分が防災行動をとるために必要な知識や技術を学び、災害時のあらゆる状況を予測して備える。

→授業計画書例はp26



プログラム3 ライフラインが止まった時の備えを考える（ワークショップ）

地震などで電気や水道といったライフラインが止まった時に、生活の中でどのような支障が出るかを考え、自分たちはどのような備えをしておくべきか意見交換をしながらまとめる。

→授業計画書例はp27



プログラム1 防災スキルアップセミナー（個別学習） 授業計画書(2025年度版)

◎ 学習の目標：災害時に役立つ防災スキルを、防災カードゲーム「シャッフル」の内容で楽しみながら学習することで、生徒たちのスキルアップを図る。

◎ 準備品：【自主防】説明資料2-1：「防災スキルアップセミナー」

道具類：防災カードゲーム「シャッフル」

■骨折の応急処置：

添木代わりの段ボール（14本）

ビニール平テープ（2m×60本）×2クラス分

ポリゴミ袋45L（14枚）×2クラス分

■毛布担架の作り方：毛布4枚、物干し竿8本

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (5分)	13:30 (14:30)	自主防	<p>1年生の時の防災学習のふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介（防災士から） 中学校での防災学習の目的を確認 <p>《パワーポイント:1年生の時の防災学習》</p>		説明資料2-1
展開① (5分)	13:35 (14:35)		<p>「シャッフル」による防災スキルチェック</p> <p>※生徒をグループの形に変更</p> <p>《パワーポイント:防災スキルチェック》</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッフルのお題から、防災スキルの正しい手順をグループで考えて回答 1問毎に答え合わせを行い、ポイントを解説 <p>《出題》</p> <p>①骨折の応急処置 ②毛布担架の作り方</p>		説明資料2-1 道具類
展開② (35分)	13:40 (14:40)		<p>防災スキル実践講座</p> <p>《パワーポイント:防災スキルの実践》</p> <ul style="list-style-type: none"> スキルチェックで確認したら防災スキルについて、実践してみる <p>《実践スキル》</p> <p>①骨折の応急処置</p>	骨折の応急処置は、けが人役の人、応急処置をする人をベアにして実施するとやりやすい	説明資料2-1 道具類
	14:00 (15:00)	<p>②毛布担架の作り方</p> <p>毛布担架は担架に乗る人が落下しないよう、十分に注意すること</p>			
まとめ (5分)	14:15 (15:15)	自主防	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 何人かの生徒に感想をきく 		
	14:20 (15:20)				
講習 (50分)	14:30 15:20	東消防署	東消防署による救命講習	体育館にて実施	

↑※（ ）内の時間は、5校次目が救命講習で、6校時目が授業の場合の目安時間。



← 防災カードゲーム「シャッフル」

2年次の防災学習

プログラム2 災害エスノグラフィによる追体験（グループワーク） 授業計画書(2025年度版)

◎ 学習の目標：災害エスノグラフィ（読み物による過去の災害の追体験）で災害時に起こる問題と、体験者の悩みや苦勞、解決方法などについて理解し、自分が防災行動をとるために必要な知識や技術を学び、災害時の諸状況を予測して備える。

◎ 準備品：【中学校】配布資料2-1：災害エスノグラフィのテキスト（各生徒に1枚）

道具類：マーカー（ピンク、各生徒に1本）

【自主防】説明資料2-2：「災害エスノグラフィによる追体験」

道具類：付箋紙（ピンク、各グループに1冊）

とりまとめシート（A3サイズ、15枚）

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (5分)	13:35	自主防	・自己紹介（防災士から）		
展開① (30分)	13:40		<p style="text-align: center;">災害エスノグラフィによる追体験のためのテキスト黙読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害エスノグラフィ」とは何か説明 《パワーポイント:災害エスノグラフィ》 ・生徒にテキストを黙読させる ・黙読しながら、以下の通りマーキングさせる 「大切だと思うこと」はピンク色 → 最初の段落は防災士と一緒に読む 	生徒が読みやすいようにリードする マーキングが進んでいるかどうか、見回りながら確認。困っていそうな生徒がいたらフォローする	説明資料2-2 配布資料2-2 道具類
	13:55	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・マーキングした内容から最も心に残った内容を付箋紙に書き出させる ・付箋紙に書き出したものを選んだ理由もまとめておくよう説明する 		道具類
展開② (45分)	14:10		<p style="text-align: center;">災害エスノグラフィにより追体験した内容から意見のとりまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の付箋紙の内容をグループメンバーに紹介 	大切だと思った理由も説明させる	
	14:25		＜ 休憩 ＞		
	14:35	自主防	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで各自が紹介した内容について意見交換を行いとりまとめる → とりまとめのテーマは各グループで自由に設定 → とりまとめた内容はとりまとめシートで整理 		道具類
	15:05		<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ順番で意見交換のとりまとめ内容を発表（発表時間は2分程度） 		
まとめ (5分)	15:25		<p style="text-align: center;">「災害エスノグラフィ」を活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に災害エスノグラフィでの追体験の感想を聞く ・質疑応答、次回予定の説明 		

プログラム3 ライフラインが止まった時の備えを考える（ワークショップ） 授業計画書(2025年度版)

◎ 学習の目標：災害時の備えについてワークショップにより掘り下げる。

自ら備えを考えることで、確実な備えの実施をうながす。

◎ 準備品：【中学校】配布資料2-2：「グループワークとりまとめシート」（A3サイズ）

【自主防】説明資料2-3：「ライフラインが止まった時の備えを考える」

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (8分)	13:35	自主防	<p>ライフラインが止まるとどうなるか</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介（防災士から） 《パワーポイント：ライフラインが止まったら》 ライフラインとは何かを説明 	<p>近年は災害の被害が広く、激しくなる傾向にあり、ライフラインの被害もひどくなる場合が多いことを伝える</p> <p>電気が止まると水道もガス(都市ガス)も止まることなども解説</p>	説明資料2-3
	13:43		<ul style="list-style-type: none"> 過去の災害時のライフライン被害を説明 ライフラインが止まった場合の応急対策を説明 応急対策は大規模な避難所などから先に対策 		
展開① (17分)	13:45	中学校	<p>ワークショップ「ライフラインが止まった時の備えを考える」</p> <p>グループ学習の形に机を移動</p> <p>《パワーポイント：ワークショップ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップとは何かを説明 ワークショップで守るべきルールを説明 		<p>説明資料2-3</p> <p>配布資料2-2</p>
	14:00		<ul style="list-style-type: none"> とりまとめシートに組と班番号を記入し、自分たちが担当するテーマに○をする 「電気」「水道」のライフラインが止まった場合の問題を自分の班のテーマについて考える ライフラインが止まった時の問題を班の中で相談し、とりまとめシートに記入する 		
展開② (45分※休憩除く)	14:15		<ul style="list-style-type: none"> とりまとめシートに記入した問題について、どのようにしたら解決できるか班で考え、解決方法をとりまとめシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが生活するうえでの問題について考えてもらう 5つ以上は問題を記入する 	
	＜ 休憩 ＞				
	14:35	自主防	<p>グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班2分程度で発表してもらう 		
	14:50		<p>自分の命を守った後、周りの人を助けるためにできること</p> <p>《パワーポイント：災害時に自分たちだけでできること》</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生の防災学習のテーマである「周りの人を助ける」について解説する 		
まとめ (30分)	14:55	中学校	<p>2年生の防災学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生の防災学習の感想文を書く 		
	15:25				

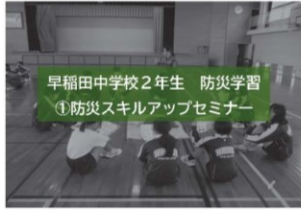
2年次の防災学習

●使用された教材について（2025年度分）

授業の中で使用された教材（説明資料やワークシートなど）を紹介します。

種類	番号	内容	該当プログラム	掲載頁
説明資料	2-1	防災スキルアップセミナー	1	p29~
	2-2	災害エスノグラフィによる追体験	2	p30~
	2-3	ワークショップ：ライフラインが止まった時の備えを考える	3	p31~
配布資料(ワークシートなど)	2-1	災害エスノグラフィ テキスト資料	2	p32~
	2-2	ワークショップ グループワークとりまとめシート	1	p34~

2 年次：説明資料2-1「防災スキルアップセミナー」



1 年生の防災学習 の振り返り



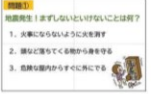
◆1 年生での授業内容

- 【1日目】
 - ・防災クイズ
 - ・ディスカッション
- 【2日目】
 - ・防災クローズード
- 【3日目】
 - ・わせた防災マイタイムラインの作成



◆防災クイズ

- ・防災の基礎知識を3択クイズで確認

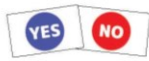


◆ディスカッション

- ・土砂災害が発生した時に連絡のあった友達を助けるかどうか、という質問について意見交換

◆防災クローズード

- ・災害時の判断について、問題の選択肢から「Yes」「No」で答えを決め、グループでその判断について意見交換しました
- ・他人の判断理由を知ることによって問題を様々な角度から考えることができたり、より最適な判断を考えるきっかけができました



◆わせたマイタイムラインの作成

- ・わせたマイタイムラインで避難行動や必要な備えについて確認し災害時の行動計画を作成しました

災害発生	避難準備	避難開始	避難完了	帰宅
10分以内	10分以内	10分以内	10分以内	10分以内
10分以内	10分以内	10分以内	10分以内	10分以内
10分以内	10分以内	10分以内	10分以内	10分以内
10分以内	10分以内	10分以内	10分以内	10分以内

●防災に役立つスキルを確認しよう

防災スキルチェック



- ・災害が発生した時、役に立つスキル（技術）をクイズ形式で学びます
- ・これから防災スキルの手順を4つに分けて示すので、正しい手順になるようにグループで相談して決めよう。

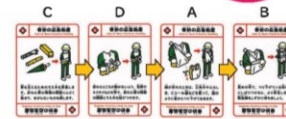
問題① 骨折の応急処置

- ・正しい手順を考えて答えよう。



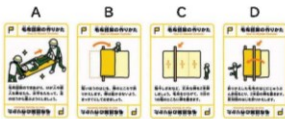
問題① 骨折の応急処置

正解



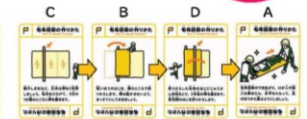
問題② 毛布担架の作り方

- ・正しい手順を考えて答えよう。



問題② 毛布担架の作り方

正解



防災スキル実践講座



●防災スキルを実践してみよう

- ・みんなでチェックした防災スキルを実際に試してみよう
- ・グループでお互いに確認しながらスキルを試してみよう

実践① 骨折の応急処置

- ・実際に試してみよう



実践② 毛布担架の作り方

- ・実際に試してみよう



防災スキルの感想



2年次：説明資料2-2「災害エスノグラフィによる追体験」



◆1年生での授業内容

- ① 1日目
 - ・防災クイズ
 - ・ディスカッション
- ② 2日目
 - ・防災クロスロード
- ③ 3日目
 - ・わせた防災タイムラインの作成

◆防災クイズ

防災の基礎知識を3択クイズで確認

◆ディスカッション

土砂災害が発生した時に連絡のあった友達を助けるかどうか、という質問について意見交換

◆防災クロスロード

災害時の判断について、両隣の選択から「Yes」「No」で答えを決め、グループでその判断について意見交換しました

他人の判断理由を知ることで問題を様々な角度から考えることができたり、より最適な判断を考えるきっかけができました

◆わせたタイムラインの作成

わせたタイムラインで避難行動や必要な備えについて確認し災害時の行動計画を作成しました



◆「災害エスノグラフィ」とは

「エスノグラフィ」とは、インタビューなどにより行動を記録することで、よりリアルな状況や気持ちなどを理解する方法

大きな災害を経験していない人も、災害で起こる課題や被災者の気持ちなどをエスノグラフィで体験することで、災害時に発生する様々な状況を予測し、備えることができる

◆平成30年7月豪雨の体験談を熟読する

配ったテキストを黙って読みます

読みながら、以下の内容についてはマーカーを使ってマーキングする

「大切だと思ったこと」… **ピンク色でマーク**

読む時間 20分

◆一番印象に残ったことを付箋紙に書き出す

体験談のテキストの文章をそのまま書き出す

「大切だと思ったこと」… **ピンク色の付箋紙**

マーキングした中から、その内容を選んだ理由も考えておく

小学校も公民館も危険な状態だったらしく、行けなかった

グループで意見をまとめる

◆付箋紙の内容をグループで意見交換する

一人ずつ順番に「大切だと思ったこと」の付箋紙をみんなの前に出して読み、それを選んだ理由を紹介する

全員の前で紹介が終わったら、他人が出した付箋紙の文章やそれを選んだ理由について、自分はどう感じたか意見を交換

◆グループで意見交換した内容を横道紙にまとめる

「大切だと思ったこと」について、グループで意見交換した内容をまとめる

付箋紙で出された内容を、いくつかのテーマとして分類し、そのテーマ毎にグループで感じたこと整理する

まとめた意見は横道紙にテーマ毎に整理して書き出す

グループの意見を発表

グループ①

- ・災害の怖さ
- ・土砂災害の怖さ
- ・支障の大切さ
- ・命を助けた判断



◆感想

災害エスノグラフィを通じて感じた命を守る行動とは

◆次回の予定

次回は「ワークショップ」です。

ワイフラインが止まった時の備えについて考えます。

2 年次：説明資料2-3「ライフラインが止まった時の備えを考える」



●ライフラインとは？

- ◆語源は英語で「命綱」を意味します。
- ◆日本では生活を支える生命線という意味で以下のようなインフラ設備を示します。
 - ・電気設備
 - ・水道設備
 - ・ガス設備
 - ・情報設備

災害時に止まるライフライン

◆令和元年台風15号による停電（千葉県）
千葉県では、台風15号により最大で約93万戸が停電となり、電気の復旧に16日間もかかりました。

写真の一部の地域を緑で示した千葉県停電発生時

災害時に止まるライフライン

◆平成30年7月豪雨の断水（呉市）
呉市では、最大で15万人の世帯で断水し、最も長い期間では約1ヵ月も断水する世帯がありました。

●ライフラインが止まった場合の応急対策

◆電気設備の場合
大規模避難所には移動電源車が来ることがあります。通常の避難所には、発電発電機が備えられています。

- 移動電源車
大規模な断水が可能なエリアなどにも動かします
- 発電機
電気設備が壊れたり、断水した際に備えられています

●ライフラインが止まった場合の応急対策

◆水道設備の場合
水道局の給水車を回って給水します。災害物資支援として飲料水も配給されます。

- 給水車
飲料水としても使用できます
- 給水所
早稲田中学校グラウンドにあります。地区では3地区のみ設置

ライフラインが止まった時の注意点

◆支援は大規模避難所や地域の拠点から始まる
→ 早稲田学区には支援はすぐ来ない場合も

◆在宅避難者には支援が届きにくい
→ 何が不足しているか分からない
→ 避難所の人優先される
→ 物資支援などの情報が伝わらない

最低限の備えは自分自身です



ワークショップとは？

- ◆参加者みんなで課題について考える
- ◆グループ毎に課題を考えて解決方法をさがす

ワークショップで守るルール

1. 他の参加者の意見を批判しない
→ 発展的な意見はOK
2. 自由に意見を出す
→ 当たり前意見も突飛的な意見も歓迎
→ ただし、ふざけるのはダメ
3. 意見は質より量を重視する
→ 多様な意見が大切

●作業準備

ライフラインである電気・水道が止まった時の問題はなにか

◆ワークショップは、奇数班が「電気」、偶数班が「水道」を担当する

◆とりまとめシートに、組・班の番号を記入し、担当するテーマを○で囲む

(担当テーマ) ○電気、水道

グループ作業

◆ライフラインである「電気」「水道」が1週間止まった場合の問題について考える

◆グループで相談し、ライフラインが止まった場合の問題について、とりまとめシートに記入する

グループ作業

◆グループで、ライフラインが止まった時の問題についてどのようにしたら解決できるか考える。

◆グループで考えた解決方法を、とりまとめシートに記入する

●グループ作業

グループの意見をまとめる

◆書き込んだ内容を確認し、グループの意見として発表できるように、グループの中でまとめる。

◆グループの発表者を決める（複数発表可）
→ 問題1名、解決方法1名などでもOK

＜グループ発表＞

グループ毎に、ライフラインが止まった時に問題になることとその解決方法について発表



早稲田中学校 2 年生防災学習 「災害エスノグラフィによる追体験」 テキスト

※このテキストは、平成30年7月豪雨の災害を体験された方から、災害後数ヶ月たった時に聞き取りをしたものです。

7月6日17時頃から、「結構雨が降るなあ」と感じていた。

私の家の目の前には小さな山がある。過去に2、3回ほど、この山が崩れたことがあり、「雨が降ると怖いな」と思っていた。だから大雨が降って心配な時はいつも、山から一番離れたところに位置する台所で過ごしていた。雨が降ったら2階に避難するという方法もあるが、私の妻は足が悪く、2階へ上がることができない。飼っている大きな犬も階段を上ることができないので、1階の台所で過ごしている。あの7月6日の日も、台所にブルーシートを引いて、妻がおにぎりを作り、自宅内避難の準備をしていた。

台所で準備をしていた時に、近所のお友達から電話がかかってきた。

「今日は雨の降り方が結構強いから、うちへ避難しにおいて」と言ってくれた。

今まで、外に避難したことはない。その日もあまり危機感を感じていなかったが、「せっかく声をかけてくれたから、一晩だけお世話になるうか」と妻と話し合い、避難させてもらうことにした。友達のお宅に移動する時、雨はそれほど強く降っている感じはしなかった。ペットの犬を連れて、他の大事な物は家に置いたまま、身体だけで避難させてもらった。

18時頃に友達宅に避難した。妻は足が悪いので、お友達のベッドを借りることになった。友達の家で過ごしていた時、犬が廊下で吠えていたため、犬が落ち着くまで外に出してやろうと思い、外に出してやっていた。ちょうどその時、「ドーンッ!」という物凄い音がした。そして、その家の2軒上あたりから土石流がドバーッ!と流れて来た。すぐに家に入り、119番に電話したがつながらない。22時ぐらいになって消防署の方が来られ、「ここも危険だから他へ避難してください」と言われた。しかし、避難所である小学校も公民館も危険な状態だったらしく、行けなかった。

避難させてもらっていたお宅の友達は2階に上がったが、私の妻は足が悪いから2階へは上がれない。消防署の方は「すぐ近所で川より離れたところの近くなら大丈夫だから、探して避難してくれ」と言うが、その辺りには知り合いもいない。たまたま、川から少し離れたところに、昔借りていた車庫があったので、「そこに居(お)らしてもらおうか」ということで、妻と犬を車に乗せて行った。また偶然、その車庫の上に知り合いがいたので、そこへ避難させてもらった。そのお宅には、別のご夫婦も避難しに来ていた。

それから、24時か25時頃、雨が小降りになっていたから、歩いて自分の家に帰ってみた。そして、もう家が無くなっていた。台所の勝手口のドアも下がめくれ、家の中から濁流が流れてきていた。その時、近所の人々が心配して私たち夫婦を探しに来てくれていた。私の姿を見て、「アキラさんがおったー!!」とすごく喜んでくれた。私も「生きとるよー!」と返事をした。

翌朝、再び自分の家に帰ってみると、家の中がグチャグチャ。冷蔵庫も倒れ、テーブルも倒れて、土も1mぐらい入ってきていた。あの時、友達が電話をかけてくれていなかったら、あのまま台所で妻と私と犬は、おそらくダメだったと思う。いつも雨が強い時は台所に避難していて、外に避難したのは初めてのことだった。

大雨の時はいつも自分の家の小さな山が崩れるのではないかと怖かった。しかし今回は、崩れたのはこの山では無かった。家の前を流れる川の上流に堰堤(えんてい、※ダムのこと)があるのだが、

その上から崩れたのが、何軒か家を巻き込みながら、「ドーン！」っと、ずーっと下まで降りてきていた。まさか、そこから流れてくるとは思わなかった。ウチには家の柱や皮のむけた木、石などが表側のガラスを破って家に流れ込んできていた。

あんなの、テレビの中の出来事だと思っていた。まさか、自分の身に降りかかるとは思わなかった。まだ、夢を見ているみたい。実際に現場を見ても、受け入れられないというか、よく分からなかった。どこから土石流が流れてきたのかも分からない。現実を受け入れることができなかった。

友達や友達の息子さんたちが、あの暑い中、土砂を出してくれた。ありがたい、ありがたいな、と思った。「明日は仕事だからちょっと来れないが」と言って、仕事が終わった後、夕方に1時間でも手伝いに来てくれたりしていた。すごくありがたかった。「自分は今から仕事だから、息子だけ手伝いに行くから」といって息子さんが来てくれることもあった。家の中の土砂撤去は、とりあえず2週間ぐらいかかった。家の周りの土砂がまだたくさん残っていたので、その後、ボランティアさんに1週間ほど来ていただいて、きれいにしていただいた。本当に感謝している。暑い中だったので、10~20分ほど作業をして、それから休憩して、を繰り返しての活動だった。本当に暑かった。

とりあえずきれいにはなったが、この状態では住むことも出来ない。天井から何からやり直さないといけなかったので、家は解体することにした。家の玄関の前には横幅2mほどの水路があり、橋が架かっている。流れてくる流木(りゅうぼく)などが橋にひっかかり、川に土砂たまったことで水があふれ出し、水の流れが変わって自分の家の方に流れてきたと思われる。

今は、妻の親戚の家が空いていたので、そこで生活させてもらっている。解体した家のあった地元の方々にはありがたいことに「百年に1回の雨だし早く帰っておいで」、「いつ帰ってくるの?」と声をかけてくれる。ただ、実際、百年に1回の雨は何度も頻繁に起きている。やっぱり、もう怖い。そこでもう一度住もうとは思わない。今住んでいるところでも、やっぱりちょっとでも強い雨が降ると怖い。神経質になっている。

早め早めの避難が大事。被災後、引っ越してすぐに、こちらの避難所の場所などを確認した。被災を体験した今はもう、すぐに避難するようにしている。どこにいても安全な場所というのはないと思う。いつ、何が起きるか分からないから、明るいうちに早めの避難をすることが何よりも第一だ。空振りになってもいい。それしかない。

でもきっと、災害を体験した人にしか、危険さ、避難の重要さはピンとこないと思う。だから難しい。大雨の中、真っ暗でよく見えない中、避難できる状態でもない。避難のタイミングが難しいと思う。避難中に災害にあう人もいる。空振りになって、「大したことなかったじゃん」となるかもしれないが、それでもやはり早めの避難しかないと思う。

体が不自由な人や、犬がいる家は、避難所での生活はなかなか出来ない。たとえ早めの避難をすることができても、飼い犬などのペットは避難所に連れていくことが出来ないため、なかなか避難できない。そのような人たちにとっては、特に難しいと思う。そうかといって、体が不自由な人、足が悪い人などは、2階に上がることもできない。やはり難しいところがある。

声をかけてくださる存在がありがたい。近所付き合いが大切だと思う。前に住んでいた家でも、みな家族構成などお互いに知っていた。「何かあったらウチにおいでね」と、隣の奥さんもいつも言ってくれていた。

新しいこの場所でも、ご近所付き合いを大切にしていこうと思う。

早稲田中学校2年生 防災学習

「ライフライン停止」ワークショップ・とりまとめシート

組 班 〈担当テーマ〉 電 気 ・ 水 道

■ ライフラインが止まった時の問題

①

.....

②

.....

③

.....

④

.....

⑤

.....

⑥

.....

■ ライフラインが停止した時の解決方法

①

.....

②

.....

③

.....

④

.....

⑤

.....

⑥

.....

2章 | 各学年の防災学習計画

● 3年次の防災学習

3年次では、『災害時に地域のためにできること』を学習のメインテーマとします。

まずワークショップにて、どのような人がどのような支援を必要とするのかを整理します。さらに、「防災クロスロード」（災害時に下す判断を、立場の違う人の意見を聞きながら考えるシミュレーション）を行い、支援にはさまざまな考え方があることを理解し、自分たちができる支援行動について具体的に考えます。

最後に、これまでの学習で考えた支援行動を「防災レスキューカード」（支援対象と支援内容をコンパクトにまとめた行動メモ）に整理し、被災時に地域で実際に行動できる実践力を身に着けます。

● 過去に実施されたプログラム

プログラム1 災害時に支援が必要な人へのサポートを考える（ワークショップ）

災害時にはどのような人が支援を必要とするのかを考え、支援を必要とする人のために、自分たちは何をすべきかをワークショップ方式で意見交換し、とりまとめる。

→授業計画書例はp37



プログラム2 防災クロスロードにより災害支援を考える（グループワーク）

災害時に下す判断を「YES」か「NO」で選択するクロスロードを通じて、場面に応じた災害支援をケーススタディで考え、様々な視点での意見を聞きながら、災害時における支援について深く考える。

→授業計画書例はp38



プログラム3 防災レスキューカードの作成（個別学習）

これまでの防災学習から自分たちでできる防災支援行動を考え、レスキューカードとして作成し、いざという時に行動へ移せるよう目に見える形で防災支援行動の意識付けを行う。

→授業計画書例はp39



プログラム1 災害時の支援が必要な人へのサポートを考える（ワークショップ） 授業計画書(2025年度版)

- ◎ 学習の目標：
- ・災害時に支援が必要な人にはどのような人々がいるのか考える。
 - ・災害時にはどのような支援が必要となりそうなのかを考える。
 - ・中学生の自分たちでもできる支援が何かを考え、行動へつなげる基礎を作る。

- ◎ 準備品：【中学校】模造紙（各グループ1枚）
- 【自主防】説明資料3-1：「災害時に支援が必要な人へのサポートを考える」
- 配布資料3-1：「災害時の様々な場面解説資料」（A4サイズ、モノクロ、各グループ1セット）
- 配布資料3-2：「災害支援ワークショップ取りまとめワークシート」（A3サイズ、各グループ1枚）
- 道具類：付箋紙（赤、各グループ1/2冊）

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (10分)	13:35	自主防	2年生までの防災学習を振り返る	1年生、2年生ではどのようなテーマで学習してきたかを振り返る	説明資料3-1
	13:45		<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介(防災士から) ・《パワーポイント:2年生までの防災学習》 ・これまでの学習の振り返り ・3年生の防災学習のテーマ、ポイントを解説 		
展開① (30分)	13:55	中学校	ワークショップ「災害時に必要な支援を考える」① 《パワーポイント:災害時における様々な場面》 ・災害時には、各場面においてどのようなことが起きるのかを紹介 (紹介場面)避難行動、家屋の被災、人命救助、避難所生活、在宅避難者の支援 等 ・災害時に起こることについて生徒と質疑応答	ワークショップで意見交換をするための参考情報として解説 生徒から質問があれば、可能な範囲で回答する	説明資料3-1 配布資料3-1
	14:25		《パワーポイント:ワークショップ》 ・ワークショップの目的を説明 【個人作業】 ・災害時に支援が必要だと思われる人には、どのような人があるのか、 赤い付箋紙 に書き出す 【グループ作業】 ・各自が書き出した支援が必要だと思われる人をグルーピングして整理する ・災害時に支援が必要な人をリストにして、 ワークシート に書き出す		
< 休憩 >					
展開② (20分)	14:35	中学校	ワークショップ「災害時に必要な支援を考える」② ・各グループに支援を考えてもらう対象者を伝える 【グループ作業】 ・各グループは、与えられた支援対象者に必要になると思われる支援内容を ワークシート に書き出す(各グループ目標10個以上) ・ ワークシート に書き出した支援内容について、中学生でもできるかどうかを考え、ワークシートの「できる」「できない」のどちらかに○を入れる。 ・グループ発表の準備をする	1時間目で説明した災害時の各場面も参考にして考えてもらう 防災士は、各グループの発表から評価できる内容について、評価した理由と一緒に解説する	配布資料3-2
	14:55		グループ発表 ・各グループで考えた要対策支援者に必要な支援と中学生でもできそうな支援を発表(各班2分程度)		
まとめ (10分)	15:15	自主防	西日本豪雨で中学生が果たした役割から考える 《パワーポイント:災害での中学生の支援事例》 ・実際の災害現場で中学生がボランティアなどで活躍した事例を具体的に紹介 ・紹介事例を含め各グループの代表者に感想を聞く ・質疑応答、次回予定の説明		説明資料3-1
	15:25				

3年次の防災学習

プログラム2 防災クロスロードにより災害支援を考える（グループワーク） 授業計画書(2025年度版)

◎ 学習の目標

- ・災害時の支援について自分以外の意見も聞くことでより広い視野で考える。
- ・各自が想定する状況や情報で支援の考え方や方法も変わりうることを学ぶ。
- ・ケーススタディで支援方法を考えることで、支援について深く考えることができる。

◎ 準備品：【中学校】配布資料3-3：クロスノート（生徒人数分）

配布資料3-4：グループ意見整理シート（A3サイズ、グループ数分）

【自主防】説明資料3-2：「防災クロスロードにより災害支援を考える」

道具類：YES・NOカード、丸シール（青・黄）

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (5分)	13:35	自主防	前回の防災学習の振り返り		説明資料3-2
	13:40		<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介(防災士から) ・《パワーポイント:先週の防災学習》 ・前回の防災学習の振り返り 		
展開① (45分)	14:25	中学校	防災クロスロード「災害時の支援」 《パワーポイント:防災クロスロード》 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の防災学習でも実施した防災クロスロードについて目的・ルールを再確認 ・以下の手順で問題を順番に出題する ※1題あたり15分程度で想定 1)先生が出題を読み上げ 2)生徒はYES・NOカードを裏返して出す 3)YES・NOカードを一斉に裏返す 4)YES・NOカードの出された状況でポイントを付ける → 多数派の意見の人は青ポイントをもらう → 1人だけの意見の人は黄色ポイントをもらう。 この時は、青ポイントはもらえない → YES・NO同人数なら全員が青ポイントをもらう 5)YESを選んだ時の問題点、NOを選んだ時の問題点を考えてクロスノートに書き出す 	〈クロスノートの見本〉 	説明資料3-2 配布資料3-3 道具類
			< 休憩 >		
展開② (25分)	14:35	中学校	クロスロードの問題から考えたことをまとめる 《パワーポイント:クロスロードのまとめ》 <ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとめる問題を1つ選び、YES・NOそれぞれに出された問題点について、解決方法を考える ・各自のクロスノートに記入した問題点はすべて対象としてそれぞれの解決方法を考える ・グループで出題に対する問題点と解決方法を意見整理シートに整理 	少数の意見に対する問題点もきちんと考えることで、関係者全体が納得できる対応を目指す	説明資料3-2 配布資料3-4
	15:00		グループ発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループが選んだ出題に対する問題点とその解決方法について発表する 		
まとめ (10分)	15:15	自主防	災害時の支援に必要なことは何かを考える 《パワーポイント:災害時における共助の役割》 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に起こる様々な問題を解決するために必要となる共助の役割について解説 → 被災者に支援を届けるために自らができること 		説明資料3-2
	15:25		<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答、次回予定の説明 		

プログラム3 防災レスキューカードの作成（個別学習） 授業計画書(2025年度版)

◎ 学習の目標：

- ・生徒が自分たちでできる災害時の支援方法を考える。
- ・レスキューカードで支援対象、支援内容を目に見える形で作成し、行動の実践を促す
- ・自らを災害時に支援する立場でとらえることで、より主体的に防災について考える。

◎ 準備品：【中学校】 道具類：ラミネートフィルム、カッターなど

※ラミネート作業は授業終了後に実施

【自主防】説明資料3-3：「防災レスキューカードの作成」

配布資料3-5：防災レスキューカード（60枚）

道具類：3年生防災学習のまとめ表、マジックセット（細方）

段階	時間	担当	学習内容	留意点	使用教材
導入 (10分)	13:35	自主防	レスキューカードの紹介 ・自己紹介(防災士から) 《パワーポイント:先週までの防災学習》 ・前回までの防災学習の振り返り → ワークショップで考えた災害時に支援が必要な人とその支援方法はどうか → クロスロードで分かった災害時の支援における問題点と解決方法はどうか ・わせだ防災レスキューカードの説明		説明資料3-3 道具類 配布資料3-5
	13:45			↑わせだレスキューカード	
展開 (40分)		中学校	レスキューシートの作成と発表 《パワーポイント:防災レスキューカード》 ・レスキューカードの作成方法を説明 ・これまでの防災学習でまとめられた結果を参考に、自分が災害時にしたい支援内容を決める ・生徒は自分がしたい支援内容について「助けたい人」「支援する内容」をマジックでカードに記入		説明資料3-3 配布資料3-5 道具類
	14:05		個別発表 ・生徒全員でレスキューカードに記載した内容を発表 → 支援内容を選んだ理由もたずねる	「助けたい人」や「支援する内容」は、これまでの防災学習でまとめられた内容にとらわれず、自由に記載して構わない	
	14:25				
＜ 休憩 ＞					
展開 (25分)	14:35	中学校	個別発表（続き） ・レスキューカードの発表(続き)		
まとめ (15分)	15:10	自主防	講義：誰かを助けるために大切なこと 《パワーポイント:災害時の犠牲者を0にするために》 ・災害時の犠牲者を0にするために必要なことは何か (1年生の防災学習のふり返り) → 自分の命を守るためには何をすべきか (2年生の防災学習のふり返り) → 防災行動を実践するために必要なこと (総合的なまとめ) → 助けたいひとを助けるために何が必要かを考える → 今日からできることをチェックして実行する → いざという時に言い訳をしないための秘訣	生徒が作成したレスキューカードは、ラミネートをする前の状態で並べて写真を撮影し、自主防で記録保存する レスキューカードは、授業後に学校でラミネートを行い、各生徒に渡す	説明資料3-3
	15:25		・質疑応答		

3年次の防災学習

●使用された教材について（2025年度分）

授業の中で使用された教材（説明資料やワークシートなど）を紹介します。

種類	番号	内容	該当プログラム	掲載頁
説明資料	3-1	災害時に支援が必要な人へのサポートを考える	1	p41~
	3-2	防災クロスロードにより災害支援を考える	2	p43~
	3-3	防災レスキューカードの作成	3	p44~
配布資料 (ワークシートなど)	3-1	災害時の様々な場面解説資料	1	p45~
	3-2	災害支援ワークショップ 取りまとめワークシート	1	p46~
	3-3	防災クロスノート	2	p47~
	3-4	防災クロスノート グループ意見整理シート	3	p49~
	3-5	わせだレスキューカード	4	p50~

3 年次：説明資料3-1「災害時に支援が必要な人へのサポートを考える」(1/2)



これまでの防災学習

◆1年生での授業内容

(1日目)
・防災クイズ
・ディスカッション

(2日目)
・防災クロスロード

(3日目)
・わが校防災マイタイムラインの作成

◆防災クイズ

- 日本や早稲田学区の災害について学習
- 防災の基礎知識を3択クイズで確認

◆ディスカッション

- 土砂災害が発生した時に連携のあった友達を助けるかどうか、という質問について意見交換

◆防災クロスロード

- 災害時の判断について、問題の選択肢から「Yes」「No」で答えを決め、グループでその判断について意見交換しました
- 他人の判断理由を知ることによって問題を様々な角度から考えることができたり、より最適な判断を導き出すことができました

◆わが校防災マイタイムラインの作成

- わが校防災マイタイムラインで避難行動や必要な備えについて確認し、災害時の行動計画を作成しました

◆2年生での授業内容

(1日目)
・救命講習、防災スキルアップセミナー

(2日目)
・災害エスノグラフィによる防災行動の追体験

(3日目)
・ライフライン停止時の備えを考えるワークショップ

◆救命講習・防災スキルアップセミナー

- 消防官の指導で心臓蘇生法、AEDの使用方法を習得
- 新聞紙の紙合積り作り、段ボールやロープを使った応急手当などのスキルアップ講座

◆災害エスノグラフィによる防災行動の追体験

- 平成30年7月前半の被災者の体験談から災害時の出来事を追体験
- 災害時の行動について大切だと感じたことを整理、発表

◆ライフライン停止時の備えを考えるワークショップ

- 災害時に停止するライフライン（電気・水道）を学習
- ライフラインが停止した時の備えをワークショップでまとめる
- 在宅避難時の備えについて学習

災害時の様々な場面

◆避難をする場面

- 土砂災害や洪水など大雨による災害の危険を感じ移動する時
- 地震や火災が発生した時に安全な場所へ移動する時

◆家屋が被災する場面

- 土砂災害などで家屋が崩れたり、土砂が家に入り込んだりした時
- 地震で家屋が倒壊したり崩れたりした時
- 火災で家屋が燃えた時

◆人命救助が必要な場面

- 建物や家具の下敷きになっている人がいる時
- 重い物などで動けないような人がいる時

◆避難所生活が必要な場面

- 自宅が被災して学校など避難所での生活が必要になった時
- 避難所での生活が長くなった時

◆在宅避難者などの支援が必要な場面

- 在宅避難をしている人に物資や情報などの支援が必要な時
- 車中泊などで避難をしている人がいる時

ワークショップ 災害時に必要な支援を考える

ワークショップとは？

- 参加者みんなで課題について考える
- グループ毎に課題を考えて解決方法をさがす

ワークショップで守るルール

- 他の参加者の意見を批判しない
→ 発展的な意見はOK
- 自由に意見を出す
→ 当り前な意見も突飛的な意見も歓迎
→ ただし、ふざけるのはダメ
- 意見は質より量を重視する
→ 多様な意見が大切

テーマ

災害時に必要な支援を考える

- 大雨が降って災害が起こりそうな時、あるいは災害が起こってしまった時の支援を考える
- 以下の内容について、グループで意見交換する
→ 支援を必要とする人は誰か
→ どんな支援が必要となりそうか

●個人作業

災害時に支援を必要とする人は

- 大雨で災害が起こりそうな時、災害が起こってしまった時に、支援が必要となる人は誰かを考える
- 各自で支援を必要とする人考え「赤い付箋紙」1枚に1つずつ種類で書く
- 支援を必要とする人をできるだけ書く
1人3枚以上、5枚が目録

●グループ作業

支援が必要な人をグルーピングする

- 支援が必要な人を書いた付箋紙を1人ずつ順番に組に出して貼り付ける
- 同じ意見の付箋紙がある場合は、最初に出された付箋紙を重ねて貼ってグルーピングする。

●グループ作業

支援が必要な人をリストに書く

- 付箋紙をグルーピングしたら、まとめた内容をワークシートの「災害時に支援を必要とする人」の欄に記入する

①災害時に支援を必要とする人

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------

各グループで考える 支援が必要な人の 対象者を指定します

3年次：説明資料3-1「災害時に支援が必要な人へのサポートを考える」(2/2)

●グループ作業

支援する内容を考える

- グループに指定された「支援を必要とする人」について、どんな支援が必要となるか考える
- どんな支援が必要かを考え、ワークシートの「災害時に必要となる支援内容」の欄に記入する。

●グループ作業

自分たちでできる支援を考える


- ワークシートに災害時にできる支援内容を記入したら、その支援内容が中学生の自分たちでもできるかどうかを考える。
- 自分でできそうな内容は「できる」欄に、難しそうな内容は「できない」欄に○印をつける。

※中学生でもできる支援か
 できる
 できない

〈グループ発表〉

支援が必要な人についてどんな支援を行うか発表



災害時に助け合うために



◆阪神大震災では約8割の人が近所の人に助けられる

●1995年（平成7年）1月17日に、兵庫県の高槻市北部で阪神大震災を発生させた地震が発生

●この震災で建物や家具などが倒壊して被害にあった人の中から、約8割が近所の人などによって助けられている

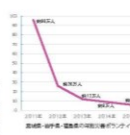



◆東日本大震災では多くの災害ボランティアが活躍

●東日本大震災では、災害発生から多くの災害ボランティアが活躍

《活動の事例》

- 避難所の除き出しなど食料の準備
- 生活支援物資の整理、配布
- ボランティアセンターの運営
- 家具などの片付けやゴミの集出
- 家の修理
- 話し相手、子どもの遊び相手
- 買い物などの代行




◆西日本豪雨で支援活躍した中学生（その1）

■避難所を助ける支援

- 近所の人と一緒に避難（年配の方や小さな子どものサポート）
- 避難の準備

■避難所でのボランティア

- 避難所の配給所で支援物資の配給
- 避難所の子どもたちとお菓子作りやおもち作り
- 支援物資の仕分け作業
- 食料の準備、配給
- 赤ちゃんのお世話
- 小学生の勉強のお手伝い
- 避難所の掃除、片付け




◆西日本豪雨で支援活躍した中学生（その2）

■被災した人・地域への支援

- 家のお風呂やトイレの掃除
- 生活用水を家に運ぶ（バケツリレーほか）
- 被災した家や道路などの土砂かき
- お祭りなどみんなが元気になる行事の準備、運営
- 被災した家の片付け
- 高齢者や一人暮らしの人へ情報を届ける
- SNSでの情報発信
- 被災状況の記録の手伝い


■近所・近隣者への支援

- 必要な支援の聞き取り
- 支援物資のお届け



まずは自分の命をしっかりと守る

- 災害時に誰かを助けるためには、まず自分の命をしっかりと守ることが大切
- どこかに避難、在宅避難のどちらでも、日頃から災害が起こりそうな時の行動や備えについて、家族でしっかりと話し合って準備をする



近所にどんな人がいるか知る

- 近所や地域に助けを必要としような人がいないか、また防災士や自主防災会などの助けてくれそうな人は誰かを知り、必要な時に自分や家族が連絡できるように備えが必要



3年次：説明資料3-2「防災クロスロードにより災害支援を考える」



前回のふり返り



ワークショップ「災害時の支援を考える」

●災害時に支援を必要とする人は？

先週のワークショップで意見が多かった「支援を必要とする人」

- 高齢の方
- 障がいを持つ方
- 赤ちゃん、幼児、子ども（おがる児童）
- 妊婦の方
- ペットを飼っている人
- 犬を飼っている人
- 外国人（日本語が苦手な人）
- 病弱の人、ケガをしている人
- 有知が被災した人
- 避難先に住居が必要なお年寄り

●災害時に必要となる支援の内容は？

代例例：ペットのいる家族（1組1組）

- （中学生までできる支援）
 - 散歩させる（散歩ができる人を探す）
 - ペットの避難場所を作る
 - ペットの世話をしてあげる
 - ペットとのふれあいの場を作る
 - ペットが居るごしやけい場を作る
- （中学生だけでは困難な支援）
 - エサなどを地域でサポートする
 - ペットの避難場所を作る
 - ホームセンターなどに協力を依頼して、ペットに必要な物資を調達してもらう
 - ペットを預かってもらえる場所を作る

防災クロスロード



机をグループワークの形に移動しましょう

防災クロスロードのおさらい

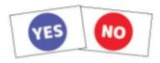
●災害時の行動は判断の連続です

- 防災クロスロードは、災害時に判断が必要となる場面でのような選択をするのを決め、その選択した理由を意見交換することで、最適な考え方を参加者全員で確認するゲームです。
- このゲームは、阪神大震災で神戸市の被災の方の体験談された経験を活かすために作られました。

持ち物を確認する

以下の持ち物があるか確認します。

- 「YESカード」「NOカード」（各自1枚ずつ）
- 防災クロスロード（各自4ページ分）
- 丸シール（青・黄、グループに1枚ずつ）



防災クロスロードのやり方

- 1) クロスロードの問題を読み上げます
- 2) 問題に対して「YES」か「NO」か自分の答えを決めます
- 3) 答えのカードを白い方を表にして出します
- 4) 一斉にカードを裏返します
- 5) グループの多数派だった人は青丸シールを貼ります
- 6) グループで1人だけ意見が違った人は黄丸シールを貼ります
- 7) 複数人数のグループで意見が半分に分かれた場合は、全員が青丸シールをもらえます。

問題① 声かけ避難をする？

大震災の日、自宅に単と2人である時に「今のうちに避難所まで歩いて避難しなさい」と母から連絡があった。避難するため自宅を出ると、隣に一人暮らしで足腰の悪いおじいさんがまだ家に残っていた。おじいさんに声かけをして一緒に避難する？

YES:一緒に避難する
NO:自分たちだけで避難する

カードをオープン！

グループで意見交換をする

- 1人だけ意見が違う人がいたら黄丸シールをもらう。
- 多数派、もしくは同点だったら青丸シールをもらう。
- YESを選んだ人は、NOの問題点を説明する。
- NOを選んだ人は、YESの問題点を説明する。
- YES、NOそれぞれの問題点をクロスノートに記入する。
- すべての問題点が出たら、グループでどうすれば一番良いのかを考え、まとめた意見をグループの意見まとめ欄に記入する。

問題② ボランティアをしてみる？

自宅が被災してしばらく避難所で生活することになった。避難所の生活はなれず、毎日ストレスがたまって数日はあまり人と会話しなくなった。ある日、避難所のスタッフの人から、食事をみんなに配るボランティアをしてみたいと依頼があった。ボランティアの依頼を受ける？

YES:ボランティアとして手伝う
NO:ボランティアを断る

◆カードをオープンして得点をつける。
◆グループで意見交換してまとめる。

問題③ 人命救助

大きな地震が発生して自宅が危険なので、1人で近くの公園まで避難することにした。家を出ると、近所の被災した家の奥で地震の無いおじいさんが倒れているのを見つけた。周りには自分以外の人はいないが、おじいさんをどうにか助ける？

YES:おじいさんの救助を試みる
NO:誰か一緒に助けてくれる人を探しに行く

◆カードをオープンして得点をつける。
◆グループで意見交換してまとめる。

クロスロードで出た問題点について解決方法を考える

グループの意見を整理する

- グループで、YES・NOを合わせて最も問題点が多かった出題を1つ選び、どうしたら問題点を解決できるか考える
- 少数の意見が問題としていても解決できないか考える
- グループで出題に対する問題点と解決方法を、グループ意見整理シートに整理する

グループ発表

災害時の支援を考えるうえで、クロスロードから意見が出た問題点について、グループで考えた解決方法を発表します。

【発表の順序】

- ① 誰の出題
- ② 意見として出た問題点
- ③ 問題点の解決方法

少数意見の問題点に対する解決方法があればそれも発表

災害時における共助の役割

自助・共助・公助とは

【自助】
自分の命や財産を自分で守る

【共助】
知恵のたががお互いに協力しあう
市役所、消防、警察など公的な機関が支援する

支援が届く順番は、一助から二助の順番になる。
自助 → 共助 → 公助

共助の役割とは

自助だけでは解決できない問題を地域で解決する

- 被災を防ぐ手伝いをする
→ 火災警報の点検、震災時の避難防止、備蓄品の調達など
- 避難行動を支援する
→ 声掛け避難、避難先への移動の支援、避難所の運営など
- 人命を救助する
→ 災害相談、切迫した状況での搬出・搬送など
- 被災した人の生活を支援する
→ 物資の配給、公的な支援への連絡など

共助において大切なこと

- ① まずは近所から
近所はどんな人がいるか、近所では例に注意が必要を知る
- ② 一緒に助けてくれる人がいないか
一緒に行動できる人がいれば、支援の幅が大きく広がる
自分が支援行動のきっかけを作ること、様々な人を助けられる
- ③ 自らの知識や技術を高める
自分でできる事、手助けできる事が増えると様々な支援ができる

次回のお知らせ

自分は誰にどんな支援がしたい(できる)か決める

3年次：説明資料3-3「防災レスキューカードの作成」



早稲田中学校3年生 防災学習
3防災レスキューカードの作成

これまでの学習



1日目：災害時の支援を考えるワークショップ

- 災害時に必要な支援について、ワークショップ形式で意見交換しながら、支援について考えてもらいました。
- 災害時に支援を必要とする人は誰かを考え、特別に特定の人がどんな支援を必要としているかを考え、まとめて発表してもらいました。

ワークショップの結果は、「とりまごめ整理表」を参照

2日目：防災クロスロード

- 災害時に支援が必要となる場面において、クロスロードの問題を色々な視点で意見交換することで、支援するための課題と解決方法を考えました。

防災クロスロードの問題

【問題1】声かけ避難をする？
YES:一緒に避難する NO:自分たちだけで避難する

【問題2】ボランティアをしてみよう？
YES:ボランティアとして手伝う NO:ボランティアを断る

【問題3】人命救助
YES:救助を試みる NO:誰か一緒に助けしてくれる人を探す

防災レスキューカード



わせた レスキューカードとは

災害が起こりそうな時、起こってしまった時に、中学生のみんなが他の人を助けてあげられること助けてあげたいことをカードに記入するものです

わせた レスキューカードを作成する

自分の名前を記入

- ・レスキューカードに自分の名前を記入しよう。

記入は好きな色のマジックを使って書こう！

わせた レスキューカードを作成する

災害時に助けたい人を記入

- ・ワークショップの結果などを参考に、レスキューカードに自分が助けたい人を記入しよう。
- ・親族や近所の人など特定の人を助けたい場合は、その人について記入する(例えば「近所の田中さん夫婦」など)

わせた レスキューカードを作成する

災害時に自分ができること(助けてあげたいこと)を記入

- ・ワークショップの結果を参考に、自分が災害時に助けてあげられること、助けてあげたいことを記入しよう。

〈個別発表〉

防災レスキューカードに記入した内容を全員発表

【発表内容】

- ・災害時に助けたい人
- ・災害時に自分ができること
- ・それを選んだ理由

誰かを助けるために大切なこと

災害時の犠牲者を0にするために

- ◆1年生の防災学習のふり返り
 - 「自分の命を守るために必要なことは何か」
 - 「命を守る行動」への答えをいっしょ考える
 - 「確かな意思」が自分と大切な人の命を守る
 - 「必ず実行」することが成功を決める
- ◆2年生の防災学習のふり返り
 - 「防災行動を実践するために必要なこと」
 - 備えは、準備して安心しないでテストしてある
 - 備前を幸よく判断でき、最悪の状態を想定する
 - 正解性バイアスに負けずに行動する

今日からできることをチェックする

◆災害に備え、自分の命を守る、誰か助けるために準備が必要なことをチェックして備える

◎例えば…

- ・安全な避難経路の確認
- ・非常持ち出し品、備蓄品の購入・補充
- ・気象情報、防災情報の意味や自分との関係性を調べる
- ・ペットの避難に必要なものをそろえる

助けたい人助けるために必要なこと

◆助けたい人を助けるために必要なことを事前に考え、準備しておく

- ・連絡方法の確認
- ・一緒に避難するための方法の確認
- ・助けるための知識や技術の習得
- ・自分以外に助けしてくれる人を探す

備えたことを実践するために

◆備えを無駄にしないために決めたことを実践する

- ・実践しない理由(言い訳)を探さない
- ・近所の人や友人、知識・技術がある人などとネットワークを作る
- ・自分の行動を家族や友人にも理解してもらっておく
- ・レスキューカードをいっしょに

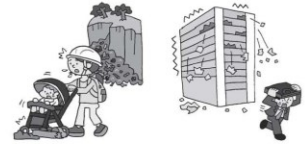
災害時の様々な場面



早稲田中学校3年生 防災学習 ①災害時の支援を考えるワークショップ

❖避難をする場面

- ・土砂災害や洪水など大雨による災害の危険性を感じ移動する時
- ・地震や火災が発生した時に安全な場所に移動する時

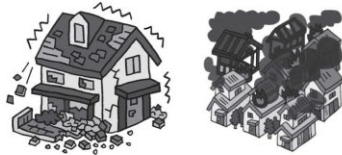


2

早稲田中学校3年生 防災学習 ①災害時の支援を考えるワークショップ

❖家屋が被災する場面

- ・土砂災害などで家屋が壊れたり、土砂が家に入り込んだりした時
- ・地震で家屋が倒壊したり壊れたりした時
- ・火災で家屋が燃えた時

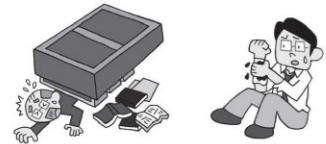


3

早稲田中学校3年生 防災学習 ①災害時の支援を考えるワークショップ

❖人命救助が必要な場面

- ・建物や家具の下敷きになっている人がいる時
- ・重いケガなどで動けないような人いる時

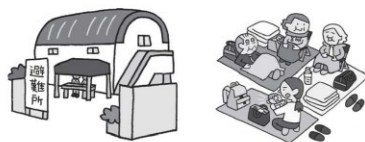


4

早稲田中学校3年生 防災学習 ①災害時の支援を考えるワークショップ

❖避難所生活が必要な場面

- ・自宅が被災して学校など避難所での生活が必要になった時
- ・避難所での生活が長くなった時



5

早稲田中学校3年生 防災学習 ①災害時の支援を考えるワークショップ

❖在宅避難者などの支援が必要な場面

- ・在宅避難をしている人に物資や情報などの支援が必要な時
- ・車中泊などで避難をしている人がいる時



6

組 班

早稲田中学校3年生 災害時の支援を考えるワークショップ ワークシート

①災害時に支援を必要とする人

<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____
<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____	<input type="checkbox"/>	_____

②災害時に必要となる支援内容

※①のグループワークで出た支援を必要とする人の中から、チェックがついた人を支援対象者として検討する

〈災害時に必要となる支援内容〉

中学生でも
できる支援か

- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)
- _____ (できる・できない)

早稲田中学校 防災クロスノート

班番号 _____

氏 名 _____

問題① 声かけ避難をする？

大雨の日、自宅に弟と2人である時に「今のうちに避難所まで歩いて避難しなさい」と母から連絡があった。
避難するため自宅を出ると、隣に一人暮らしで足の悪いおじいさんがまだ家に残っていた。
おじいさんに声かけをして一緒に避難する？

得点

YES：一緒に避難する

NO：自分たちだけで避難する

「YES」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....

「NO」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....

早稲田中学校 防災クロスノート

班番号 _____

氏 名 _____

問題② ボランティアをしてみる？

自宅が被災してしばらく避難所で生活することになった。
避難所の生活はなれず、毎日ストレスがたまって最近はあまり人と会話しなくなかった。
ある日、避難所のスタッフの人から、食事をみんなに配るボランティアをして欲しいと依頼があった。
ボランティアの依頼を受ける？

得点

YES：ボランティアとして手伝う

NO：ボランティアを断る

「YES」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....

「NO」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....

早稲田中学校 防災クロスノート

班番号 _____

氏名 _____

問題③ 人命救助

大きな地震が発生して自宅が危険なので、1人で近くの公園まで避難することにした。
家を出ると、近所の被災した家の庭先で意識のないおじいさんが倒れているのを見つけた。
周辺には自分以外の人はいないが、おじいさんをすぐに助ける？

得点

YES：おじいさんの救助を試みる

NO：誰か一緒に助けてくれる人を探しに行く

「YES」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....

「NO」の問題点

.....
.....
.....
.....
.....

早稲田中学校3年生 防災クロスロード グループ意見整理シート

グループ番号

問題

●グループで出た問題点

○問題点の解決方法

<p>●グループで出た問題点</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>○問題点の解決方法</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--	--





名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



名前 _____

助けたい人 _____

災害時に自分ができること



● 過去に実施していたプログラム

2025年度には実施されなかったものの、それ以前に実施されていたプログラムを紹介
します。

[作成]

令和8年4月

早稲田学区自主防災連絡協議会

広島市市立早稲田小学校 3年生
生活科・総合的な学習の時間における

防災学習「あんぜんマップづくり」 に関する手引き書

早稲田小学校3学年での総合的な学習の時間では、自分たちの住む早稲田小学校区の特徴について「防災」の視点で学び、調べ、地域のあんぜんマップを作成します。これまで、防災の専門家である地域の自主防災組織（早稲田学区自主防災組織連絡協議会、以下わせだ自主防）にご協力いただきながら実施されてきました。本書では、これまでどのように地域と連携して実施されてきたかについてまとめています。ぜひ授業時の参考資料としてご活用ください。

● 目次

- 01 防災学習の概要・・・p1
- 02 事前学習、まち探検、あんぜんマップづくりについて・・・p2
- 03 その他参考資料・・・p5

● 防災学習「あんぜんマップづくり」の経緯とねらい

早稲田小学校がある早稲田学区は、三方が牛田山などの山々に囲まれており、大雨による土砂災害や地震、火災の危険性があります。その中で、平成26年に発生した広島土砂災害を契機に、それまで防犯をテーマに実施していた「あんぜんマップ」づくりに防災の要素を取り入れ、防災学習として取り組んでいます。この防災学習は、わせだ自主防と一部連携しながら、総合的な学習の時間の中で3年生を対象に実施しています。

● 学習のステップ

防災学習は、年間を通した総合的な学習の時間の中で実施し、おおよそ次の学習内容と流れで進みます。※令和6年度時の情報をもとに作成しています。

	学習内容	学習に付随した対応事項
4月	<p>●地域理解を深める</p> <p>自分たちの地域について広く学ぶ。</p>	
5月		
6月		
7月		<p>●「まち探検」に関する打合せ</p> <p>わせだ自主防と「まち探検」の実施に向けて打合せを実施する。</p> <p>まち探検…あんぜんマップづくりに向けて、わせだ自主防と連携して早稲田の危険な箇所を実際に歩いて学ぶ。</p>
8月		
9月		<p>●まち探検の案内</p> <p>事前に保護者へ実施案内などを行う。</p>
10月	<p>●事前学習の実施／わせだ自主防 →p2</p> <p>まち探検を実施する前に、わせだ自主防による事前学習を実施する。</p>	
11月	<p>●まち探検の実施／わせだ自主防 →p3</p> <p>わせだ自主防と連携してまち探検を実施する。</p>	
12月		
1月	<p>●あんぜんマップの作成 →p4</p> <p>まち探検で発見した内容などをもとに、あんぜんマップを作成する。</p>	
2月		
3月	<p>●あんぜんマップの発表</p> <p>作成したあんぜんマップを参観日の場で発表する。</p>	
4月		<p>●あんぜんマップの展示</p> <p>参観日で発表したあんぜんマップを、公民会内に展示していただく。</p>

◎ 上記はおおよそな流れであり、児童の反応や授業の進行速度に応じて、進めやすいやり方に調整して進めることもあります

● 事前学習について

まち探検に向けた事前学習では、自主防災の方から、防災の基本的な知識と、あんぜんマップを作る上で役に立つポイントについて学びます。

これまで実施した事前学習の内容

《学習内容》

- ・ 防災とはなにか
- ・ 平成30年7月西日本豪雨における早稲田学区の災害（がけ崩れの映像紹介含む）
- ・ 安全マップ作成のためのポイント解説（クイズ形式） など

《実施時の役割分担》

- ▶ 小学校：導入部分の説明 / ▶ わせた自主防：本編の説明



事前学習の様子



事前学習の様子②



わせたでおこるさいがい
早稲田で起こる災害は？

学習内容例「防災とはなにか」



うしたわせた ちょうめくず
牛田早稲田2丁目のがけ崩れ

学習内容例「早稲田学区の災害例」



まけん
危険なところはどこでしょう？

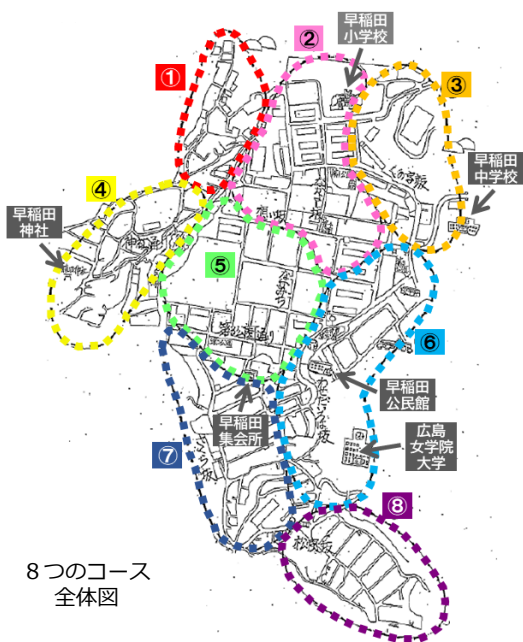
学習内容例「あんぜんマップのポイント」



学習内容例「防災クイズ」

● まち探検について

まち探検では、あんぜんマップづくりに向けて、わせだ自主防と連携しながら、コース内にある「やさしいところ」（防災や防犯で役に立つ場所、設備がある場所）、「危険なところ」（災害が起きた時に危険な場所など）を探し、写真を撮ったりメモを取ったりして記録していきます。探検するコースは坂道別に8つ（右図参照）設定されており、コースごとにグループに分かれて探検します。なお、各グループには基本的に大人が2名ほど付くため、地域関係者（わせだ自主防や保護者など）にまち探検の参加案内を出し、協力してもらうことがあります。



8つのコース全体図

これまで実施したまち探検の内容

《 実施内容・タイムスケジュール 》

- 8:50 早稲田小学校 体育館に集合
- 9:00 ~ 挨拶（地域参加者の自己紹介）
- 9:05 ~ まち探検の説明（担当：小学校）
- 9:10 ~ あんぜんマップまち探検に関する事前学習の振り返り（担当：わせだ自主防）
- 9:25 ~ グループに分かれてまち探検開始
- 10:50 ~ 休憩
- 11:00 ~ まち探検の結果整理
- 11:30 終了

《 実施時の役割分担 》

- ▶ 小学校
 - 授業全体の説明
- ▶ わせだ自主防
 - 事前学習の振り返り



探検時の様子



探検後に結果整理する様子

《 児童の基本的な持ち物 》

- 赤白帽子
- 探検バック
- 水筒
- 鉛筆
- 担当するコースマップ
- タブレット（グループで1台）
- デジカメ（グループで一台中）



02 | 事前学習、まち探検、あんぜんマップづくりについて

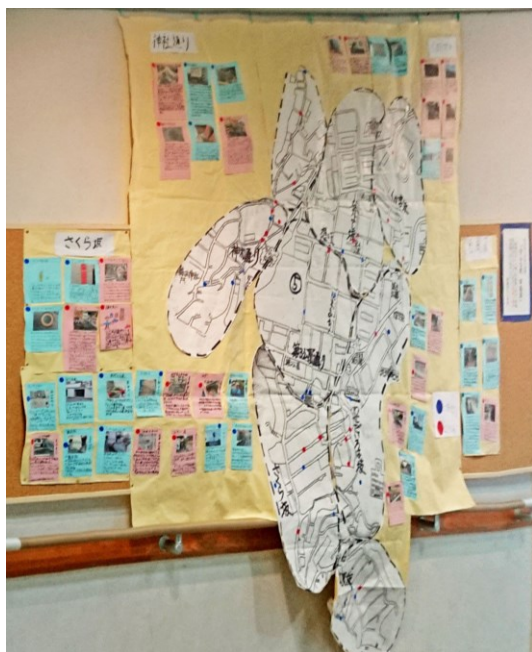
● あんぜんマップづくりについて

事前学習やまち探検で取りまとめた内容など、年間を通した学習の中で得た気づきをもとにあんぜんマップを作成します。レイアウトや表現方法に決まった形はなく、学年の特徴に合わせたマップが出来上がります。完成したマップは、年度末にある参観日の場で発表したり、公民館などで展示されたりすることがあります。

令和3年度



令和4年度



令和6年度



【令和6年度の担当者コメント】

- 作成において意識したポイント
 - ・児童が気になった箇所や疑問に沿って、担当者同士相談しながら授業を進めた
 - ・児童の「〜〜」といった気づきをしっかり書き残すことができる形を目指した

● まち探検 実施計画書（令和7年度）

広島市立早稲田小学校3年生 令和7年度 安全マップまち探検 実施計画書

1. 実施概要

実施日時：令和7年11月18日（火）9:00～11:30 ※予備日 11月27日

集合場所：早稲田小学校 体育館

児童数：56名

協力団体：早稲田学区自主防災連絡協議会（わせだ自主防）

2. 実施の目的

3年生における地図の学習の一環として、自分たちの住む早稲田小学校区について“防災”の視点で地域の特徴を学び、調べ、地域安全マップを作成する。この作成のための情報収集および防災についての基礎を学習することを目的として、地域関係者とともにまち探検を行うものとする。

3. 実施スケジュール

8:50 早稲田小学校 体育館に集合

9:00～ 顔合わせ・挨拶（地域参加者の自己紹介）

9:05～ 先生からまち探検の説明

9:10～ 安全マップまち探検に関する事前学習（担当：わせだ自主防）

9:25～ まち探検開始（10:50まで）

10:50～ 休憩

11:00～ まち探検の結果整理

11:30 学習終了

4. 地域からの参加者

①神社通り（上） : ●● ●●さん

②なかよし坂・想い坂 : ●● ●●さん

③くの字坂 : ●● ●●さん

④神社通り（下） : ●● ●●さん

⑤なかみち・第2公園通り : ●● ●●さん

⑥わせだいろは坂 : ●● ●●さん

⑦さくら坂 : ●● ●●さん

⑧松風坂 : ●● ●●さん

5. 事前学習内容

- ・防災とはなにか
- ・平成30年7月西日本豪雨における早稲田学区の災害（がけ崩れの映像紹介含む）
- ・安全マップ作成のためのポイント解説

● まち探検 わせだ自主防による活動報告書（令和4年度）

早稲田学区自主防災連絡協議会 活動報告書

早稲田小学校3年生 安全マップまち探検

開催日時：令和4年11月30日（水）9：00～10：30

参加者：早稲田学区自主防災連絡協議会（8名）、ガードボランティア（1名）、保護者（3名）

出発場所：早稲田小学校 体育館

探検場所：早稲田学区全域（9つの坂を中心に探検）

1. グループ分け

- ❖ 早稲田小学校3年生が8つの班に分かれ、それぞれが早稲田学区で名付けた“坂道”を中心としたエリアでまち探検を実施

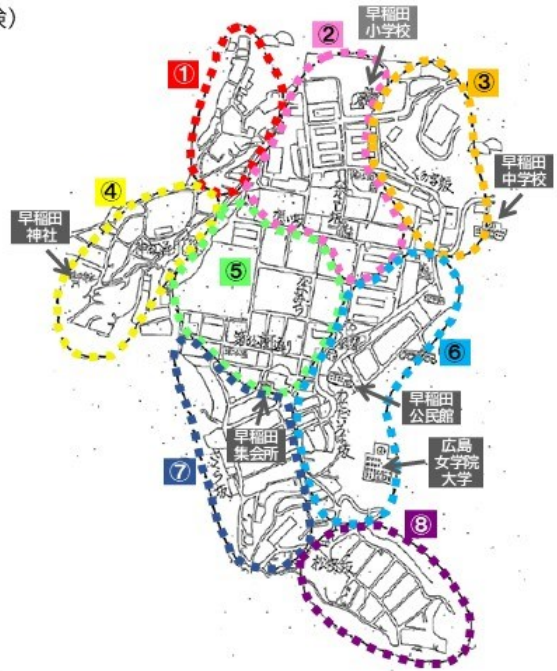
- 1班：神社通り（上）
- 2班：なかよし坂・想い坂
- 3班：くの字坂
- 4班：神社通り（下）
- 5班：なかみち・第二公園通り
- 6班：わせだいろは坂
- 7班：さくら坂
- 8班：松風坂

2. まち探検の方法

- ❖ 小学生は、各エリアで歩きながら防災や防犯の視点で以下の項目別に確認
 - ・安心、安全なところ
 - ・危ないと感じるところ
 - ・そのほかに気になるところ
- ❖ 引率する大人から様々な街の話を聞いたり、アドバイスをを受けたりしながら、タブレットで写真を撮り、マップにメモを記録

3. とりまとめ

- ❖ 小学校の体育館に帰ったら、大きなマップにまち探検で確認したポイントを書き込んだ付箋紙を貼り付けて整理

安心、安全
なところ危ないと
感じる
ところその他
気になる
ところ

まち探検 エリア別マップ



まち探検



体育館でのとりまとめ



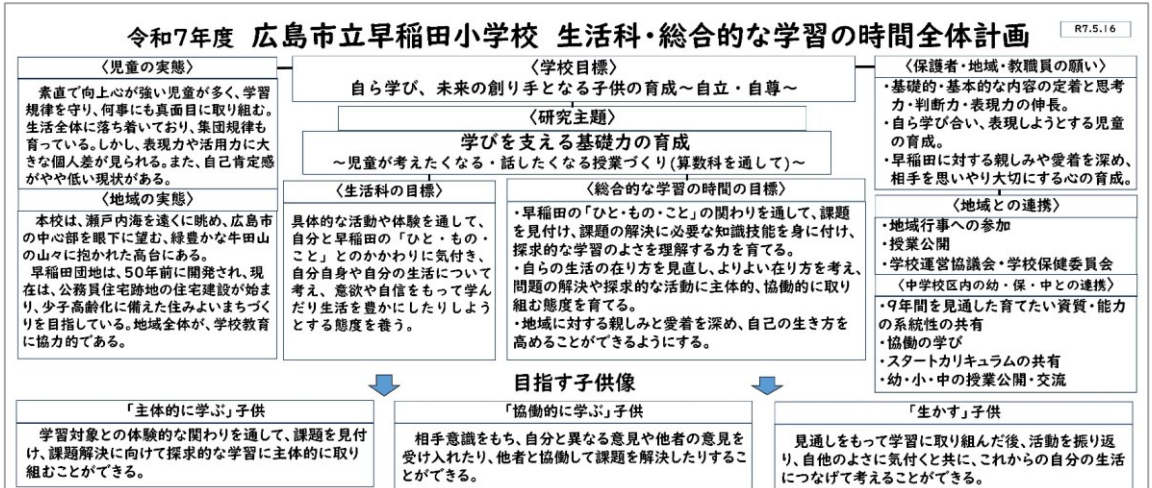
まち探検（早稲田集会所前）

● 総合的な学習の時間 所見参考資料（まとめ）

早稲田小学校で定める生活科・総合的な学習の時間にかかる計画書と、国立教育研究所の「学習評価に関する参考資料」を基にまとめられた評価基準の一覧表。（令和6年度の担当教員が参考として作成した資料）

参考文献：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【国立教育政策研究所】	
<p>観点 技能</p> <p>○探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。 ※「～できる」など学校による。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>○探究的な学習に主体的・協働的に取り組むようとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参加しようとしている。「～しようとしている」として設定することが考えられる。 ※「～できる」など学校による。</p>
<p>文 末 表 現</p> <p>○探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。 ※「～できる」など学校による。</p>	<p>① 「自己理解・他者理解」（振り返る力）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。 異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。 <p>② 「主体性・協働性」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意思で目標に向かって協働的に課題の解決に取り組む。 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む。 <p>③ 「将来展望・社会参画」（地域貢献力）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける。 家社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む。
<p>各観点の評価ポイント</p>	
<p>知識・技能</p> <p>○探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。 ※「～できる」など学校による。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。</p> <p>② 異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。</p> <p>③ 異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。</p>
<p>単元の評価規準（観点を見取る例）</p> <p>知識・技能</p> <p>① 地域には、〇〇があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちなちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。</p> <p>② インタビューによる街頭調査を、相手や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③ 多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>① 課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするか、何のためにするかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。</p> <p>② 街頭調査や意見交流会において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めていく。</p> <p>③ 多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の観点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。</p> <p>④ 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして〇〇で表現している。</p>
<p>思考・判断・表現</p> <p>○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。「～している」として設定することが考えられる。 ※「～できる」など学校による。</p> <p>① 「課題の設定」（課題発見力）</p> <ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する。 解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる。 <p>② 「情報の収集」（情報の活用力）</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を効果的に収集する手段を選択する。 必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する。 <p>③ 「整理・分析」（情報の活用力）</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする。 事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ。 <p>④ 「まとめ・表現」（表現力）</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて効果的な表現をする。 学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす。 	<p>思考・判断・表現</p> <p>① 課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするか、何のためにするかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。</p> <p>② 街頭調査や意見交流会において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めていく。</p> <p>③ 多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の観点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。</p> <p>④ 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして〇〇で表現している。</p>

● 令和7年度 早稲田小学校 生活科・総合的な学習の時間全体計画



【生活科・総合的な学習の時間で育てようとする資質・能力及び態度】

		生活科	総合的な学習の時間
		1・2年	3・4年
「主体的に学ぶ」子供	(1)課題設定	主体的に学習に取り組む態度 対象との関わりを通して、もっと知りたいこと、やってみようという意欲を見付けている。	対象との体験的な関わりを通して、もっと調べてみたいこと、やってみようという意欲を見付けている。
	(2)見通す	主体的に学習に取り組む態度 もっと知りたいこと、やってみようことを決め、どのような学習をするか計画を立てている。	到達したい自分の姿のイメージをもち、どのような学習をするか計画を立てている。
	(3)情報収集	思考・判断・表現 具体的な活動や体験を通して、気付きをもちている。	課題を解決するために、多様な方法で情報を集めている。
	(4)整理・分析	思考・判断・表現 見つけた気付きを比べ、同じところや違うところが分かるようにしている。	収集した情報を整理・分析したり、関連付けたりして、課題を追究している。
	(5)まとめ・表現	思考・判断・表現 気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉や絵など、自分なりの方法で伝え合っている。	相手や目的に応じて、まとめたことを、分かりやすく表現している。
	(6)振り返り	主体的に学習に取り組む態度 学習を振り返り、分かったこと、もっと知りたいこと、やってみようことを見付けている。	学習を振り返り、分かったこと、できるようになったこと、思ったことを確認したり、次の学習や生活に生かそうとしている。
「協働的に学ぶ」子供	(7)他者理解	主体的に学習に取り組む態度 友達の考えを聞き、良さを知らそうしている。	友達の考えを聞き、良さを知らそうしている。
	(8)協働	主体的に学習に取り組む態度 友達と仲良く活動している。	互いに考えをもち寄り、他者と協力して課題を解決しようとしている。
「生かす」子供	(9)自己理解	主体的に学習に取り組む態度 自分の良さや可能性に気付き、意欲と自信をもって学習している。	自らの生活の在り方を見直し、よりよく生活しようとしている。
	(10)社会参画	知識・技能 分かったことやできるようになったことを次の学習や生活の中で生かそうとしている。	学んだことを身近な人に広めたり、地域の活動に参画したりしようとしている。
		5・6年	対象との体験的な関わりを通して、自分ごととして課題を設定している。 到達したい自分の姿のイメージをもち、課題解決の方法や手順を考え計画を立てている。 活動の内容や目的に合った情報を多様な方法で集めている。 収集した情報を効果的な思考ツールを選択し、整理・分析したり、関連付けたりして、課題を追究している。 異なる意見や他者の考えを理解するとともに、自分の考えも伝えている。 互いに考えをもち寄り、他者と協力して課題を解決しようとしている。 自らの生活の在り方を見直し、よりよい在り方を考えて実践しようとしている。 身に付いた方を生かし、追究して学んだことを地域に発信したり、地域の活動に参画したりするなど、自分の生き方に生かそうとしている。

【学習内容】

わせたっ子が拓く未来の町 早稲田!						
テーマ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年テーマ	わっくわっく! わせたっ子!	すめい! わせたっ子 たんけんたい!	発見! わせたっ子 調査隊!	深ぼり! 早せ田の町や人	なるほど! 早稲田の「想い」	発信! WASE-DGs
学習対象	学校の施設 学校で働く人 家庭 地域で生活したり働いたりしている人 公共物 公共施設 地域の行事・出来事 身近にある物 動植物 自分ごと	友達 通学路 家族	・地域の施設や自然 ・地域の生活や文化を守ろうと努力する人々	・地域の自然や歴史、行事、そこに関わっている人々が行っている活動 ・自分と地域とのつながり	・地域の高齢者、障害者の暮らしを支える人々 ・防災など早稲田の町づくりのために取り組んでいる人々と活動	・平和への願いを発信している人々 ・早稲田の町に住んでいる人々や早稲田の町づくりのために取り組んでいる人々
主な学習事項	・学校施設や、学校生活を支えている人々に興味をもち、意欲的に学校生活を送ることができるようにする。 ・アガサなどの植物を育てる活動を通して、植物への親しみをもち、大切にできるようにする。 ・身近な自然物を使い、工夫してつくったり、約束ルールを考えたりしながら、季節を取り入れて遊びや生活を楽しくつくり出せるようになる。 ・家庭生活に目を向け、家族の一員として暮らすことを考える。 ・自分の生活を振り返り、自分の成長に気付き、感謝の気持ちをもって生活できるようにする。	・地域の「ひと、もの、こと」と繰り返し分かちあう。どんな学習をするのか見通しをもつ。 ・気付きを表現し、交流する。 ・活動を振り返り、新たな課題をもつ。 ・地域に愛着をもち、地域の人々の思いに気付き、自分自身の成長を振り返り、支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、意欲的に生活できるようにする。 ・植物や生き物を育てる活動を通して、植物や生き物への親しみをもち、大切にできるようにする。	・総合的な学習の時間について知り、調べたい課題を見付ける。 ・調べたことをもとに、見通しをもちながら友達と協力して新たな課題を考える。 ・地域に愛着をもち、自分達の生活に結び付けて考える。	・早稲田の歴史に目を向け、見通しをもちながら古くから残っている場所や地域で行われている行事について調べる。学習を通して、地域の成り立ちに対する自分の考えをもつ。 ・自分と地域のつながりについて気付き、これまでの自分のことを考え、地域で共に生きていくことの大切さについて考える。	・防災など早稲田の町づくりのために活動している人々や活動について調べたことをふりかえる。 ・早稲田の人や町のやさしさに着目し、見通しをもって、調べたり、情報の収集、整理・分析したりする。 ・身近な高齢者や障害者を支える仕組みや携わる人々を知り、思いやりややさしさを実践し、まとめたものを発信する。 ・これまでの学習を振り返り、早稲田のために自分ができることを考える。	・「早稲田小学校平和宣言」をつくり、平和への願いを相手に発信する。 ・今までの学びをもとに、早稲田の町の人々の願いや思いを知り、課題を見付ける。 ・課題解決に向け、見通しをもちながら友達と協力して情報を収集し、整理・分析する。 ・課題について、まとめたものを他学年や地域の人に発信する。 ・これまでの学習を振り返り、町に対して自分ができることを考える。
	学習活動	「わっくわっくどきどき」わっくわっく! 「わっくわっくどきどき」わっくわっく! 「わっくわっくどきどき」わっくわっく! 「わっくわっくどきどき」わっくわっく!	「まちがたすき たんけんたい」 「えがのびみつ たんけんたい」 「あしたつなご 自分たんけん」 「めざせ 野さい作り名人」 「めざせ 生きものほかせ」	「はくわのわし町 早稲田」 「安全な町 早稲田」 「安全な町 早稲田II」	「もっと知りたい 早せ田の昔」 「もっと知りたい 早せ田の町や人」 「共に生きよう 早せ田の町や人」	「発見! 早稲田のやさしさ」 「実感! 早稲田の想い」 「考えよう! 早稲田の町に自分ができること」

指導方法	指導体制	各教科との関連	学習評価
・新たな課題を生み出す体験活動の工夫 ・協働的な学習活動の充実 ・児童の見取りによる個々に応じた指導の工夫	・保護者、地域の方による協力体制の充実 ・担任外の教職員による支援体制の充実	・他の教科等で育成する資質・能力 (情報活用能力・言語能力・考えるための技法)	・評価規程の設定 ・個人内評価の充実 ・指導と評価の一体化 ・ポートフォリオ

令和8年3月作成
早稲田学区自主防災連絡協議会

早稲田公民館

防災体験学習 実施マニュアル



早稲田学区自主防災連絡協議会
令和8年3月作成

1. 早稲田公民館「防災体験学習 実施マニュアル」作成の目的

早稲田学区では、「わせだ防災プラン」で防災教育のプログラムを作り、地域と学校が協働して防災教育に取り組むことにしています。

地域で取り組む防災教育については、地域コミュニティの拠点である早稲田公民館を会場として主に体験型の防災学習を中心に活動に取り組みます。

このマニュアルは、公民館で実施する防災体験学習について活動を計画する参考資料として、実施メニュー別に実施する目的、実施手順、準備品や予算計画、説明で使用する資料等についてとりまとめました。

2. 掲載されている資料

〈1ページ目〉

①実施メニュー名・目的

メニューの名前と学習目的です

②実施の条件

参加対象の学年、実施時間、使用する部屋、参加最大人数、参加費の有無などを記載しています

③実施内容

この体験学習で実施する項目名を記載しています

④実施手順・方法

体験学習を実施する順番に、実施内容などの概略を開設しています

⑤運営体制

この実施メニューを運営するために必要な人数です

〈2ページ目〉

⑥準備品リスト・予算計画

〈3ページ目以降〉

⑦説明で使用する資料ほか

早稲田公民館 防災体験学習 実施マニュアル①

防災クッキング

災害で停電や断水になった場合に、子供でも備蓄品でできる調理方法として「耐熱ポリ袋調理」と「メスティン自動調理」を体験します。調理方法の体験を通じて、備蓄品の必要性を学びます。

実施対象：小学生（2年生以下は保護者と一緒であれば参加可能）、中学生
開催会場：実習室 実施時間：120分
運営団体：わせだ自主防、女性会、青少年など 参加人数：最大12名
参加費：500円程度

1. 実施内容

- ①電器や水道が止まった場合の生活についての説明
- ②耐熱ポリ袋による調理方法体験
- ③メスティン自動調理による調理方法体験
- ④試食会
- ⑤実物展示による家庭内備蓄品チェック
- ⑥意見交換・まとめ

2. 実施手順

- ①自己紹介（3分）
- ②電器や水道が止まった場合の生活についての説明（5分）
・防災クッキングを実施する目的、実施する内容について説明
（使用資料：「災害でライフラインが止まるとどうなるか？」）
- ③耐熱ポリ袋調理・メスティン自動調理の解説（5分）
・ポリ袋調理の特徴、使用する備蓄品について解説
（使用資料：「ライフラインが止まってもできる防災クッキング」）
- ④耐熱ポリ袋調理の体験（30分）
・耐熱ポリ袋調理のメニューを子供が作って体験
（使用資料：「防災クッキング ポリ袋調理レシピ」）
- ⑤メスティン自動調理の体験（30分）
・メスティン自動調理のメニューを子供が作って体験
（使用資料：「防災クッキング メスティン自動調理レシピ」）
- ⑥調理メニューの試食（20分）
・それぞれの調理体験で作った料理を全員で試食する
- ⑦家庭での備蓄の必要性について解説（15分）
・災害時にライフラインが止まった時の備えとして備蓄品の実物を見ながら解説
（使用資料：「わが家の防災準備リスト」）
- ⑧意見交換・まとめ（15分）
・参加者全員で感想を述べたり意見交換をしたりしてまとめる

3. 運営体制（6～8名）

1) 進行・説明担当	1～2名	4) 受付担当	1名*
2) 調理補助	3～4名	5) 備蓄品展示担当	1～2名*
3) 記録撮影	1名		

※「*」が付いている役割は他のスタッフが兼務可能

3. 掲載されているメニュー

- ①防災クッキング P. 3から
- ②ぼうさい運動会 P. 7から
- ③防災教室「防災ゲームチャレンジ！」 P. 10から

防災クッキング

災害で停電や断水になった場合に、子供でも備蓄品でできる調理方法として「耐熱ポリ袋調理」と「メスティン自動調理」を体験します。調理方法の体験を通じて、備蓄品の必要性を学びます。

実施対象：小学生（2年生以下は保護者と一緒であれば参加可能）、中学生
 開催会場：実習室 実施時間：120分
 運営団体：わせだ自主防、女性会、青少協など 参加人数：最大12名
 参加費：500円程度

1. 実施内容

- ①電器や水道が止まった場合の生活についての説明
- ②耐熱ポリ袋による調理方法体験
- ③メスティン自動調理による調理方法体験
- ④試食会
- ⑤実物展示による家庭内備蓄品チェック
- ⑥意見交換・まとめ



耐熱ポリ袋調理体験の様子

2. 実施手順

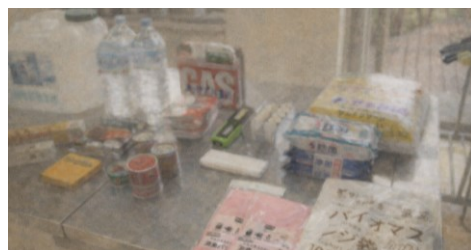
- ①自己紹介（3分）
- ②電器や水道が止まった場合の生活についての説明（5分）
 - ・防災クッキングを実施する目的、実施する内容について説明（使用資料：「災害でライフラインが止まるとどうなるか？」）
- ③耐熱ポリ袋調理・メスティン自動調理の解説（5分）
 - ・ポリ袋調理の特徴、使用する備蓄品について解説（使用資料：「ライフラインが止まってもできる防災クッキング」）
- ④耐熱ポリ袋調理の体験（30分）
 - ・耐熱ポリ袋調理のメニューを子供が作って体験（使用資料：「防災クッキング ポリ袋調理レシピ」）
- ⑤メスティン自動調理の体験（30分）
 - ・メスティン自動調理のメニューを子供が作って体験（使用資料：「防災クッキング メスティン自動調理レシピ」）
- ⑥調理メニューの試食（20分）
 - ・それぞれの調理体験で作った料理を全員で試食する
- ⑦家庭での備蓄の必要性について解説（15分）
 - ・災害時にライフラインが止まった時の備えとして備蓄品の実物を見ながら解説（使用資料：「わが家の防災準備リスト」）
- ⑧意見交換・まとめ（15分）
 - ・参加者全員で感想を述べたり意見交換をしたりしてまとめる



ライフライン停止についての説明の様子



メスティン自動調理の体験の様子



備蓄品サンプルの実物展示

3. 運営体制（6～8名）

- | | | | | | |
|------------|-------|------|------------|-------|-------|
| 1) 進行・説明担当 | | 1～2名 | 4) 受付担当 | | 1名* |
| 2) 調理補助 | | 3～4名 | 5) 備蓄品展示担当 | | 1～2名* |
| 3) 記録撮影 | | 1名 | | | |

※「*」が付いている役割は他のスタッフが兼務可能


4. 準備品リスト

	準備品	規格・仕様	単位	数量	担当	予算	備考
全体説明							
1	災害時の備えについて	パワーポイント資料	－	1式	自主防		
2	家庭での備蓄品説明資料	備蓄品リストほか	枚	12	自主防	300円	
3	大型モニター	HDMIコード	台	1	公民館		
4	パソコン		台	1	自主防		
5	レシピメモ	A4クリアカバー付き	枚	12	自主防	100円	今回オリジナル
ポリ袋調理							
6	カセットコンロ	タフ丸くん	個	4	自主防		自主防展示用備品
7	カセットボンベ	3本セット	パック	4	自主防		自主防展示用備品
8	大鍋		個	4	公民館		
9	耐熱ポリ袋	40枚入り	箱	2	自主防		自主防備品
10	水	2Lペットボトル	本	12	自主防		自主防備品
メスティン自動調理							
11	メスティン	1.5合用	個	4	青少協		青少協備品
12	ポケットストーブ		個	4	青少協		青少協備品
13	固形燃料	25g	個	4	自主防		自主防備品
14	メスティンシート		枚	4	自主防		自主防備品
15	焚き火シート		枚	2	自主防		自主防備品
16	アルミテーブル		個	2	青少協		青少協備品
調理器具・什器・雑品類							
17	包丁		本	4	公民館		
18	まな板		枚	4	公民館		
19	ピーラー		本	4	公民館		
20	トンゴ		本	4	公民館		菜箸での可
21	計量スプーン	大・小	本	各4	自主防		自主防備品
22	計量カップ		台	4	公民館		自主防備品
23	料理用はかり	グラム単位はかり	個	4	自主防		自主防備品
24	割り箸		膳	30	購入	200円	
25	スプーン	大	本	30	購入	300円	
26	紙ボウル	小	枚	60	購入	400円	
27	ゴミ袋	30L	枚	4	自主防		自主防備品
28	ウェットティッシュ		パック	4	購入	500円	
29	布巾		枚	8	自主防		自主防備品
30	会費徴収袋	長形4号	枚	1	自主防		自主防備品
備蓄品（展示用）							
31	飲料水（ペットボトル）	500ml×24本	箱	1	自主防		自主防展示用備品
32	パックご飯		食	3	自主防		自主防展示用備品
33	缶詰	おかず・フルーツ	缶	各1	自主防		自主防展示用備品
34	栄養補助食品	カロリーメイト	箱	1	自主防		自主防展示用備品
35	カセットコンロ		台	2	自主防		（ポリ袋調理と兼用）
36	カセットボンベ		本	3	自主防		（ポリ袋調理と兼用）
37	ラップ	大	本	1	自主防		自主防展示用備品
38	アルミホイル		本	1	自主防		自主防展示用備品
39	ポリ袋	大（30L）	パック	1	自主防		自主防展示用備品
40	トイレトペーパー		パック	1	自主防		自主防展示用備品
41	ティッシュペーパー		パック	1	自主防		自主防展示用備品
42	簡易トイレ	20回分	箱	1	自主防		自主防展示用備品
43	消臭袋	20回分	パック	1	自主防		自主防展示用備品
44	ハンディライト		台	1	自主防		自主防展示用備品
45	乾電池	単一・二・三・四	セット	1式	自主防		自主防展示用備品
46	モバイルバッテリー		個	1	自主防		自主防展示用備品
47	水タンク	20L	個	1	自主防		自主防展示用備品
調理用食材							
48	※食材は調理メニューによる		式	1	購入	6,000円	自主防展示用備品
						金額計	7,800円

5. 使用する資料

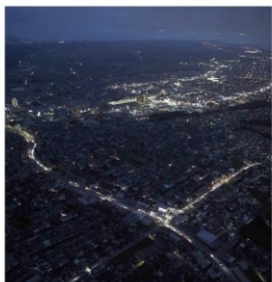
1) 説明資料「災害でライフラインが止まるとどうなるか？」

災害でライフラインが止まるとどうなるか？



災害でライフラインが止まるとどうなるか？

電気が2週間以上停まることもある



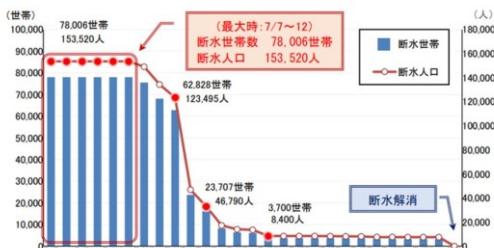
2019年(令和元年)9月千葉県では台風15号により、最大で約93万戸が停電となり、電気の復旧に16日間もかかりました。

台風で停電した千葉県君津市

災害でライフラインが止まるとどうなるか？

水道は1ヵ月近く使えないこともある

2018年(平成30年)7月の西日本豪雨呉市では、呉市で最大で15万人の世帯で断水し、最も長い、約1ヵ月も断水する世帯がありました。



平成30年7月豪雨で断水した呉市の世帯数

家庭での災害の備え

ライフラインに対する緊急支援

電気や水道が使えなくなった場合、緊急的に支援を受けることになります。

電気の場合

電気が止まると避難所などは移動電源車や発電発電機などで電気が使えるようになります。



移動電源車 発電発電機

水道の場合

水道が止まると給水車などで水を提供します。早稲田中学校には災害用の水槽があります。




給水車 耐震性防火水槽

緊急支援は、避難所など多くの人が集まるところでのみ支援が受けられるので一般の家庭ではそれぞれがしっかりと備えておく必要があります。

2) 説明資料「ライフラインが止まってもできる防災クッキング」

ライフラインが止まってもできる防災クッキング




ライフラインが止まってもできる防災クッキング

ライフラインが止まると料理も難しくなる

電気や水道、ガスなどのライフラインが止まってしまうと、いつもは気にせずできる料理も難しくなります。

そんな時、しっかりと備蓄品があれば、いつもと変わらないような料理ができる方法がいくつかあります。



ライフラインが止まってもできる防災クッキング

カセットコンロがあればポリ袋調理

カセットコンロがあれば、ポリ袋と鍋を使って「ポリ袋調理」ができます。災害時のポリ袋の主なメリットは以下のとおりです。

- ・温かな料理を食べられる
- ・1つの鍋で2つ以上の料理を作る
- ・鍋のお湯(水)は何度でも使える
- ・洗い物が少なくてすむ
- ・ご飯からおかずなど様々な料理ができる



ライフラインが止まってもできる防災クッキング

メスティンを使って簡単自動調理

キャンプ道具のメスティンを使用すると、簡単に様々な料理ができます。しかも工夫すれば、固形燃料に火をつけるだけで簡単に料理ができます。メスティン調理のメリットは以下のとおりです。

- ・温かな料理を食べられる
- ・固形燃料1つで簡単に調理ができる
- ・食器を使わずに食事をとれる
- ・最小限の水で調理ができる



3) 配布資料「防災クッキング ポリ袋調理レシピ」「防災クッキング メスティン自動調理レシピ」

友楽タイム 防災クッキング ポリ袋調理レシピ

ポリ袋調理のポイント

- ・高熱で加熱するため、必ず耐熱性のポリ袋（アイラップなど）を使用する
- ・ポリ袋に食材を入れてお湯で加熱するだけなので、簡単に調理できる
- ・鍋に6〜7割程度（食材を入れたポリ袋がつかまるくらい）のお湯で調理する
- ・ポリ袋が鍋の底についてしまう場合は、耐熱皿を鍋の中の底に置いてやぶれないようにする
- ・加熱した後のポリ袋は弱くなっているため、やぶれたりしないように気をつける
- ・加熱後のポリ袋は高温になっているので、やけどをしないようにトンガや箸を使用する
- ・災害時は燃料も水も貴重なため、大きすぎる鍋は使用しない

①ポテトサラダ

【作り方】

1. ジャがいもは皮をむき、1〜2cm角の大きさに切る
2. にんじんは皮をむき、薄くいちょう切りにする
3. ジャがいもとにんじんをポリ袋に入れ、空気を抜き、袋の上の方で結ぶ
4. 鍋の6分目ぐらまで水を入れお湯にして、中火で15分ほど煮る
5. 火を消し、15分ほど余熱でポリ袋を加熱する
6. ポリ袋にジャがいも他を入れたまま、マッシャーなどでジャがいもをつぶす
7. ポリ袋にマヨネーズをお好みの量だけ入れて混ぜ合わせる
8. ポリ袋の中身をボウルに入れ、薄切りにしたキュウリ、ツナコーン缶の中身を入れて混ぜる
9. 塩こしょうを入れて混ぜ、味を整えて完成

【材料等】※2〜3人前

品名	数量	備考
ジャがいも	中3個	
にんじん	1/3本	
ツナコーン缶 [※]	1缶	コーン缶のみでもOK
きゅうり	1本	
マヨネーズ	お好みで	
塩こしょう	少々	

※具としてミックスベジタブルやハムなどお好みで使用できる



②チョコ蒸しパン

【作り方】

1. ポリ袋にホットケーキミックスとココアを入れてもんで混ぜる
2. ポリ袋に卵、サラダ油、水、砂糖を入れてよく混ぜる
3. ポリ袋の空気をしっかりと抜いて、袋の上の方で結ぶ
4. 鍋の6分目ぐらまで水を入れお湯にして、中火で30分ほどゆでる
5. ポリ袋から中身を取り出して、お皿にもりつけて完成

【材料等】※1人前

品名	数量	備考
ホットケーキミックス	100g程度	
ココア（無糖）	大きじ1	
卵	1個	
サラダ油	大きじ2	
水	50cc	
砂糖	30g	



友楽タイム 防災クッキング メスティン自動調理レシピ

メスティン自動調理のポイント

- ・メスティンと固形燃料のみで作れる料理を「自動調理」と名付けている
- ・メスティンがこげ付くと洗うのが大変なので、メスティンシートやアルミホイルを使う
- ・メスティンは調理後、とても熱くなるので蓋を開ける時は気をつける
- ・ポケットストーブも熱くなるので直置きはせず、テーブルや焚き火シートの上で使用する

①焼き鳥炊き込みご飯

【作り方】

1. 無洗米をメスティンに入れ、水を250cc入れる
2. 時間がある時は、20分ほどお米を水につけておく
3. ポケットストーブに固形燃料をセットし、火をつけてメスティンをストーブの上に乗せる
4. 固形燃料が燃え尽きるまでまつ（約20〜30分）
5. メスティンのふたを開けて、ご飯を混ぜて完成

【材料等】※1〜2人前

品名	数量	備考
無洗米	1合	
水	250cc	
焼き鳥缶 [※]	1缶	
しょう油	大きじ2	
みりん	大きじ1	

※サバ缶、イワシ缶などでも美味しく作れる



②ソーセージポトフ

【作り方】

1. ジャがいも、ニンジン、キャベツは1口より少し小さめに切る
2. 玉ねぎはくし切りにし、しめじは石づきをとり
3. ソーセージ、すべての野菜、水、コンソメをメスティンにいれる
4. ポケットストーブに固形燃料をセットし、火をつけてメスティンをストーブの上に乗せる
5. 固形燃料が燃え尽きるまでまつ（約20〜30分）
6. メスティンの蓋を開けて、塩こしょうを入れて味を整えて完成

【材料等】※1人前

品名	数量	備考
ソーセージ	3〜4本	
キャベツ	1/8玉	
ジャがいも	中1個	
ニンジン	1/4本	
タマネギ	中1/2玉	
しめじ	1/2株	えのき舞でも良い
コンソメ	1粒	
塩こしょう	適量	
水	300cc	



4) 配布資料「わが家の防災準備リスト」

わが家の防災準備リスト

◆備蓄品の確認：家族の人数（ ）人

品名	1人分の必要量	家族の必要量	備え
飲料水	20リットル	リットル	<input type="checkbox"/> できている
パックご飯・アルファ化米	14食分	食分	<input type="checkbox"/> できている
おかず缶詰	14缶	缶	<input type="checkbox"/> できている
果物缶詰	7缶	缶	<input type="checkbox"/> できている
栄養補助食品	14箱	箱	<input type="checkbox"/> できている
野菜ジュース	7本	本	<input type="checkbox"/> できている
お菓子	—	7パック	<input type="checkbox"/> できている
カセットコンロ	—	1台	<input type="checkbox"/> できている
カセットボンベ	—	9本	<input type="checkbox"/> できている
ラップ大	—	1巻	<input type="checkbox"/> できている
アルミホイル	—	1巻	<input type="checkbox"/> できている
加熱袋（耐熱袋）	—	1パック	<input type="checkbox"/> できている
ポリ袋	—	1パック	<input type="checkbox"/> できている
ビニール手袋	—	1箱	<input type="checkbox"/> できている
トイレトーパー	—	7ロール	<input type="checkbox"/> できている
ティッシュペーパー	—	7箱	<input type="checkbox"/> できている
簡易トイレ	40回分	回分	<input type="checkbox"/> できている
使い捨てカイロ	14回分	回分	<input type="checkbox"/> できている
懐中電灯	—	1本	<input type="checkbox"/> できている
乾電池	懐中電灯ほか必要数を準備		<input type="checkbox"/> できている
モバイルバッテリー	1台	台	<input type="checkbox"/> できている
水タンク（20ℓ）	1個	個	<input type="checkbox"/> できている

◆自宅の防災対策

タンス・食器棚・冷蔵庫の転倒防止	<input type="checkbox"/> できている
各自の非常持ち出し品を準備し、いつでも持ち出せる	<input type="checkbox"/> できている
消火器もしくは簡易消火器を台所などに備えている	<input type="checkbox"/> できている
火災報知機の点検を年1回はしている	<input type="checkbox"/> できている

ぼうさい運動会

運動を通じて、身の回りにあるもので怪我をした人を助けたり、生活に必要な物を代用したり、災害時の行動を疑似体験したりするなど、楽しみながら防災を学びます。

実施対象：小学生、中学生

実施時間：120分

参加人数：最大20名

開催会場：ホール（体育館）

運営団体：体協、わせだ自主防、青少協など

参加費：無料

1. 実施内容

- ① 毛布担架リレー
- ② 防災グッズバケツリレー
- ③ 段ボールキャタピラリレー
- ④ 防災スリッパ作り
- ⑤ 避難者ジェスチャーゲーム
- ⑥ 水消火器的当てゲーム



毛布担架リレー

2. 実施手順

①自己紹介（5分）

②毛布担架リレー（20分）

- ・避難所にある毛布と物干し竿を利用した担架をリレーで体感

③防災グッズバケツリレー（15分）

- ・ブルーシートいっぱいに広げられた防災グッズをすべてバケツを使ったリレーでゴール地点まで運ぶ



防災グッズバケツリレー

④段ボールキャタピラリレー（20分）

- ・段ボールで出来た巨大なキャタピラに入ってリレー形式で競争
- ・火事の時に煙で前が見えない状況での移動を体感



段ボールキャタピラリレー

⑤防災スリッパ作り（20分）

- ・災害時に身の回りのもので作れる新聞紙のグッズづくりを体験

⑥避難者ジェスチャーゲーム（15分）

- ・離れた場所から、くじ引きで引いた防災グッズが何かをジェスチャーで伝えることで、コミュニケーション能力を高める



避難者ジェスチャーゲーム

⑦水消火器的当てゲーム（15分）

- ・水消火器で目標を狙って消火を疑似体験



水消火器的当てゲーム

⑧表彰式（10分）

- ・一番勝った種目が多かったチームを優勝チームとして表彰

3. 運営体制（7～12名）

- | | | |
|------------|-------|------|
| 1) 進行・説明担当 | | 1～2名 |
| 2) 資機材準備担当 | | 3～4名 |
| 3) 運営補助 | | 3～5名 |
| 4) 受付担当 | | 1名* |

※「*」が付いている役割は他のスタッフが兼務可能

4. 準備品リスト

	準備品	規格・仕様	単位	数量	担当	予算	備考
全体説明							
1	運用マニュアル		－	1式	体協		スタッフ人数分
2	受付名簿		枚	1	自主防		
毛布担架リレー							
3	毛布		枚	3	公民館		公民館避難所運営用
4	物干し竿		本	6	自主防		
5	大型模型	ダルマ落とし用	個	4	体協		人の代わりになるもの
防災グッズバケツリレー							
6	ポリバケツ		個	3	自主防		自主防備品など
7	非常持ち出し品(1)	ペットボトルの水	本	3	自主防	500円	
8	非常持ち出し品(2)	懐中電灯	個	3	自主防		自主防展示品など
9	非常持ち出し品(3)	携帯ラジオ	個	3	自主防		自主防展示品など
10	非常持ち出し品(4)	電池セット	個	3	自主防		自主防展示品など
11	非常持ち出し品(5)	ガムテープ	個	3	自主防		自主防展示品など
12	非常持ち出し品(6)	軍手	双	3	自主防		自主防展示品など
13	非常持ち出し品(7)	ウェットティッシュ	個	3	自主防		自主防展示品など
14	非常持ち出し品(8)	トイレットペーパー	個	3	自主防		自主防展示品など
15	非常持ち出し品(9)	携帯トイレ	個	3	自主防		自主防展示品など
16	非常持ち出し品(10)	ラップ	本	3	自主防		自主防展示品など
17	非常持ち出し品(11)	タオル	枚	3	自主防		自主防展示品など
18	非常持ち出し品(12)	救急セット	個	3	自主防		自主防展示品など
19	非常持ち出し品(13)	非常食	個	3	自主防	900円	カロリーメイトなど
20	非常持ち出し品(14)	モバイルバッテリー	個	3	自主防		自主防展示品など
21	非常持ち出し品(15)	ホイッスル	個	3	自主防		自主防展示品など
22	非常持ち出し品(16)	ゴミ袋	パック	3	自主防		自主防展示品など
23	ブルーシート		枚	3	自主防		自主防備品
段ボールキャタピラリレー							
24	段ボール(大)	幅1m×長さ4m	枚	3	体協	5,000円	調達する場合
25	ガムテープ		枚	1	自主防		
防災スリッパ作り							
26	新聞紙		枚	40	自主防		
避難者ジェスチャーゲーム							
27	くじボックス		個	1	自主防		
28	くじ	持出し品を記入した物	枚	1	自主防		
29	非常持ち出し品※		式	1	自主防		※バケツリレーと共用
水消火器的当てゲーム							
30	水消火器		枚	40	自主防		
31	水消火器的的	ペットボトルなど	本	3	自主防		
表彰式							
32	金メダル		個	20	体協		
						金額計	6,400円

5. 使用する資料

1) 「ぼうさい運動会」運用マニュアル

友楽タイム

ぼうさい運動会 運用マニュアル

担当 三上 2023/11/28

友楽タイム 防災うんどう会

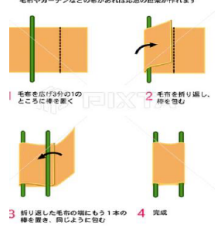
1. 目的
身体を動かしながら、防災知識を楽しく学び、自分で助かる・他人を助けることの大切さを学ぶ
2. 日時及び場所
日時: 2023年12月10日(日) 10時~12時
場所: 早稲田公民館ホール
3. 運用マニュアル 次ページ以降参照

※ 1チーム 8~10名想定
※ 消火器は牛田東第三公園で実施

1. 担架リレー

毛布とポールで担架を作り、ケガ人(人に代わるもの)を運ぶ

応急担架の作り方
被災地において人命を救うために必要不可欠な道具として、毛布やカーテンなどの身近な素材が応急の担架が作れます



- ① 担架の作り方及び競技の説明
- ② 第1グループは担架を作成重いものに乗せてパイロンを回って帰ってくる
- ③ 第2グループにチェンジ
- ④ 第2グループは担架を作成重いものに乗せてパイロンを回って帰ってゴール

詳細

1グループ...4名

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saisai/chikitaisaku/license/bousaicense.files/0038_20210428.pdf

準備物

毛布 2枚
ポール4本
パイロン2個
重いもの2個

2. バケツリレー(物資運び)

バケツに入った物資を運ぶ(水の代わり)



- ① 直線でスタート位置とゴール位置を決める
- ② スタート位置に物資を置き、バケツの中に一つ物資を入れ、リレーで運び、ゴール位置に物資を置く
- ③ 空のバケツを順に戻って行き、往復する
- ④ 物資を運び終わったらゴール


詳細

準備物

バケツ 8個
必要アイテム

3. キャタピラリレー

ダンボールで前が見えない状態でリレー



- ① 避難所エリアと支援エリアを設定し、2手に別れる
- ② 避難所エリアの人がお題カードを引き、必要物資をジェスチャーで支援エリアの人に伝える
- ③ 支援エリアの人は必要物資が分かったら物資を避難所エリアに持っていく

詳細


パイロンを回って次の人と交代

準備物

ダンボール

4. 防災スリッパづくり競争

新聞紙で作る防災スリッパをチーム全員分作って履く時間を競う



- ① スリッパの作り方説明及び競技説明
- ② スタート合図で全員スリッパを作り、全員が履き終わったら終了


詳細

準備物

新聞紙

<https://sonaeru.jp/goods/handicraft/groceries/g-9/>

5. 避難者ジェスチャーゲーム




- ① 避難所エリアと支援エリアを設定し、2手に別れる
- ② 避難所エリアの人がお題カードを引き、必要物資をジェスチャーで支援エリアの人に伝える
- ③ 支援エリアの人は必要物資が分かったら物資を避難所エリアに持っていく

詳細

準備物

救援物資アイテム
お題カード

6. 水消火器的当てゲーム



- ① 消火器の使い方及び競技説明
- ② 全員で的に向かって放水し、的を早く倒したチームが勝ち
- ③ チーム内での的は一人1個倒すと交代

詳細

準備物

水消火器
的
コンプレッサー 2個
自転車用空気入れ 2個

防災教室「防災ゲームチャレンジ！」

運動を通じて、身の回りにあるもので怪我をした人を助けたり、生活に必要な物を代用したり、災害時の行動を疑似体験したりするなど、楽しみながら防災を学びます。

実施対象：小学生、中学生
実施時間：120分
参加人数：最大12名程度

開催会場：研修室1か2
運営団体：わせだ自主防、青少協など
参加費：無料

1. 実施内容

- ① 防災すごろくゲーム「GURAGURATOWN」による地震防災の学習
- ② 「防災謎解きクイズ」によるクイズ型地震体験
- ③ 表彰式
- ④ 実施アンケート



「GURAGURATOWN」をプレイしている様子

2. 実施手順

①自己紹介（5分）

②防災ボードゲーム「GURAGURATOWN」による地震防災の学習（50分）

- ・ 防災すごろくゲーム「GURAGURATOWN」を使って、地震が起きた時に身の回りを物で様々な問題を解決する知恵を身につけます
- ・ ゲームの中でクイズとして出される地震の問題から、いつもの生活用品がどのように使えるか考える中で、災害への備えについて一緒に考えます



「GURAGURATOWN」

③「防災謎解きクイズ」によるクイズ型地震体験（50分）

- ・ 地震が起こった時の様々な場面で役立つ行動や備えについて、謎ときクイズに答えながら学びます
- ・ 謎ときクイズの内容は、広島市が発行する「たちまち防災」にヒントがあり、本を見ながら色々な知識も学びます



「たちまち防災」で謎ときクイズの回答中

④表彰式（5分）

- ・ 各ゲームでの得点により表彰式を行います

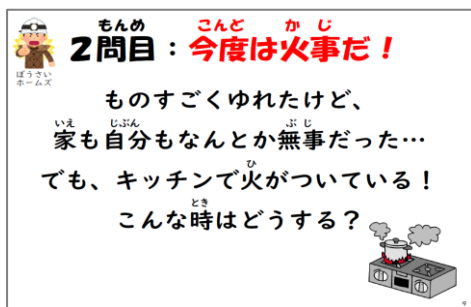
⑤実施アンケート（10分）

- ・ 参加者にアンケートで感想を確認します

3. 運営体制（6～10名）

- 1) 進行・説明担当 …… 1～2名
- 2) ゲーム運営担当 …… 4～6名
- 3) 表彰式担当 …… 1名
- 4) アンケート担当 …… 2～3名*

※「*」が付いている役割は他のスタッフが兼務可能



謎ときクイズで出す問題

4. 準備品リスト

	準備品	規格・仕様	単位	数量	担当	予算	備考
全体							
1	受付名簿		枚	1	自主防		
2	スタッフ用名札	名前印刷済み	枚	人数分	自主防		スタッフ人数分
3	参加者用名札	白紙	枚	人数分	自主防		参加者人数分
4	プロジェクター		基	1	公民館		
5	スクリーン		枚	1	公民館		
6	参加者プレゼント		個	15	自主防	3,000円	
7	飲み物	参加者・スタッフ用	本	20	自主防	3,000円	
防災ボードゲーム「GURAGURATOWN」による地震防災の学習							
8	GURAGURATOWN	ボードゲーム	個	3	自主防		
9	ゲーム説明書	GURAGURATOWN用	枚	3	自主防		
「防災謎解きクイズ」によるクイズ型地震体験							
10	謎ときクイズ問題用紙	クイズ4問	セット	人数分	自主防	200円	参加者人数分
11	冊子「たちまち防災」		冊	人数分	自主防		全員分
12	得点・回答カード	参加者用	枚	人数分	自主防	200円	参加者人数分
表彰式							
13	金メダル		枚	3	自主防	400円	
参加者アンケート							
14	実施アンケート		枚	人数分	自主防		
						金額計	6,800円

5. 使用する資料

1) 「GURAGURATOWN」の遊び方説明書

ぐ ら ぐ ら タ ウ ン GURAGURATOWN の遊び方

- ① お店の名前が書いていない「アイテムカード」を6枚もらいます。
- ② 「おつかいカード」を1枚もらい、おつかいの内容が見えないように置いておきます。
- ③ ゲームの目標は2つあり、どちらも達成しないとゴールできません。
 - 1) 「イベントアイテム役表」に書いてある**イベントの中から1つ選びます。このイベントに必要な3つのアイテムカードを集めます。**選んだイベントは途中で変えても大丈夫です。
 - 2) 「おつかいカード」に書いてある**おつかいに必要なアイテムカードを手に入れて、目的地まで届けます。**
- ④ 年が一番下のプレイヤーから時計回りで順番を進めていきます。
- ⑤ サイコロを振り、出た目以下のマスなら好きな数のマスだけ進めることができます。
- ⑥ ボードを進むときは、引き返すことはできません。道が交わるマスにきたら、引き返さない方向に進みます。
- ⑦ ▲が書いてあるお店のあるマスに止まると、お店で買い物ができます。買い物をする時は「お店ボード」から一番上のアイテムカードを引きます。カードを引いたら、1枚カードをすて、常に手元には6枚のカードがあるようにします。お店では買い物をしなくてもかまいません。
- ⑧ ▲が書いていないマスに止まったら「ハプニングカード」の1番上にあるカードを引き、カードの指示にしたがいます。
- ⑨ 「ハプニングカード」で“地震発生”のカードを引いたら、引いた人が「地震クイズード」を1枚引きクイズを出します。他のプレイヤーは、クイズの答えになると思うアイテムカードを1枚出し、なぜそのカードが答えになるか説明します。クイズカードの正解例に書いてあるアイテムカードなら自動的に正解、書いていないカードでも説明に半分以上の人が納得したら正解になります。
他のプレイヤーに賛成してもらるように説明を頑張りましょう。
正解したプレイヤーは、好きなお店から1枚アイテムカードを引けます。引いたら1枚カードを捨てて、手元のカードが6枚になるようにします。
- ⑩ アイテムカードを手に入れて、イベントに必要なアイテムカード3枚がそろったら、みんなに役が揃ったことを宣言し、カードのオモテ面を見せて自分の前にならべます。ならべたカードは他のプレイヤーがとることはできなくなります。
- ⑪ イベントに必要な3枚のカードがそろい、おつかいに必要なアイテムカードを手に入れたら、おつかいの目的地に向かい、目的地のエリアにある「ゴール」のマスに着いたらクリアになります。

2) 「謎ときクイズ」説明資料(1)

ぼうさい
防災ナゾときゲーム

じしん まち い のこ
地震の町で生き残れ!




わ せ だ まち とき
あなたは**早稲田**の町にいる時に

だいじしん
大地震におそわれた!

ち え
知恵をふりしぼってナゾときの


せいかい
クイズに**正解**し、

ぶ じ まち い のこ
無事に町で**生き残**れるか?



ぼうさいホームズ から説明

ぼうさい
防災ナゾときゲームのルール



- ① ナゾときクイズの答えを考えられる時間は6分だよ。
- ② クイズの答えがわかったら「答えシート」に答えを書き、テーブルのスタッフの人に見せよう。
- ③ **最初の2分でクイズに正解したら「3点」**もらえるよ。
- ④ 2分を過ぎたら、アドバイスとして広島市の「たちまち防災」に正解が書いてあるページを教えてもらえる。
- ⑤ アドバイスをもらって4分までに正解したら「2点」もらえるよ。
- ⑥ 4分を過ぎたら最後のヒントを出すよ。最後のヒントが出て、6分までに正解したら「1点」もらえるよ。
- ⑦ 6分以内に正解できるようにがんばろう!

ぼうさいホームズ から説明


ぼうさい
「たちまち防災」に答えがある

・謎ときクイズは、広島市の「たちまち防災」にすべて答えがのっているよ。いつ使ってもいいので、ヒントがありそうなページがあれば見てみよう。

・今日の謎ときクイズが終わったら、家に持って帰って家族の人と全部読んでみてね。

もんだい ぜんぶ もん
ナゾとき問題は全部で4問

・全問正解をめざしてがんばろう!




もんめ じしん はっせい
1問目：地震発生!

しょうがっこう やす ひ
ある**小学校**がお休みの日。

おうちでのんびりしていると、

グラグラって家がゆれはじめた!


こんな時はどうする?



もんめ
1問目 アドバイス!

「たちまち防災」の30ページに

答えがあるぞ!



もんめ さいご
1問目 最後のヒント

三角(△)は文字の一部を使うぞ。三角の向いている方に使う文字がかくされているんだ。

江 ← 三角が左に向いているから“シ”を使うね

丸はすべてを使って、+の字を組み合わせると答えの文字になるよ。


一+ノ ← “一”に“ノ”を組み合わせると“フ”になるね

もんめ
1問目 答え

「まずは身を守る」

地震のゆれがおさまった後、すぐに行動するためには自分がけがをしないことが大切だね。

地震でゆれたことに気づいてから行動できる時間は数秒から10秒ほど。すぐに身を守る行動をしよう。




もんめ こんど かじ
2問目：今度は火事だ!

ものすごくゆれたけど、

家も自分もなんとか無事だった…

でも、キッチンで火がついている!


こんな時はどうする?



もんめ
2問目 アドバイス!

「たちまち防災」の35ページに


答えがあるぞ!



もんめ さいご
2問目 最後のヒント

この問題は、文字を別の文字におきかえることで答えがわかるよ。

「魔王」は「まおう」だから、「ま」を“う”にしてみると…




もんめ
2問目 答え

「初期消火」

地震のゆれがおさまってから、火がついていることを確認したら消火器などで火を消そう。火が小さいうちに消火することを「初期消火」というよ。

火が天井まで届いてしまったらすぐに逃げて、119番で火事を知らせよう。




もんめ あんぜん ひなん
3問目：安全に避難を!

とりあえず無事だったけど、

次の地震におそわれる前に

安全な場所に避難しないとイケない!


避難に役立つものはなんだ?



もんめ
3問目 アドバイス!

「たちまち防災」の46ページに

答えがあるぞ!



もんめ さいご
3問目 最後のヒント

○の数字が何を表しているか分かったかな?

文字の順番ではなくて、“画数”に秘密があるみたいだよ。

“わし”で画数が2の文字は…


さあ、もう分かったよね!

2) 「謎ときクイズ」説明資料(2)

もんめ 3問目 答え

「わがまち防災マップ」

自宅から避難所などに避難する時に、どの道をとおれば良いか「わがまち防災マップ」で確認しよう。早稲田学区には「わせだ防災マップ」があるぞ。地震がおきる前の安全な時に、どの道で避難するか確認しておくことも大切だね。




17

もんめ 4問目 答え

「電気が使えない！」

地震も落ちついたので自宅にもどって生活することにしたいけど、電気も水道も止まってこまってしまった！

こうならないように備蓄品をそろえるためにはどうする？




18

もんめ 4問目 アドバイス！

「たちまち防災」の8ページに

答えがあるぞ！



19

もんめ 4問目 最後のヒント

キーワードに書いてあるアイテムは、「たちまち防災」の9ページのどこかに名前が書いてあるよ。


「C」のアイテムは“持病の薬”だよ。もう分かってしまったかな？

20

もんめ 4問目 答え

「ローリングストック」

備蓄品を防災のためだけにそろえておくことは、しまう場所が足りなかったりするので大変だね。だから、いつも使う物を災害の時にも使えるように、生活で使ったものを買ってためておいて、災害になった時に使うことをローリングストックというよ。



21

けっか はっぴょう 結果発表！



22

3) 「謎ときクイズ」クイズ問題

わせだ友楽タイム「目指せ！安全王」

BOUSAIナゾとき①


地震をかんじた時はどうしたら良いかな？
 問題の答えとなる言葉はなにか考えるぞ。
 ヒントを手がかりに答えを見つけよう！

問題

予 双 谷 須 二 予 毛 兄
ナ

ヒント

洋 江 冷 → ジシン
 タ 仕 一 穴 → タイフウ
ナ



わせだ友楽タイム「目指せ！安全王」

BOUSAIナゾとき②


火事をみつけた時はどうしたら良いかな？
 問題の言葉に答えがかくされているぞ。
 キーワードを使って、本当の言葉はなにか答えを見つけよう。

問題

わ き み ね わ き み ま お

キーワード

魔王、和菓子、お墓
 君が代、寝起き



わせだ友楽タイム「目指せ！安全王」

BOUSAIナゾとき③


避難をする時に役立つものは何かな？
 問題に11文字でできる言葉が答えとしてかくされているぞ。
 ヒントを手がかりに答えを見つけよう。

問題

②：わし
 ⑤：しょうがい
 ③：ひまわり
 ②：おもち
 ⑥：ごぼう
 ②：うさぎ
 ③：はっさく
 ②：もけい
 ③：とまと
 ①：あっぷるぱい
 ⑤：すこっぷ

ヒント

①：まいく
 ②：ぜんしん
 ③：れんぞく
 ②：れもん
 → **くんれん**



②：そーだ
 ④：なす
 ②：つくえ
 → **そなえ**

わせだ友楽タイム「目指せ！安全王」

BOUSAIナゾとき④

災害の時に自宅でこまらないよう備蓄品をそろえておくための知恵が問題の答えだ。
 ヒントを手がかりに答えを見つけよう。


問題

1 2 3 4 5 6 7 8 9

キーワード

A カ 8 7 4 1
 B 2 ル 5 1
 C ジ ヨ ノ 9 6 3

下のイラストにA・B・Cの言葉のアイテムがあるぞ。どれか分かるかな？



早稲田学区自主防災連絡協議会

早稲田公民館

令和8年3月